

土木局  
衛生局  
社寺局  
庶務局

第五條 縣治局長、警保局長及土木局長ハ勅任トシ衛生局長、社寺局長及庶務局長ハ奏任トス

第六條 縣治局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 議員選舉ニ關スル事項
  - 二 府縣會、府縣經濟其ノ他總テ府縣行政ニ關スル事項
  - 三 郡會、郡經濟其ノ他總テ郡ノ行政ニ關スル事項
  - 四 市町村會、公共組合會及市町村公共組合ノ經濟其ノ他總テ市町村公共組合ノ行政ニ關スル事項
  - 五 北海道ニ關スル事項
  - 六 賑恤及救濟ニ關スル事項
  - 七 府縣立以下ノ貧院、盲啞院、瘋癲院及育兒院其ノ他慈惠ノ用ニ供スル營造物ニ關スル事項
  - 八 徵兵及徵發ニ關スル事項
- 第七條 警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 行政警察ニ關スル事項
  - 二 高等警察ニ關スル事項
  - 三 監獄ニ關スル事項
  - 四 假出獄及監視假免ニ關スル事項
  - 五 圖書出版及版權登錄ニ關スル事項
  - 六 戶口及民籍ニ關スル事項
- 第八條 土木局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 本省直轄ノ土木工事ニ關スル事項
  - 二 府縣經營ノ土木工事其ノ他公共ノ土木工事ニ關スル事項
  - 三 直轄工費及府縣工費補助ノ調査ニ關スル事項
  - 四 水面埋立ニ關スル事項
- 第九條 衛生局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 傳染病及地方病ノ豫防、種痘其ノ他總テ公衆衛生ニ關スル事項
  - 二 檢疫停船ニ關スル事項
  - 三 醫師及藥劑師ノ業務並藥品賣藥取締ニ關スル事項
  - 四 衛生會及地方病院ニ關スル事項
- 第十條 社寺局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 神宮、官國幣社、招魂社、社神、神社格及古社寺保存ニ關スル事項

二 神佛各派ノ教規宗制神職僧侶教師ノ身分社寺及宗教ノ用ニ供スル堂宇ノ存廢其ノ他總テ宗教ニ關スル事項

第十一條 庶務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項

二 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

三 官有地處分並管理ニ關スル事項

四 土地收用ニ關スル事項

五 官有地地種目變換ニ關スル事項

第十二條 内務省ニ技師二人技手四人ヲ置ク

第十三條 内務省屬ハ二百四十三人ヲ以テ定員トス

附則

第十四條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○土木監督官制 明治二十三年八月勅令第五百五十七號

朕土木監督官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土木監督官制

第一條 内務省直轄ノ土木工事ヲ施行シ及地方ノ土木工事ヲ監視スル爲メ土木監督區ヲ置ク左ノ如シ

第一區

武藏 上總 下總 常陸 上野 下野 安房 相模 伊豆 駿河

甲斐 遠江 信濃ノ内

第二區

磐城 岩代ノ内 陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後

第三區

越後 岩代ノ内 越中 佐渡 能登 加賀 越前

飛驒ノ内 信濃ノ内 若狹

第四區

三河 尾張 美濃 信濃ノ内 飛驒ノ内 伊勢 志摩 伊賀 近江

山城 大和 攝津 河内 和泉 紀伊 丹波 丹後 但馬 播磨

淡路

第五區

阿波 讃岐 伊豫 土佐 備前 備中 備後 安藝 周防 長門

美作 因幡 伯耆 出雲 隱岐 石見

第六區

豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 肥後 薩摩 大隅 日向  
壹岐 對馬

第二條 土木監督區ニ土木監督署ヲ置キ内務大臣ノ管轄ニ屬シ左ノ職員ヲ置ク

署長

技師

(二十六年勅令第二百二十九號ヲ以テ技師試補ノ項ヲ削除ス)

助手

書記

第三條 監督署長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ管理シ所屬職員

ヲ統督ス

第四條 監督署長ハ部内地方ノ土木事業ヲ巡視シ利害得失ヲ精査シ之ヲ内務大臣ニ報告ス

可シ

第五條 監督署長ハ内務省直轄ノ土木事業ヲ計畫シ意見ヲ内務大臣ニ開申シ其命令ニ依リ

之ヲ施行ス可シ

第六條 監督署長ハ内務大臣ノ命令ニ依リ特ニ新設工事又ハ既成工事ノ變更等ヲ檢査スル

トキハ意見ヲ内務大臣ニ開申ス可シ

第七條 技師ハ奏任トシ二十四人ヲ以テ定員トス各監督署ニ分屬シ署長ノ指揮ヲ承ケ署務

ヲ分掌ス(二十四年勅令第四百四號以テ二十八ヲ十六ニ改メ及二十

(廿四年勅令第四百四號ヲ以テ十六ヲ十二ニ改メニ)

第八條 技師ハ判任トシ百人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス(二十四年勅令

第四百二十五

第九條 書記ハ判任トシ三十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス(二十四年

勅令第四百四十八

ヲ三十五ニ改ム)

○土木會規則 明治二十五年六月 勅令第五十二號

朕土木會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土木會規則

第一條 土木會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ治水修路築港ニ關スル重要事項ニ付内務大臣ノ諮

詢ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條 土木會ハ土木ニ關スル事項ニ付主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 土木會ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 土木會ハ會長一人委員二十人及臨時委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

内務省及鐵道廳高等官二人陸軍省及參謀本部高等官一人農商務省高等官二人海軍省遞信

省工科大学教授各一人ハ委員中ニ加フヘキモノトス

土木監督署長ハ定員ノ外委員トシテ會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第五條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官ノ内ヨリ命スヘキ委員及臨時委員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其他ノ委員及臨時委員

ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

委員ノ任期ニ三年トス但滿期ノ後再任セラレ、コトヲ得

第六條 會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其決議ヲ内務大臣及主管各省大臣ニ具申ス

第七條 會長事故アルトキハ其指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第八條 土木會ニ幹事一人ヲ置キ奏任官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第九條 會長委員臨時委員及幹事ハ無俸給トス但他ニ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニ限り一箇

年五百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十條 土木會ニ書記ヲ置ク會長幹事ノ指揮ヲ受ケ議事ノ筆記及庶務ニ従事ス

書記ハ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

○臨時橫濱築港局官制 明治二十五年六月 勅令第五十三號

朕臨時橫濱築港局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ヒシム

臨時橫濱築港局官制

第一條 臨時橫濱築港局ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ橫濱築港工事ヲ施行スルコトヲ掌ル

第二條 臨時橫濱築港局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 一人
- 次長 一人
- 技師 四人
- 屬 十四人
- 助手 十六人

第三條 局長ハ神奈川縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 局長ハ局中一切ノ事務ヲ掌理シ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具

狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第五條 局長ハ局中處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第六條 (二十六年勅令第三百三十三號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第七條 局長ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ

内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 (二十六年勅令第三百三十三號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第九條 次長ハ奏任トス局長ノ事務ヲ助ケ局長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第十條 技師ハ奏任トス局長ノ指揮ヲ承ケ築港ノ事業ヲ分掌ス

第十一條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十二條 技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ工事若クハ船舶ノ運用ニ従事ス

○臨時建築職員 明治二十六年十月  
勅令第百二十八號

朕臨時建築職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時建築ノ事務ヲ掌理セシムル爲内務省ニ左ノ職員ヲ置キ土木局ニ屬セシム

技師 三人

技手 十人

屬 六人

附則

本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○

○集治監假留監官制 明治二十六年十月  
勅令第百三十號

朕集治監假留監官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

集治監假留監官制

第一條 東京府下、宮城縣下及福岡縣下ニ集治監ヲ置ク其ノ名稱及位置ハ内務大臣之ヲ定ム

第二條 各集治監ニ左ノ職員ヲ置ク

典獄

書記

看守長

監獄醫

第三條 典獄ハ一人奏任トス内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第四條 典獄ハ部下ノ官吏ヲ監督シ判任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第五條 典獄ハ部下ノ判任官ノ懲戒ヲ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第六條 典獄事故アルトキハ上席書記其ノ職務ヲ代理ス

第七條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 看守長ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第九條 監獄醫ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ従事ス

第十條 書記、看守長及監獄醫ノ定員ハ各集治監ヲ通シテ七十人トシ其ノ各官ノ定員ハ内

務大臣之ヲ定ム

第十一條 看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十二條 事務ノ分課並處務ノ規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第十三條 假留監ハ集治監ニ附設ス

假留監ニハ別ニ其ノ職員ヲ置カス集治監ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第十四條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○造神宮使廳官制 明治二十年十二月  
勅令第六十八號  
朕造神宮使廳ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造神宮使廳官制

第一條 造神宮使廳ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ新宮造營及神寶裝束調進ノ事ヲ主掌ス

第二條 造神宮使廳ニ左ノ職員ヲ置ク

造神宮使

造神宮副使

造神宮主事

造神宮屬

第三條 造神宮使ハ一人勅任トス神宮祭主ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廳中

ノ事務ヲ管理ス

第四條 造神宮使ハ所屬ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官ハ之ヲ專

行ス

第五條 造神宮副使ハ一人奏任トス内務省社寺局長ヲ以テ之ニ充ツ造神宮使ノ事務ヲ佐ケ

造神宮使事故アルトキハ内務大臣ノ命ヲ受ケテ其事務ヲ代理ス

第六條 造神宮主事ハ一人奏任「三等以下」トス使副使ノ命ヲ承ケ新宮造營神寶裝束等調進  
ノ事務ヲ處辨ス

第七條 造神宮屬ハ判任トス上官ノ命ヲ受ケ造營ノ事務ヲ分任シ職工ヲ使役シ記録計算ヲ掌ル

○神宮職制 明治十七年五月  
内務省達

今般神宮職制別紙之通被定候條此旨相達候事

神宮職制

祭主 一員

大御手代トシテ祭祀ニ奉仕シ祭事ヲ總判スルコトヲ掌ル

官司

祭祀ニ奉仕シ諄辭ヲ奏讀シ及廳務ヲ總判スルコトヲ掌ル

權官司

掌官司ニ准ス

禰宜

御前ニ祇候シ神膳ヲ供撤シ殿内一切ノ事ヲ管シ臨時祈禱祓除ヲ爲シ及廳務ヲ處辨スル

コトヲ掌ル官司缺席スル時ハ上席ノ禰宜代理タルコトヲ得

主典

神饌ヲ調理シ大麻曆ヲ製造シ及廳中各課ノ事務ニ從事スルコトヲ掌ル  
宮掌

雜務ニ從事スルコトヲ掌ル

○神宮衛士長及衛士ニ關スル件 明治二十七年一月 勅令第五號

朕神宮衛士長衛士ニ關スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 神宮ニ左ノ職員ヲ置ク

衛士長 一人

衛士 十二人

第二條 衛士長ハ宮司ノ命ヲ承ケ衛士ヲ指揮シ神宮宮域内ノ衛仕ニ任ス

第三條 衛士ハ衛士長ノ指揮ヲ承ケ神宮宮域内ノ衛仕ニ從事ス

第四條 衛士長及衛士ハ判任官ノ待遇トス

○府社縣社以下神社ノ神職 明治二十七年二月 勅令第二十二號

朕府社縣社以下神社ノ神職ニ關スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府社縣社及郷社ニ左ノ神職ヲ置ク

社司 一人

社掌 若干人

社掌ノ員數ハ社司及氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代之ヲ議定シ北海道廳長官府縣知事ノ

認可ヲ受クヘシ

第二條 村社以下神社ニ左ノ神職ヲ置ク

社掌 若干人

社掌ノ員數ハ氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代之ヲ議定シ北海道長官府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 社司ハ社掌ヲ指揮シテ神明ニ奉任シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第四條 府社縣社及郷社ノ社掌ハ社司ノ命ヲ承ケ神明ニ奉仕シ祭祀及庶務ニ從事ス

第五條 村社以下神社ノ社掌ハ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第六條 北海道長廳官府縣知事ハ氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代ヲシテ社司及社掌ノ候補者ヲ

薦推セシメ其ノ中ヨリ之ヲ補ス

候補者ノ資格及推薦ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム

第七條 社司及社掌ハ判任官ノ待遇トス

第八條 社司社掌ノ服務及懲戒ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム

附則

第九條 本令施行ノ際祠官タル者ハ社司ニ祠掌タル者ハ社掌ニ補セラレタルモノト看做ス

○

○中央衛生會官制 明治二十三年八月 勅令第五百五十四號

朕中央衛生會官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中央衛生會官制

第一條 中央衛生會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ各省大臣ノ諮詢ニ應シ公衆衛生獸畜衛生ニ關シテ意見ヲ述ヘ及其施行方法ヲ審議ス

第二條 中央衛生會ハ各省主管事務中衛生ニ關スル事項ニ就テハ其主任大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 中央衛生會ハ衛生各般ノ事項ヲ警視總監北海道廳長官及府縣知事ニ尋問シ或ハ臨時會員ヲ各地方ニ派遣シテ檢察セシムルコトヲ得

第四條 中央衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第五條 中央衛生會ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

一 會長

二 幹事

三 委員

四 臨時委員

會長ハ勅任トス幹事ハ一人奏任トシ内務大臣奏薦宣行ス

第六條 委員ハ左ノ各官ヲ以テ之ニ充ツ

陸軍省醫務局長

海軍中央衛生會議議長

宮内省侍醫局長

帝國大學醫科大學長

警視總監

東京府知事

内務省衛生局長

内務省警保局長

内務省高等官

三人

其他醫師十五人化學家三人ヲ以委員トス(二十六年勅令第二百十五號ヲ以テ醫師十二人ヲ十五人ト改ム)

委員中醫師化學家内務省高等官及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ内務大臣及主任大臣ニ具申ス

第八條 會長事故アルトキハ開會當日ノ上席人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

第九條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケテ庶務ヲ整理ス

第十條 會長及幹事ハ他ノ官職アル者ヨリ兼任スルトキハ別ニ其俸給ヲ給セス

第十一條 中央衛生會ニ書記ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ従事ス

書記ハ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ(二十六年勅令第二百十五號ヲ以テ定員三人トシテ六字ヲ削ル)

委員中醫師及化學家ノ任期ハ四箇年トス但滿期後再任セララル、コトヲ得(二十六年勅令第二百十五號ヲ以テ本項ヲ追加ス)



○衛生試驗所官制 明治二十三年八月  
勅令第五百十五號  
朕衛生試驗所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
衛生試驗所官制

第一條 東京大阪横濱ニ衛生試驗所ヲ置ク

第二條 衛生試驗所ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ衛生上試驗ニ關スル事項ヲ取扱フ所トス

第三條 各衛生試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

(二十六年勅令第三百一十一號ヲ以テ技師試補ノ項ヲ削除ス)

技手

書記

第四條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第五條 技師ハ奏任トシ六人ヲ以テ定員トス各試驗所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ試驗ノ事務ヲ分掌ス(二十四年勅令第五百五號ヲ以テ七人ヲ六人ニ改ム)

(二十六年勅令第三百一十一號ヲ以テ本項ヲ削除ス)

第六條 技手ハ判任トシ十七人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス(二十四年勅令第三百一十一號ヲ以テ十五人ヲ十七人ニ改ム)

第七條 書記ハ判任トシ七人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス(二十四年勅令第三百一十一號ヲ以テ八人ニ改ム及二十六年勅令第五百三十一號ヲ以テ八人ヲ七人ニ改ム)

第八條 各試驗所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム



○醫術開業試驗委員組織權限 明治二十二年五月  
勅令第六十二號  
朕醫術開業試驗委員組織權限ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醫術開業試驗委員組織權限

第一條 醫術開業試驗委員ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ醫術開業試驗ヲ行フモノトス

第二條 醫術開業試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

試驗委員長

試驗委員

宮内省侍醫

陸海軍軍醫

陸海軍藥劑官

帝國大學及高等中學校教官

其他醫師齒科及理化學家

書記 内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

- 第三條 試驗委員長及試驗委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第四條 試驗委員長ハ醫術開業試驗一切ノ事務ヲ處理ス可シ
- 委員長事故アルトキハ内務大臣ヨリ委員中ニ就キ代理ヲ命スルコトアルヘシ
- 第五條 試驗委員長ハ試驗了ルノ後試驗委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタルモノニハ直ニ及第證書ヲ與フ可シ但及第證書ニハ試驗委員長試驗委員連署ス可シ
- 第六條 試驗委員長ハ試驗了ルノ後其成績ヲ内務大臣ニ報告ス可シ
- 第七條 書記ハ醫術開業試驗ノ事務ニ關シ試驗委員長ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス

○大藏省附會計事務局 會計官

沿革略記  
 ○明治元年二月五日會計事務局ヲ置キ職制ヲ定メ督正權輔正權判事等ヲ置ク  
 ○同年二月某日銅會所ヲ大阪ニ設ク○同年閏四月二十一日會計事務局ヲ廢シ會計官ヲ建テ出納用度驛遞營繕稅銀貨幣民政ノ七司ヲ管ス本官ニ正副知官事正權判官事等ヲ置キ七司ニ知司事正權判司事ヲ置ク○同年七月二十五日銅會所ヲ改テ鑛山司ト稱ス○同年八月八日民政裁判所ヲ改テ會計局トス○二年二月五日貨幣司ヲ廢シ更ニ貨幣改所ヲ京攝及兵庫長崎ニ置ク○同年三月十五日商法司ヲ廢ス○同年五月八日會計官職制并條例ヲ定メ造幣局及監督租稅出納用度營繕鑛山ノ六司ヲ管ス○同年五月十六日外國官所屬通商司ヲ會計官ニ屬ス○同年六月二十一日通商司ヲ東京大阪及神奈川ニ置ク○同年七月八日會計官ヲ廢シ大藏省ヲ置キ造幣寮及出納用度租稅監督通商鑛山營繕ノ七司ヲ管シ本省ニ卿大少輔正權大少丞大少錄等ヲ置キ寮ニ正權頭

正權助正權允等各司ニ正權正正權佐等ヲ置キ職制ヲ定ム○同年八月十一日租稅監督通商鑛山ノ四司ヲ民政部ニ屬ス○同年同月十二日民政部大藏兩省ヲ合併ス○同年同月二十日官位相當ヲ改定ス○三年五月二十日大阪理學所ヲ管ス○同年七月十日民政部大藏兩省ヲ分テ大藏省ニ出納用度營繕造幣租稅監督ノ六司及度量衡改正掛ヲ管セシム○同年同月二十二日民政部通商司ヲ大藏省ニ屬ス○同年八月九日民政部大藏兩省ノ事務ヲ劃定ス是日造幣司ヲ廢ト爲ス○同年同月十八日大阪理學所ヲ大學ニ屬ス○四年七月五日通商司ヲ廢ス○同年同月二十七日監督用度租稅ノ三司ヲ廢シ更ニ租稅寮及勸業統計紙幣戶籍驛遞ノ五司ヲ置ク○同年八月十日造幣租稅戶籍營繕紙幣出納統計檢査記錄驛遞勸業ノ十一寮及正算司ヲ改置シ本省ニ卿大少輔大少丞等ヲ置キ寮ニ正權頭助等ヲ置キ司ニ正權正等ヲ置キ官制等給ヲ定ム○同年同月二十三日勸業寮ヲ勸農寮ト改稱ス○同年同月二十八日各開港開市場ノ稅務ヲ管ス○同年九月十四日聽訟事務ヲ司法省ニ屬ス○同年十月八日營繕寮ヲ廢シ工部省土木寮ヘ合併シ大藏省ノ管轄トス○五年五月第十六號ヲ以テ官等ヲ改定シ省中ニ造幣租稅一寮戶籍土木紙幣出納統計檢査二寮驛遞勸業三寮ノ十一寮及正算司等ヲ置ク○同年六月第八十四號ヲ以テ驛遞寮ヲ二等寮ト定ム○同年十月第三百一號ヲ以テ勸農寮及正算司ヲ廢ス○六年一月八日稅關監吏課ヲ設ケ監吏等級ヲ定ム○同年二月七日土木寮藝員等級ヲ定ム○同年七月第二十四號ヲ以テ國債寮ヲ置キ二等寮ト爲ス○同年八月第三百二號ヲ以テ郵便取扱役ヲ置キ等級ヲ定ム○同年十月第三百五十八號ヲ以テ記錄寮ヲ二等寮ト定ム○同年十一月第三百六十九號ヲ以テ郵便取扱役中等級ヲ加フ○同年十二月五日海軍省所轄橫濱製鐵所ヲ大藏省ニ管轄セシム○七年一月九日戶籍土木驛遞ノ三寮及租稅寮中地理勸農ノ事務内務省ニ屬ス○同年同月十九日稅關職制ヲ定ム○同年五月十三日築地稅關及品川尋問所ノ事務ヲ管ス○同年同月十八日稅關司長副司長ヲ改テ稅關長副長トス○同年七月五日築地稅關ヲ橫濱稅關出張所ト改稱シ品川尋問所ヲ監吏出張所ト改稱ス○同年九月十五日租稅寮出張所ヲ東京萬世橋ニ設ク○八年三月第三十八號達ヲ以テ内務大藏兩省間ニ地租改正事務局ヲ置ク○同年八月十日稅關監吏出張所ヲ長州下ノ關ニ設ク○同年同月十五日開拓使函館稅關事務ヲ管ス○同年同月二十四日橫濱

税關築地出張所ヲ租稅寮出張所ト改稱シ並品川監吏出張所ヲ廢シ其事務ヲ東京府ニ屬ス○同年九月第五十六號達ヲ以テ正院印書局ヲ紙幣寮ニ屬ス○同年同月第五十七號達ヲ以テ陸前國仙臺豐前國小倉へ出納寮出張所ヲ置ク○同年同月第六十五號達ヲ以テ造幣寮技術等級ヲ定メ大中少技監技師技手技生ト爲ス○同年同月二十一日新瀉税關事務ヲ管ス○同年十月十四日佐渡國夷港税關事務ヲ管シ新瀉税關出張所ト稱ス○同年同月二十五日大阪紙幣寮出張所ヲ廢ス○同年同月三十一日抄紙局ヲ王子村ニ設ク○同年同月第八十八號達ヲ以テ出納寮ニ納金局ヲ置ク○同年十一月二十五日大藏省職制並事務章程ヲ改正ス○同年十二月第十七號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ改定シ租稅造幣紙幣出納統計檢査國債記録並ニ八寮ニ支分シ職員ヲ卿大少輔正權大少丞正權大中少錄ト爲ス○九年二月第二十三號達ヲ以テ出納寮中納金局ヲ現金納拂局ト改稱ス○同年九月第九十一號達ヲ以テ小倉出納寮出張所ヲ長崎へ移ス○同年十二月第十六號達ヲ以テ職制中ヲ改正ス○十年一月第三號達ヲ以テ各省中諸寮及正權大少丞以下ヲ廢シ更ニ正權大少書記官屬一等ヨリ十等ニ至ルヲ置ク○同年同月第四號達ヲ以テ文官四等以下等給ヲ改メ官等ヲ十七等ニ分ツ○同年同月大藏省乙第四號達ヲ以テ租稅關稅檢査國債出納造幣紙幣常平記録ノ九局ヲ置ク○同年二月大藏省乙第六號達ヲ以テ大阪仙臺長崎出納寮出張所ヲ出納局出張所ト改稱ス○同年同月第二十三號達ヲ以テ造幣局技術等級ヲ定ム○同年五月第四十三號達ヲ以テ監吏九等監吏補四等ヲ置キ官等月俸ヲ定ム○十一年六月大藏省乙第七號達ヲ以テ常平局ヲ置ク○同年十月第四十四號達ヲ以テ監定役ヲ置キ官等月俸ヲ定ム○同年十二月第四十九號達ヲ以テ一等監吏補以下ノ官等ヲ改正ス○同年同月大藏省乙第六十五號達ヲ以テ紙幣局ヲ改テ印刷局トス○同年同月內務省乙第九十三號達ヲ以テ內務省管理勸商事務大藏省ニ屬ス○十二年一月大藏省乙第一號達ヲ以テ商務局ヲ置ク○同年十二月大藏省乙第三十七號達ヲ以テ大阪廣島熊本名古屋ノ五ヶ所ニ租稅局出張所ヲ置ク○同年同月大藏省乙第四十六號達ヲ以テ議案課ヲ廢シ更ニ書記議案ノ二局ヲ置ク○十三年三月第十八號達ヲ以テ檢査局ヲ廢ス○同年同月大藏省乙第十五號達ヲ以テ精算局ヲ置ク○同年五月大藏省乙第二十號達ヲ以テ銀行課ヲ廢シ銀行局ヲ置ク○同年六月大藏省乙

第廿五號達ヲ以テ精算局ヲ調查局ト改稱ス○同年十二月第六十號達ヲ以テ大藏省職制並事務章程ヲ改正シ書記議案租稅商務國債出納造幣印刷常平記録調查銀行ノ十三局ト爲ス○十四年四月第二十六號達ヲ以テ商務局農商務省ノ管理ニ屬ス○同年五月第四十三號達ヲ以テ仙臺長崎出納局出張所ヲ廢ス○同年六月第五十七號達ヲ以テ會計局ヲ置ク○同年同月第五十九號達ヲ以テ地租改正事務局ヲ廢シ殘務大藏省ノ管理ニ屬ス○同年七月大藏省乙第十二號達ヲ以テ國債局大阪支局ヲ廢ス○同年八月第七十五號達ヲ以テ租稅局出張所ヲ東京大阪名古屋廣島熊本仙臺ノ外更ニ十四ヶ所ヲ増置ス○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム○十五年五月大藏省第十二號達ヲ以テ租稅局出張所ヲ東京箱崎町ニ増置ス○同年同月第三十號達ヲ以テ技術等級ヲ更定ス○同年十一月大藏省第四十三號達ヲ以テ常平局ヲ廢シ庶務局ヲ置ク○十六年三月大藏省第十號達ヲ以テ東京箱崎町租稅局出張所ヲ廢ス○同年五月第二十四號達ヲ以テ福井租稅局出張所ヲ金澤ニ移シ名稱ヲ改メ盛岡青森兩出張所ヲ廢シ更ニ四ヶ所ニ増置ス○十七年一月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス○同年五月八日大藏省號外達ヲ以テ庶務局ヲ廢ス○同年同月二十日主稅官ヲ置キ職制ヲ定メ監吏監吏補ヲ廢シ大藏省第三十二號達ヲ以テ主稅局ヲ置キ租稅關稅兩局并各地租稅局出張所ヲ廢ス○同年五月第四十九號達ヲ以テ職制中卿職制第二項ヲ改定ス○同年六月第五十八號達ヲ以テ監定役ヲ主稅監定役ト監定見習ヲ主稅監定見習ト改稱ス○十八年十一月第六十九號達ヲ以テ各省卿職制ヲ廢シ更ニ大藏大臣ヲ置ク○十九年一月第一號達ヲ以テ三池佐渡生野鐵山ノ事務大藏省ニ屬ス○同年同月大藏省第三號達ヲ以テ官房及金庫局ヲ置キ職案局ヲ主計局ト改稱ス○同年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム○同年三月勅令第七號ヲ以テ稅關官制ヲ定ム○同年四月勅令第十七號ヲ以テ造幣局印刷局官制ヲ定ム○同年同月閣令第六號ヲ以テ三池佐渡生野ノ三鐵山局官制ヲ定ム○二十年十二月勅令第六十號ヲ以テ造幣局官制ヲ改正ス○同年同月勅令第六十九號ヲ以テ稅關官制中ヲ改正追加ス○同年同月勅令第七十號ヲ以テ稅關監定官監定吏ノ官等俸給ヲ定ム○二十二年三月閣令第十三號ヲ以テ佐渡生野兩鐵山局官制ヲ廢ス○二十三年六月勅令第六十六號ヲ以テ大藏省官制ヲ改正ス○同年七

月勅令第四百十號ヲ以テ造幣局官制ヲ改正ス○同年七月勅令第四百一十一號ヲ以テ印刷局官制ヲ改正ス○同年同月勅令第四百一十二號ヲ以テ税關官制ヲ改正ス○二十四年七月勅令第八十九號ヲ以テ大藏省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第四百二十一號ヲ以テ造幣局官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第四百二十二號ヲ以テ印刷局官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第四百二十三號ヲ以テ税關官制中ヲ改正ス○二十六年十月勅令第四百十三號ヲ以テ貨幣制度調查會規則ヲ定ム○同年同月勅令第三百三十五號ヲ以テ大藏省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第三百三十六號ヲ以テ造幣局官制ヲ改正ス○同年同月勅令第三百三十七號ヲ以テ印刷局官制ヲ改正ス○同年同月勅令第四百十八號ヲ以テ税關官制ヲ改正ス○同年同月勅令第四百四十號ヲ以テ廣島鑛山官制ヲ定ム

○大藏省官制 明治二十六年十月  
勅令第三百三十五號

朕大藏省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大藏省官制

- 第一條 大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣郡市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス
- 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル
- 一 銀行ニ關スル事項
  - 二 貨幣ニ關スル事項
  - 三 保護鐵道會社ノ會計監督ニ關スル事項

四 印紙類ノ出納保管ニ關スル事項

第三條 大藏省專任參事官ハ三人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス

第四條 大藏省ニ左ノ三局ヲ置ク

主計局

主稅局

國債局

第五條 主計局長及主稅局長ハ勅任トシ國債局長ハ奏任トス

第六條 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 總豫算總決算ニ關スル事項
- 二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
- 三 仕拂豫算ニ關スル事項
- 四 國庫簿ノ登記ニ關スル事項
- 五 歲入歲出現計書ノ調製ニ關スル事項
- 六 豫備金支出ニ關スル事項
- 七 定額繰越ノ承認及定額戻入年度開始前支出ニ關スル事項
- 八 收入支出ノ科目ニ關スル事項
- 九 國庫ノ出納管理監督ニ關スル事項
- 十 國庫ノ出納計算書ニ關スル事項

- 十一 出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
- 十二 物品會計ニ關スル事項
- 十三 預金、保管物及供託物ニ關スル事項

第七條 主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
  - 二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
  - 三 民有地地種目變換ニ關スル事項
  - 四 土地臺帳ニ關スル事項
  - 五 稅關輸出入ノ狀況調査ニ關スル事項
  - 六 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
  - 七 大藏省所管稅外諸收入ニ關スル事項
  - 八 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項
- 第八條 國債局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國債ノ募集借入及償還ニ關スル事項
  - 二 國債簿ノ登記ニ關スル事項
  - 三 紙幣、國債證券、大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
  - 四 紙幣、國債證券及大藏省證券用紙ノ出納保管ニ關スル事項
  - 五 國債計算書ノ調製ニ關スル事項

- 六 年金、恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
- 七 國債元利金、國債取扱手数料、年金、恩給及諸祿ノ仕拂豫算ニ關スル事項
- 八 國債費ノ仕拂命令調製ニ關スル事項
- 九 備荒儲蓄金ニ關スル事項
- 十 國債、恩給及諸祿計算書ノ下検査ニ關スル事項
- 十一 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ公債ニ關スル事項
- 第九條 大藏省ニ主計官三人主稅官三人技師一人ヲ置ク奏任トス主計官ハ主計局ニ主稅官ハ主稅局ニ技師ハ大臣官房ニ屬シテ其ノ事務ヲ掌ル
- 第十條 大藏省屬ハ二百六十三人ヲ以テ定員トス

附則

第十一條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○府縣稅務監查規則十九年四月大藏省令第十三號  
府縣稅務監查規則左ノ通相定ム

府縣稅務監查規則

- 第一條 府縣ノ稅務ハ時々主稅官ヲ派出シテ之ヲ監查セシム
- 第二條 主稅官ハ左ノ件々ニ就キ各府縣ノ稅務ヲ監查スルモノトス
  - 各種內國稅
  - 印紙類賣捌方及取扱方
  - 検査區畫
  - 検査員配置計畫及検査事務取扱方

内國稅徵收費支辨ノ實況  
 稅務諸帳簿ノ整否  
 收稅事務取扱ノ得失  
 第三條 主稅官ハ府縣ノ稅務ニ關シ意見アルトキハ直チニ府知事縣令ニ協議ヲ爲スコトヲ得

第四條 監査上時宜ニ依リ郡區役所及ヒ戶長役場ニ就キ稅務ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第五條 府縣廳ニ於テ協議ヲ遂ケタル事項及ヒ監査上ノ實況ハ之ヲ大藏大臣ニ具申スルモノトス

○造幣局官制 明治二十六年十月

朕造幣局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造幣局官制

第一條 造幣局ハ大阪市ニ置キ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣ノ鑄造、舊貨幣ノ鑄潰、賞牌ノ製造、地金銀ノ精製分析及諸鑛物ノ試験ヲ掌ル

第二條 造幣局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 一人 奏任
- 技師 四人
- 屬 二十人 判任
- 技手 二十一人

第三條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ監理ス

第五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

第七條 東京市ニ造幣支局ヲ置キ地金ノ買入及代リ貨幣拂渡ノ事務ヲ分掌セシム

造幣支局長ハ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○印刷局官制 明治二十六年十月

朕印刷局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印刷局官制

第一條 印刷局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ兌換銀行券、印紙、郵便切手、諸證券類ノ製造並諸印刷及抄紙ノ事ヲ掌ル

第二條 印刷局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 一人 奏任
- 技師 三人
- 屬 三十四人 判任
- 技手 六十人

第三條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ監理ス  
 第五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス  
 第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス

附則

第七條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○税關官制 明治二十六年十月  
 勅令第三百三十八號

朕税關官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

税關官制

第一條 税關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル  
 一 各開港ニ於ケル西洋形船舶及外國通航ノ日本形船舶ノ出入ニ關スル事項  
 二 貨物ノ輸出入ニ關スル事項  
 三 各開港外ニ於ケル外國貿易取締ニ關スル事項  
 四 各開港外ニ於ケル輸出入貨物搭載ノ船舶出入ニ關スル事項  
 五 海關稅及稅外諸收入ノ徵收ニ關スル事項  
 六 税關管理ノ倉庫ニ關スル事項  
 第二條 左ノ六港ニ税關ヲ置ク  
 武藏國横濱

第二十六年勅令  
 第三百三十八號  
 朕以テ税關官制  
 及テ改定スル  
 事ニ付  
 茲ニ之ヲ公布セシム

攝津國神戸  
 攝津國大阪  
 肥前國長崎  
 渡島國函館  
 越後國新潟

第三條 前條税關ノ外税關ノ事務ヲ行フヘキ場所ニ税關出張所ヲ配置ス其ノ配置ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 各税關ニ税關長一人ヲ置ク奏任トス  
 大阪税關長ハ神戸税關長、新潟税關長ハ新潟縣收稅長ヲシテ之ヲ兼ネシム

第五條 各税關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

鑑定官	二人	奏任
屬	百七十人	判任
鑑定吏	十二人	判任
監吏	二十四人	判任
監吏補	二百七十四人	判任

第六條 税關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ税關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス  
 第七條 鑑定官ハ税關長ノ指揮監督ヲ承ケ貨物検査鑑定ノ事ヲ掌理ス  
 第八條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス  
 第九條 鑑定吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物検査鑑定ニ従事ス

第十條 監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ密商脱税ノ監視ニ従事ス  
第十一條 監吏補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏ノ事務ヲ助ク

附則

第十二條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○

○廣島鑛山官制 明治二十六年十月 勅令第四百十號

朕廣島鑛山官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

廣島鑛山官制

第一條 廣島鑛山ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ廣島鑛山ノ事業經營ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 廣島鑛山ニ左ノ職員ヲ置ク

管理長

理事

技師

技手

第三條 管理長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廣島鑛山一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 理事ハ管理長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌ル

第五條 管理長ハ廣島縣知事、理事ハ廣島縣書記官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 技師ハ一人ヲ以テ定員トス管理長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ監理ス

第七條 技手ハ十二人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス

附則

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○

○貨幣制度調査會規則 明治二十六年十月 勅令第四百十三號

朕貨幣制度調査會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣制度調査會規則

第一條 貨幣制度調査會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ調査審議ス

一 近時金銀價格變動ノ原因及其ノ一般ノ結果

一 近時金銀價格變動ノ我邦經濟上ニ及ホス影響

一 近時金銀價格ノ變動ハ我邦現行貨幣制度ヲ改正スヘキ必要アルヤ否若シ其ノ必要アリ

トスルトキハ新ニ採用スヘキ貨幣本位並其ノ施行方法

第二條 貨幣制度調査會ハ左ノ人員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 會長 一人

一 副會長 一人

一 委員 二十人

第三條 會長副會長及委員ハ高等行政官帝國大學教授帝國議會議員其ノ他通貨ニ關シ學識

經驗アル者ノ中ヨリ選定シ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 貨幣制度調査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ大藏大臣之ヲ定ム



- 第五條 會長ハ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ大藏大臣ニ具申ス  
會長事故アルトキハ副會長ヲシテ事務ヲ代理セシム
- 第六條 貨幣制度調査會ニ幹事ヲ置キ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ  
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケテ庶務ヲ整理ス
- 第七條 貨幣制度調査會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス
- 第八條 會長副會長委員幹事及書記ニハ一箇年三百圓以下ノ手當ヲ給スルコトヲ得

○軍事參議官條例 明治二十六年五月 勅令第三十五號

朕軍事參議官條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍事參議官條例

- 第一條 軍事參議官ハ之ヲ帷幄ノ中ニ置キ軍事ニ關スル機務ニ參議セシム
- 第二條 軍事參議官ハ左ノ如シ  
陸軍大臣  
海軍大臣  
參謀總長  
監軍  
海軍軍令部長

第三條 凡ソ事陸海兩軍ニ關スルモノハ各參議官ヲシテ其議ニ參セシメ陸軍ノミニ關スル

モノハ陸軍大臣參謀總長監軍海軍ノミニ關スルモノハ海軍大臣海軍軍令部長ヲシテ其議ニ參セシム

○戰時大本營條例 明治二十六年五月 勅令第五十二號

朕戰時大本營條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

戰時大本營條例

- 第一條 天皇ノ大蠶下ニ最高ノ統帥部ヲ置キ之ヲ大本營ト稱ス
- 第二條 大本營ニ在テ帷幄ノ機密ニ參與シ帝國陸海軍ノ大作戰ヲ計畫スルハ參謀總長ノ任トス
- 第三條 幕僚ハ陸海軍將校ヲ以テ組織シ其人員ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第四條 大本營ニハ各機關ノ高等部ヲ置キ大作戰ノ計畫ニ基キ其事務ヲ統理セシム

○陸軍省

沿革略記 明治五年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ陸軍省ヲ置ク○同年同月晦日  
陸軍武官及兵學軍醫ノ二寮ヲ置キ兵部省ノ三司ヲ管ス○同年三月第八十六號  
達ヲ以テ御親兵ヲ廢シ近衛兵ヲ置キ條例ヲ定ム○同年四月廿四日陸軍省達ヲ以  
テ諸寮司局並會計監督條例ヲ定ム○同年同月第十八號ヲ以テ糾問司ヲ廢シ更ニ  
陸軍裁判所ヲ置キ長正權評事參坐大中小少主理大中小少錄事等ノ職員ヲ置キ等級ヲ定  
ム○六年三月十二日陸軍省職制并條例ヲ定ム○同年同月第十三號ヲ以テ陸軍省  
職制ヲ改定シ卿官房及七局ヲ置キ職員ヲ定ム○同年五月第五十四號ヲ以テ武官

官等ヲ改定ス○同年同月第五百五十七號ヲ以テ中少尉ヲ奏任官トシ等級舊ニ依ル○  
 同年同月第六十號ヲ以テ武官官等表の中軍醫部ノ官名ヲ改ム○同年同月十五日武  
 官表ヲ定ム○同年同月第七十二號ヲ以テ軍醫寮ヲ廢ス○同年同月廿四日陸軍省  
 達ヲ以テ大中少尉准心得等ヲ廢シ更ニ少尉試補ヲ置キ判任官ト爲ス○同年七月十  
 五日陸軍省無號達ヲ以テ剛吠隊諸官員ノ等級表ヲ制定ス○同年同月第二百九十七號  
 ヲ以テ裁判所ノ監獄書記ノ兩官ヲ廢ス○同年十一月十四日軍醫部中ニ軍醫試補ヲ  
 置ク○同年同月第三百九十四號ヲ以テ會計軍醫馬醫部ノ中少尉相當官ノ者ヲ奏任  
 トス○七年二月陸軍省第七十一號達ヲ以テ馬醫部中ニ馬醫試補ヲ置ク○同年十月  
 陸軍省第三百六十七號達ヲ以テ會計部ニ軍吏試補ヲ置ク○同年十一月第百廿一號  
 布告ヲ以テ武官表ヲ改定ス○八年二月第十二號布告ヲ以テ造兵武庫ノ二司ヲ廢ス  
 ○同年五月陸軍省第三百三十八號達ヲ以テ戶山學校幼年學校ヲ本省ノ直轄トス○同  
 年九月第四百五十五號達ヲ以テ武官表ヲ改正ス○九年一月第一號達ヲ以テ陸軍省職  
 制及事務章程ヲ更定ス○十年一月第三號達ヲ以テ諸寮并大少丞以下ヲ廢シ更ニ書  
 記官屬官ヲ置キ等級ヲ定ム○同年同月第四號達ヲ以テ四等官以下ノ等級ヲ改定ス  
 ○同年同月第十五號達ヲ以テ陸軍裁判長以下ノ官等ヲ定ム○同年二月十六日陸軍  
 省號外達ヲ以テ電信取扱所ヲ置キ第一局ニ屬ス○十一年三月陸軍省乙第三十四號  
 達ヲ以テ少尉試補會計軍吏試補軍醫試補馬醫試補ヲ十等官相當准士官上席ト定ム  
 ○同年十二月第五十號達ヲ以テ參謀本部ヲ置キ條例ヲ同部ヘ達ス○同年同月第五  
 十一號達ヲ以テ參謀本部ニ參謀本部長次長ヲ置ク○同年同月第五十二號達ヲ以テ  
 監軍本部ヲ置キ條例ヲ同部ヘ達ス○十二年十月第三十九號達ヲ以テ陸軍職制ヲ定  
 メ陸軍省職制事務章程并ニ陸軍武官官等ヲ改正ス○同年同月陸軍省乙第八十三號達  
 ヲ以テ陸軍軍醫本部ヲ置キ陸軍本病院ヲ管ス○十三年一月第一號達ヲ以テ軍用電  
 信技手ヲ置キ等級ヲ定ム○同年四月十四日參謀本部條例中ヲ改正ス○同年十一月二  
 十五日參謀本部條例中ヲ改正追加ス○同年十二月第六十號達ヲ以テ陸軍職制事務  
 章程中ヲ改正ス○同年同月廿七日監軍本部條例中ヲ改正ス○十四年一月第四號達  
 ヲ以テ陸軍部内ニ憲兵ヲ置ク○同年五月第三十九號達ヲ以テ陸軍職制陸軍省職制  
 事務章程中ヲ改正ス○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ各省

事務章程通則ヲ定ム○十五年一月十六日參謀本部條例中ヲ改正追加ス○同年二月  
 二十五日參謀本部條例中ヲ改正ス○同年五月第二十三號達ヲ以テ省中理事事務補  
 審事務補錄事ヲ置キ官等俸給ヲ定ム○同年七月陸軍省乙第五十一號達ヲ以テ陸  
 軍臨時建築署條例ヲ定ム○同年九月第五十七號達ヲ以テ陸軍裁判所ヲ廢ス○十六  
 年五月第二十一號達ヲ以テ陸軍武官官等表ヲ改ム○十七年一月第十四號達ヲ以テ  
 諸省事務章程通則第十條ヲ改正シ又七軍管區域ヲ改ム○同年五月十四日陸軍下士官  
 等ヲ改正ス○十八年二月第六號達ヲ以テ陸軍武官官等表の中軍醫部上長官士官及馬  
 醫部上長官以下ヲ改正ス○同年五月第十七號達ヲ以テ陸軍武官官等屯田兵ノ項ヲ  
 設テ軍樂長ノ等級ヲ改ム○十八年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿職制ヲ廢シ更  
 ニ陸軍大臣ヲ置ク○十九年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム○同年三月勅令第四號  
 ヲ以テ武官官等表ヲ改定ス○同年同月十八日勅令ヲ以テ參謀本部條例ヲ改正ス○  
 同年四月勅令第三十七號ヲ以テ武官官等ヲ更定ス○同年七月閣令第二十七號ヲ以  
 テ監軍本部ヲ廢ス○同年十月勅令第六十八號ヲ以テ陸軍諸學校ニ文官教員ヲ置ク  
 ○同年同月勅令第七十六號ヲ以テ臨時砲臺建築部官制ヲ定ム○二十年五月勅令第  
 十八號ヲ以テ監軍部條例ヲ定ム○同年同月勅令第十九號ヲ以テ陸軍省官制ヲ改正  
 ス○同年同月勅令第二十號ヲ以テ軍事參議官條例ヲ定ム○同年六月勅令第二十五  
 號ヲ以テ陸軍士官學校官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十六號ヲ以テ陸軍幼年學校  
 官制ヲ定ム○同年十月勅令第五十三號ヲ以テ陸軍大學校條例ヲ定ム○同年同月勅  
 令五十四號ヲ以テ陸軍戶山學校條例ヲ定ム○同年十二月勅令第七十一號ヲ以テ陸  
 軍砲兵射的學校條例ヲ定ム○同年同月勅令第八十一號ヲ以テ陸軍將校生徒試驗委  
 員條例ヲ定ム○二十一年二月勅令第四號ヲ以テ陸軍大學校條例第二條ヲ改正ス○  
 同年同月勅令第五號ヲ以テ陸軍戶山學校條例第三條ヲ改正ス○同年三月勅令第十  
 三號ヲ以テ陸軍乘馬學校條例ヲ定ム○同年同月勅令第十五號ヲ以テ軍馬育成所官  
 制ヲ定ム○同年五月勅令第二十四號ヲ以テ參謀本部條例ヲ廢シ參軍官制ヲ定ム○  
 同年同月勅令第二十五號ヲ以テ陸軍參謀本部條例陸軍參謀職制陸地測量部條例ヲ定  
 ム○同年同月勅令第三十四號ヲ以テ陸軍大學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第  
 三十六號ヲ以テ軍醫部條例中ヲ改正ス○同年六月勅令第四十八號ヲ以テ武官官等

表中ヲ改正ス○同年同月勅令第五十號ヲ以テ陸軍重症病馬治療所官制ヲ定ム○同年七月勅令第五十二號ヲ以テ千住製絨所官制ヲ改正シ該所ヲ陸軍大臣ノ管理ニ屬ス○同年十一月勅令第七十七號ヲ以テ陸軍省法官部官制ヲ定ム○二十二年二月勅令第二十號ヲ以テ戸山學校條例中ヲ改正ス○同年三月勅令第廿五號ヲ以テ參軍官制陸軍參謀本部條例ヲ廢シ更ニ參謀本部條例ヲ定ム○同年同月勅令第廿六號ヲ以テ陸軍參謀職制中ヲ改正ス○同年同月勅令第二十七號ヲ以テ陸軍大學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二十八號ヲ以テ陸地測量部條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第三十四號ヲ以テ陸地測量官々制ヲ定ム○同年四月勅令第四十五號ヲ以テ陸地測量部條例中ヲ改正ス○同年五月勅令第六十六號ヲ以テ陸軍砲兵射的學校條例中ヲ改正ス○同年六月勅令第七十六號ヲ以テ陸軍砲工學校條例ヲ定ム○同年同月勅令第八十一號ヲ以テ陸軍士官學校官制ヲ廢止シ陸軍士官學校條例ヲ定ム○同年同月勅令第八十二號ヲ以テ陸軍幼年學校官制ヲ廢止シ陸軍幼年學校條例ヲ定ム○同年十一月勅令第百十七號ヲ以テ戸山學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第百十九號ヲ以テ參謀職制中ヲ追加ス○同年十二月勅令第百二十七號ヲ以テ陸軍重症病馬治療所官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第百三十八號ヲ以テ東宮武官官制ヲ定ム○二十三年三月勅令第十九號ヲ以テ參謀本部條例中ニ追加ス○同年同月勅令第三十號ヲ以テ陸軍被服工長學舍條例ヲ定ム○同年同月勅令第三十九號ヲ以テ工兵會議條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第四十七號ヲ以テ陸軍教導團條例ヲ定ム○同年同月勅令第五十一號ヲ以テ陸軍省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第五十六號ヲ以テ近衛師團監督部條例ヲ定ム○同年同月勅令第五十七號ヲ以テ陸軍司計部條例ヲ定ム○同年同月勅令第五十八號ヲ以テ陸軍被服廠條例ヲ定ム○同年同月勅令第五十九號ヲ以テ陸軍經營部條例ヲ定ム○同年五月勅令第六十一號ヲ以テ軍馬育成所官制ヲ改正ス○同年同月勅令第七十八號ヲ以テ監軍部條例中ヲ改正ス○同年六月勅令第八十九號ヲ以テ陸軍編修官官制ヲ定ム○同年五月勅令第九十五號ヲ以テ參謀本部條例中ヲ改正ス○同年七月勅令第百二十號ヲ以テ陸軍砲兵工科學舍條例ヲ定ム○同年同月勅令第百三十七號ヲ以テ陸軍軍學舍條例ヲ改正ス○同年八月勅令第百六十三號ヲ以テ監軍部條例第六條中ヲ改正ス○同年同月勅令第百七十七號ヲ以テ陸軍被服

工長學舍條例中ヲ改正ス○同年九月勅令第二百十號ヲ以テ監軍部條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百一十一號ヲ以テ砲兵會議條例第一條中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百二十二號ヲ以テ陸軍砲兵學校條例中ヲ改正ス○同年十月勅令第二百二十三號ヲ以テ千住製絨所官制ヲ改正ス○同年同月勅令第二百三十號ヲ以テ陸軍蹄鐵學舍條例中ヲ改正ス○同年十一月勅令第二百六十五號ヲ以テ陸軍經理學校條例ヲ定ム○同年十二月勅令第二百七十九號ヲ以テ參謀本部條例第二條中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百八十號ヲ以テ監軍部條例第二條中ヲ改正ス○二十四年二月勅令第十號ヲ以テ陸軍乘馬學校條例中ヲ改正ス○同年六月勅令第五十六號ヲ以テ砲兵會議條例ヲ改正ス○同年同月勅令第五十七號ヲ以テ工兵會議條例ヲ改正ス○同年七月勅令第九十號ヲ以テ陸軍省官制中ヲ改正ス○同年八月勅令第六十七號ヲ以テ戸山學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第七十一號ヲ以テ陸軍大學校條例ヲ改正ス○同年同月勅令第七十五號ヲ以テ陸地測量部條例ヲ改正ス○同年九月勅令第百八十九號ヲ以テ陸地測量部條例中ニ附則ヲ追加ス○同年十一月勅令第二百九號ヲ以テ砲兵工廠條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百十九號ヲ以テ陸軍醫學學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百二十一號ヲ以テ陸軍被服工長學舍條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百二十四號ヲ以テ砲工學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百二十五號ヲ以テ士官學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百二十七號ヲ以テ戸山學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百二十八號ヲ以テ陸軍乘馬學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百二十九號ヲ以テ陸軍砲兵射的學校條例中ヲ改正ス○二十五年一月勅令第一號ヲ以テ近衛師團監督部條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二號ヲ以テ陸軍經營部條例中ヲ改正ス○同年三月勅令第二十一號ヲ以テ陸軍將校生徒試驗委員條例ヲ改正ス○同年同月勅令第九十九號ヲ以テ陸軍將校生徒試驗委員條例ヲ改正ス○同年同月勅令第百號ヲ以テ陸地測量部條例中ヲ追加ス○同年十二月勅令第百七號ヲ以テ砲兵工科學舍條例中ヲ改正ス○二十六年五月勅令第百二十六號ヲ以テ陸軍獸醫學學校條例ヲ制定シ同時ニ陸軍蹄鐵學舍條例及陸軍重症病馬治療所官制ヲ廢止ス○

○同年同月勅令第二十七號ヲ以テ軍馬補充署條例ヲ定メ尋テ軍馬育成所官制ヲ廢止ス同年同月勅令第三十一號ヲ以テ陸軍乘馬學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第三十二號ヲ以テ陸軍砲兵射的學校條例中ヲ改正ス○同年五月勅令第三十五號ヲ以テ軍事參議官條例ヲ改正ス○同年同月勅令第五十二號ヲ以テ戰時大本營條例ヲ制定ス○同年七月勅令第六十七號ヲ以テ陸軍軍醫學校條例ヲ改正ス○同年同月勅令第七十八號ヲ以テ陸軍戸山學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第七十九號ヲ以テ陸軍砲兵射的學校條例中ヲ改正ス○同年八月勅令第九十一號ヲ以テ陸軍省官制ヲ改正ス○同年九月勅令第九十九號ヲ以テ師團監督部條例中ヲ改正削除ス○同年同月勅令第一百二號ヲ以テ陸軍經營部條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第一百五號ヲ以テ軍馬補充署條例中ヲ改正ス○同年十月勅令第一百七號ヲ以テ參謀本部條例ヲ改正ス○同年同月勅令第四百一十一號ヲ以テ千住製鐵所官制ヲ改正ス○同年同月勅令第四百一十二號ヲ以テ陸軍監獄官官制ヲ定ム○同年十一月勅令第二百十號ヲ以テ陸軍大學校條例中ヲ改正ス○同年十二月勅令第二百三十一號ヲ以テ監軍部條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百三十二號ヲ以テ陸軍砲工學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百三十三號ヲ以テ陸軍士官學校條例ヲ改正ス○同年同月勅令第二百三十四號ヲ以テ陸軍幼年學校條例ヲ改正ス○同年同月勅令第二百三十六號ヲ以テ陸軍教導團條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百三十七號ヲ以テ陸軍將校生徒試驗委員條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百四十一號ヲ以テ陸軍砲兵會議所條例ヲ改正ス○同年同月勅令第二百四十二號ヲ以テ陸軍工兵會議條例ヲ改正ス○同年同月勅令第二百四十三號ヲ以テ砲兵工廠條例ヲ改正ス○同年同月勅令第二百四十四號ヲ以テ陸軍砲兵工科學會條例ヲ改正ス○同年同月勅令第二百四十六號ヲ以テ陸軍經理學校條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百四十七號ヲ以テ陸軍被服工長學舍條例中改正削除ス○同年同月勅令第二百四十八號ヲ以テ陸軍被服廠條例中改正削除ス○同年同月勅令第二百五十七號ヲ以テ師團監督部條例中ヲ削除ス○同年同月勅令第二百五十八號ヲ以テ陸軍司計部條例ヲ廢止ス

○參謀本部條例 明治二十六年十月 勅令第七號

朕參謀本部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

參謀本部條例

- 第一條 參謀本部ハ國防及用兵ノ事ヲ掌ル所トス
- 第二條 陸軍大將若クハ陸軍中將一人ヲ參謀總長ニ親補シ 天皇ニ直隸シ帷幄ノ軍務ニ參畫シ又參謀本部ヲ統轄セシム
- 第三條 參謀總長ハ國防計畫及用兵ニ關スル條規ヲ策案シ親裁ノ後軍令ニ屬スルモノハ之ヲ陸軍大臣ニ移シ奉行セシム
- 第四條 參謀總長ハ陸軍參謀將校ヲ統督シ其教育ヲ監督シ陸軍大學校、陸地測量部及在外國公使館附陸軍武官ヲ統轄ス
- 第五條 參謀本部次長ハ參謀總長ヲ輔佐シ部務整理ノ責ニ任ス
- 第六條 參謀本部ニ副官部ヲ置キ部内ノ庶務、會計經理ノ事ヲ管掌シ兼テ陸軍文庫ヲ管理ス
- 第七條 參謀本部ニ第一局、第二局及編纂課ヲ置キ其各局課長ヲシテ左ニ掲クル事務ヲ分擔シ其責ニ任セシム

第一局

參謀本部條例

動員計畫ノ調査

平戰兩時團隊編制ノ起案

兵器材料彈藥裝具ノ審議

戰時諸條規ノ起案

運輸交通ノ調査及計畫

第二局

作戰計畫ノ調査

要塞位置ノ撰定及其兵器彈藥ノ審議

團隊布置ノ審議

外國軍事ノ調査

外國地理ノ調査及其地圖ノ輯集

編纂課

内外兵要地誌及政誌ノ編纂

戰史ノ編纂

外國書ノ翻譯

第八條 豫メ擔任ヲ定メサル事項ハ臨時局課ヲ指定シ若クハ局課員ニ下命シ其事ニ與ラシ

第九條 參謀本部職員ノ定員ハ別表定ル所ニ據ル

(別表)

參謀本部職員定員表

備考	參謀總長 陸軍大(中)將 一		副官 大(中)佐 一	
	編纂課 課長 中(少)佐 一	第二局 局長 參謀大佐 一	第一局 局長 參謀大佐 一	副官 少佐 大尉 一 二
		參謀本部次長 陸軍中(少)將 一	局員 參謀佐尉官 出仕將校 海軍參謀佐尉官 大(中)尉 一 〇	軍吏 一
			局員 參謀佐尉官 出仕將校 海軍參謀佐尉官 大(中)尉 一 〇	下士屬 一四
			尉官或ハ編修 二	編修書記或ハ屬 一〇

二十二年勅令  
第二十五號  
陸軍參謀本部  
條例ヲ廢止  
以テ陸軍參謀  
本部條例ヲ廢  
止スルニ依リ  
陸軍參謀本部  
條例ヲ改定ス  
ルニ依リ  
陸軍參謀本部  
條例ヲ改定ス  
ルニ依リ

○參謀職制 明治二十一年五月 勅令第二十五號

陸軍參謀本部條例參謀職制 陸地測量部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(二十年勅令第二十六號ヲ以テ陸軍參謀トアル陸軍ノ二字ヲ削ル以下倣之)

參謀職制

第一條 參謀將校ハ高等將帥ノ職務ヲ輔佐シ殊ニ戰術及ヒ戰略ニ關スル機務ヲ參畫スルヲ任トス

第二條 參謀將校ハ參謀總長之ヲ統轄シ參謀本部監軍部近衛及ヒ師團參謀部ニ於テ服事セシム(二十二年勅令第二十六號ヲ以テ本條中改正)

第三條 參謀本部ノ參謀將校ハ參謀總長ニ隸シ出師ノ計畫國防及作戰ノ計畫並外國軍事ノ調査ニ係ル事務ヲ分擔ス(二十二年勅令第二十六號ヲ以テ本條中改正)

第四條 監軍部ノ參謀將校ハ監軍ニ隸シ部事ヲ擔任ス

第五條 近衛及師團參謀將校ハ都督師團長ニ隸シ該司令部ノ事務殊ニ師團出戰整備並機動演習ニ關スル事務ヲ整理スルヲ任トス

第六條 參謀本部附屬參謀將校ハ其所屬長官ニ隸シ各其定ムル所ノ職務ニ服ス

第七條 參謀ノ職ニ補シ得ル者ハ諸兵科ノ大尉以上ヲ以テスルヲ例トシ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ撰拔ス

其一 陸軍大學校ヲ卒業シタル參謀適任ノ將校ニシテ卒業後一年以上隊附服務ヲナシタルモノ

其二 全軍中才能衆ニ秀タル將校ニシテ本職ニ適任ナルモノ

第八條 參謀將校ハ時々軍隊ニ轉任セシメ其伎倆卓越ナレハ所要ニ應シ再ヒ參謀部ニ轉入セシム

第九條 參謀將校ヲシテ職務ニ完熟セシムル爲メ參謀本部監軍部ノ參謀將校ト近衛及師團參謀將校トハ便宜交任セシムルヲ法トス

第十條 參謀將校ノ進級ハ陸軍武官進級條例ニ依テ之ヲ律ス

參謀官定員表

官等	官等				計
	大	佐中	佐少	大尉	
參謀本部	二	十	六	十	八
監軍部	一	一	一	一	三
近衛及師團參謀部	七	七	七	七	二十一
合計	四十二				

備考

一 本表定員ノ外陸軍大學校長同校兵學教官陸軍省總務局第三課長屯田兵本部參謀及各國公使館附將校東宮武官佐尉官各一名ハ參謀本部附屬參謀將校トス(二十二年勅令第二十九號ヲ以テ本)

二 戰時ハ各師團參謀部ニ大尉一名ヲ增加ス之カ爲メ參謀本部ノ人員ヲ減スルコトヲ得而テ此缺員ハ必要ナレハ出仕將校ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得

○陸軍大學校條例 明治二十四年八月 勅令第七十一號

朕陸軍大學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大學校條例

第一條 陸軍大學校ハ陸軍各兵科ノ士官ヲ撰拔シテ高等兵學ヲ教授シ參謀其他樞要ノ職務ニ充ツヘキ者及ヒ高等指揮官トナルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 參謀大佐

副官 各兵科大尉(教官ヲ兼テシムルコトヲ得) (二十六年勅令第二百十號ヲ以テ各兵科ノ下大中尉ヲ削リ更ニ大尉(教官ヲ兼テシム)コトヲ得ニ改正ス)

廐長 騎兵科尉官

獸醫

軍吏

兵學教官 參謀佐尉官

同 海軍參謀佐尉官或ハ海軍佐官若クハ海軍大尉 (二十六年勅令第二百十號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

教官 各兵科佐官若クハ大尉

同 監督部上長官若クハ監督補

同 衛生部上長官若クハ一等軍醫

同 獸醫 (校中獸醫ヲ以テ兼勤セシム)

陸軍教授

(二十六年勅令第二百十號ヲ以テ第三條ヲ削除シ以下逐條繰上ケトス)

第三條 第二條職員ノ外下士及ヒ屬若干ヲ置ク

第四條 校長ハ參謀總長ニ隸シテ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第五條 副官ハ事務ヲ分掌シ廐長ハ校廐ニ關スル一切ノ事ヲ擔任ス

第六條 兵學教官及ヒ教官ハ學術ノ教授ヲ分擔シ又時トシテハ翻譯ニ從事セシムルコトアリ

第七條 本校學生ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ撰拔シ毎年二十名以内ヲ入學セシム

各兵科ノ中少尉ニシテ二年以上 (五月) 盡 隊務ニ服シ身體強健、勤務精勵、氣節アツテ識量ニ

富ミ且學術才幹卓越ニシテ將來充分發達スヘキ判斷力ヲ有スル者

第八條 聯隊長 獨立隊ニ在テハ其隊長校團其ハ前條ノ資格アル者ヲ撰拔シ學生候補名簿ヲ

製シ順序ヲ經テ所管長官ニ呈ス同長官ハ之ヲ取捨シテ撰拔順次名簿ニ關セメ 兵科及階級ヲ製シ候

補名簿ヲ併セテ六月盡日限り參謀總長ニ進達ス

第九條 聯隊長ハ學生候補者ノ性行才能ニ關シテハ特ニ擔保ノ責ニ任ス

第十條 參謀總長ハ候補者ノ學力ヲ檢定スル爲メ試験委員ヲ設ケテ校長ヲ委員長トナシ以

テ左ノ試験ヲ行フ

其一 初審試験

其二 再審試験

初審試験ハ候補者ノ學識如何ヲ檢定スルモノニシテ毎年七月問題ヲ封緘シ所管長官ニ送附ス同長官ハ候補者ヲ集メ參謀或ハ次官ノ監視ヲ以テ之カ答解ヲ筆記セシメ八月十五日

マテニ參謀總長ニ進達ス但該試驗ハ全國同日ニ行フモノニシテ參謀總長豫メ其日時ヲ示定ス  
再審試驗ハ其學力ノ活用如何ヲ檢定スルモノニシテ參謀總長受験人名ヲ示定ス各所管長  
官ハ其受験者ヲ大學校ニ派遣ス

學生ノ試驗課目ハ參謀總長ノ移牒ニ由リ毎年二月陸軍大臣之ヲ告示ス

第十一條 參謀總長前條ノ試驗ヲ以テ優劣者ヲ決定シ入學ヲ命ス

第十二條 學生ノ入學期ハ十二月上旬ヲ以テシ本校ノ修學期限ヲ三箇年トシ乃チ毎年十二  
月ヨリ翌年十一月マテヲ逐次ニ第一第二第三學年ト稱ス但疾病ノ爲メニ缺課多キモノニ  
在リテハ更ニ一箇年滯學ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 校長ハ學生入學ノ後ニ其資格不適合ト認ル者アルトキハ參謀總長ニ具狀ス參謀  
總長ハ之ヲ查覈シ退學セシムルコトアルヘシ

第十四條 學生ハ校外ニ居住シ通學セシム

學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ル、コトナシ但入學中願届其他業務上ニ關シテハ總テ校長ノ管  
理ニ屬ス

第十五條 學生ノ學用品ハ自辨トス但授業ノ種類ニ由リ物件ヲ支給シ或ハ之ヲ貸與スルコ  
トアルヘシ

第十六條 學生ヲシテ毎年七八月ノ際ニ隊附服務セシム但第二學年者ニアリテハ尙其年附  
屬セシ軍隊ノ秋季演習ニ從事セシメ第三學年者ニアリテハ砲兵射的學校及要塞砲兵聯隊  
ニ派遣シ野戰及要塞砲兵射擊術及其用法ヲ實地ニ研究セシム(二十六年勅令第二百十號  
ヲ以テ本項中ヲ改正ス)  
學生ハ隊附服務中勤務上ニ關シテハ其隊長ニ隸シ砲兵射的學校及要塞砲兵聯隊派遣中研

究ノ事項ニ關シテハ該隊長若クハ該隊長ノ指揮ヲ受クルモノトス(二十六年勅令第二百十號  
ヲ以テ本項中ヲ改正ス)

第十七條 學生隊附服務中ハ當該隊長學生ニ對シ懲罰ヲ科スルノ權ヲ有ス

當該隊長ハ學生隊附服務ヲ終リタル後砲兵射的學校長並ニ要塞砲兵聯隊長ハ學生研究ヲ  
終リタル後各其成績ヲ校長ニ申報ス(二十六年勅令第二百十號  
ヲ以テ本項中ヲ改正ス)

第十八條 校長ハ各學期ノ終ニ於テ武官教官ヲ會集シ學生ノ修學結果及ヒ技倆ヲ審査シ第  
一第二學年者ニアリテハ其修學結果ヲ第三學年者ニアリテハ技倆證明書並優劣順次名簿  
ヲ參謀總長ニ呈ス

第十九條 學生ノ卒業者ニハ卒業證書及ヒ之ヲ表彰スヘキ徽章ヲ附與ス

第二十條 學生卒業ノ上ハ隊附ノ者ニアリテハ直チニ原隊ニ復歸セシメ隊外ノ者ニアリテ  
ハ其所管ニ復歸ノ後直チニ隊附ヲ命ス

(技倆證明書并優劣順次名簿略之)

○

○陸地測量部條例 明治二十四年八月  
勅令第七十五號

朕陸地測量部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸地測量部條例

第一條 陸地測量部ハ陸地測量ヲ施行シ兵要地圖及一般ノ國用ニ充ツ可キ内國圖ヲ製造修  
正シ其他量地ニ關スル事ヲ掌ル所トス



第二條 陸地測量部ニ三角科地形科及製圖科ヲ置キ各科ヲ數班ニ分チ又別ニ修技所ヲ置ク

第三條 陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 各兵科大佐

事務官 各兵科少佐及尉官

材料主管 各兵科大尉

軍吏 一(二)等軍吏

科長 各兵科中(少)佐

科僚 各兵科中尉或少尉

班長 各兵科少佐或大尉

班員 各兵科大中少尉或相當陸地測量師及陸地測量手

修技所幹事 各兵科大尉

修技所教官 各兵科大中少尉或相當陸地測量師

修技所助教 陸地測量手

第四條 部長ハ參謀總長ニ隸シ部事ヲ整理シ及陸地測量官養成ノ責ニ任ス

第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ受ケ部内ノ庶務ヲ掌ル其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第六條 材料主管ハ部長ノ命ヲ受ケ器具材料及圖籍ノ整理ニ任シ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第七條 軍吏ハ部長ノ命ヲ受ケ會計一般ノ規定ニ據リ部内ノ會計物品ノ購買供給ヲ掌リ其

下ニ書記或ハ陸軍屬ヲ置ク

第八條 三角科ハ量地ノ事ヲ管シ三角測量及水準測量ヲ施行シ諸測量ノ基點ヲ設爲シ地形

科ハ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造修正シ製圖科ハ諸地圖ヲ製造シテ製版印刷スルヲ掌

第九條 修技所ハ陸地測量官ヲ養成スルノ所ニシテ測量手タル學生及生徒ヲ置ク其教授科

目ハ陸地測量部長之ヲ定ム

第十條 科長ハ部長ノ指揮監督ヲ受ケ班長以下ニ職務ヲ課シ各其科ノ整理ニ任ス

第十一條 科僚ハ科長ノ命ヲ受ケ科内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十二條 班長ハ科長ノ命ヲ受ケ其班員以下ニ職務ヲ課シ各班ノ事業ヲ管理ス

第十三條 班員ハ上官ノ命ヲ受ケ各其業務ヲ分掌ス

第十四條 科長及班長ハ陸地測量官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得(廿五年勅令第百號ヲ以テ及班長ノ三字ヲ加フ)

第十五條 修技所幹事ハ科長ノ命ヲ受ケ學生及生徒ノ養成ニ任シ所内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ

下士或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十六條 修技所教官及助教ハ部長ノ命ヲ受ケ學術科ノ教授ヲ分掌ス

第十七條 修技所教官ハ定員ノ外他ニ本職アル者ヲ以テ兼勤セシメ若クハ學識アル者ヲ選

ヒテ之ニ囑托スルヲ得

附 則(二十四年勅令第百八十號ヲ以テ附則追加)

第十八條 本條例施行前ヨリ陸地測量部ニ出仕スル准士官及各兵下士ハ當分使用スルコト

ヲ得

○陸軍省官制 明治二十六年八月 勅令第九十一號

朕陸軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍省官制

第一條 陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ及所轄諸部ヲ監督ス

第二條 大臣官房ニ副官ヲ置キ大臣ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌ラシム

陸軍大臣秘書官ハ副官中ヨリ之ヲ兼ネシム

第三條 大臣官房ニ人事課ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一 將校同相當官、准士官並文官ノ進退、任免、補職、命課、増俸、増給ニ關スル事項

二 將校並准士官兵籍、文官名簿、停年名簿及充員名簿ニ關スル事項

三 退役將校同相當官ノ人事及名簿ニ關スル事項

四 叙位、叙勳、記章、褒章、賞與ニ關スル事項

五 恩給ニ關スル事項

六 下士文官採用ニ關スル事項

第四條 陸軍省ニ參事官一人ヲ置ク

陸軍省ニ書記官ヲ置カス

第五條 陸軍省ニ左ノ諸局部ヲ置ク

軍務局 陸軍將官ヲ以テ局長ニ充ツ

經理局 陸軍監督長ヲ以テ局長ニ充ツ

醫務局 陸軍軍醫總監ヲ以テ局長ニ充ツ

法官部 勅任理事ヲ以テ部長ニ充ツ

第六條 各課長及副官ハ陸軍上長官、課員ハ陸軍上長官、士官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

法官部部員ハ奏任理事、書記ハ錄事ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 軍務局ニ第一軍事課、第二軍事課、馬政課、砲兵事務課、工兵事務課ヲ置ク

第八條 軍務局第一軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 編制、建制ニ關スル事項

二 出師準備及戒嚴、徵發ニ關スル事項

三 軍隊諸勤務、教育、演習及檢閲ニ關スル事項

四 軍紀、風紀ニ關スル事項

五 諸學校及外國留學生ニ關スル事項

六 儀式、禮式、服制、徽章ニ關スル事項

七 圖書及翻譯ニ關スル事項

第九條 軍務局第二軍事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 兵役召集、解兵ニ關スル事項

二 各兵科將校ノ補充ニ關スル事項

- 三 各兵科下士以下補充ノ規定ニ關スル事項
- 四 現役、豫備役及後備役軍人ニ關スル事項
- 五 憲兵、歩兵、屯田兵、警備隊、軍樂隊ノ准士官以下補充ニ關スル事項
- 六 其ノ他憲兵、歩兵、屯田兵、警備隊、軍樂隊ニ關スル事項

第十條 軍務局馬政課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 馬匹ノ補充、保續、育成、牧場、衛生、飼養及徵發ニ關スル事項
- 二 獸醫學校及軍馬補充署ニ關スル事項
- 三 輜重器具、馬匹ノ器具及獸醫ノ衛生材料ニ關スル事項
- 四 獸醫部ノ教育、人員、補充及兵籍ニ關スル事項
- 五 蹄鐵術ノ教育ニ關スル事項
- 六 騎兵、輜重兵ノ下士以下補充ニ關スル事項
- 七 其ノ他騎兵、輜重兵及獸醫ニ關スル事項

第十一條 軍務局砲兵事務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 兵器、彈藥ニ關スル事項
- 二 砲兵ノ准士官以下補充ニ關スル事項
- 三 其ノ他砲兵ニ關スル事項

第十二條 軍務局工兵事務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 要塞、堡壘、砲臺ニ關スル事項

- 二 歩兵、工兵ノ器具、材料ニ關スル事項
- 三 通信、交通ニ關スル事項
- 四 工兵ノ准士官以下補充ニ關スル事項
- 五 其ノ他工兵ニ關スル事項

第十三條 經理局ニ第一課、第二課、第三課ヲ置ク

第十四條 經理局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 陸軍總豫算、決算報告及出師準備ニ係ル費額ニ關スル事項
- 二 諸給與及會計規定ノ審査ニ關スル事項
- 三 俸給諸手當、旅費ノ規定及簿記、證書ニ關スル事項
- 四 經理學校及中央司計部ニ關スル事項
- 五 中央司計部帳簿検査ニ關スル事項
- 六 監督部、軍吏部ノ教育、人員、補充及其ノ士官以上ノ兵籍ニ關スル事項
- 七 金錢ニ係ル出納官吏ニ關スル事項

第十五條 經理局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 被服、糧秣及馬匹ニ係ル給與ノ規定ニ關スル事項
- 二 被服、糧秣及戰用炊爨具ニ關スル事項
- 三 被服工、長學舍、被服廠及千住製絨所ニ關スル事項
- 四 委任經理ニ係ル被服、糧食、馬匹ノ物品會計ニ關スル事項

- 第十六條 經理局第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 陸軍用地及諸建築工兵科及砲兵工廠ニ關スル事項
  - 二 宅料、陣營具及其ノ永續料、消耗品料、埋葬料並諸調度ノ規定ニ關スル事項
  - 三 官有財産、物品會計及本省用度ニ關スル事項
- 第十七條 醫務局ニ第一課、第二課ヲ置ク
- 第十八條 醫務局第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 建築、被服、糧食、給水ノ衛生ニ關スル事項
  - 二 傳染病豫防ニ關スル事項
  - 三 衛生及治驗記事ニ關スル事項
  - 四 衛生材料ニ關スル事項
  - 五 衛生部ノ教育ニ關スル事項
- 第十九條 醫務局第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 身體検査及恩給診斷ニ關スル事項
  - 二 傷痍、疾病ニ因ル服役免除ニ關スル事項
  - 三 衛生ニ係ル規定ノ審査及統計報告ニ關スル事項
  - 四 軍醫學校、衛生會議ニ關スル事項
  - 五 衛生部ノ人員補充及其ノ士官以上ノ兵籍ニ關スル事項
  - 六 恤兵會社ニ關スル事項

- 第二十條 法官部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 軍事司法ニ關スル事項
  - 二 監獄ニ關スル事項
  - 三 法官部及監獄ノ人員ニ關スル事項
- 第二十一條 法官部ノ職員ハ高等軍法會議ノ事務ニ服ス
- 第二十二條 陸軍省ノ職員定員ハ別表定ムル所ニ依ル  
(別表)

陸軍省職員定員表

大臣次官		局長						局長	
局		軍事		砲兵		工兵		事務	
大臣		參謀官		秘書官		副官		人事課長	
		參事官		參謀官		副官		人事課長	
		第一課長		第一課長		第一課長		第一課長	
		大佐		大佐		大佐		大佐	
		少佐		少佐		少佐		少佐	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	
		大尉		大尉		大尉		大尉	
		少尉		少尉		少尉		少尉	

考 備	局 理 經		局 務 醫		法 官 部
	局長 監督長	第一課課長 一、二等監督	局長 監督總	第一課課長 軍醫監一等軍醫正 一課員 一等軍醫	部長 勅任理事
一 課員定員中ニ於テ一等軍吏、屬定員中ニ於テ技手ヲ混用スルコトヲ得	第二課課長 一、二等監督	第三課課長 一、二等監督	第二課課長 軍醫監一等軍醫正 一課員 一等軍醫	部 員	奏任理事
	一課員 三等監督	一課員 三等監督	一課員 一等軍醫		
二 本表定員ノ外電信取扱所ニ技手五名ヲ置ク	三 營分ノ內經理局ニ於テハ屬定員中ニ軍吏部下士ヲ混用スルコトヲ得	三 書記	三 書記	三 書記	三 書記
總計百六十二人内二人兼職					

○陸軍編修官官制 明治二十三年六月 勅令第八十九號

朕陸軍編修官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍編修官官制

- 第一條 兵要戰史地誌政表修編ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸軍編修官ヲ置ク
- 第二條 陸軍編修官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ參謀總長ノ指揮監督ヲ承ク
- 第三條 陸軍編修官ヲ分テ陸軍編修及陸軍編修書記トス

- 第四條 陸軍編修ハ奏任トシ陸軍編修書記ハ判任トス
- 第五條 陸軍編修官ノ定員ハ左ノ如シ

編修 四人  
編修書記 十四人

○陸地測量官官制 明治二十二年三月 勅令第三十四號

朕陸地測量官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸地測量官官制

- 第一條 陸地測量ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸地測量官ヲ置ク
- 第二條 陸地測量官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ陸地測量部長ノ指揮監督ヲ承ク
- 第三條 陸地測量官ヲ分テ陸地測量師及陸地測量手トス
- 第四條 陸地測量師ハ奏任トシ陸地測量手ハ判任トス

○師團監督部條例 明治二十三年三月 勅令第五十六號

朕師團監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(二十五年勅令第一號ヲ以テ近衛師團ヲ師團ニ改ム以下倣之)

師團監督部條例

第一條 師團監督部ハ師團司令部所在ノ地ニ之ヲ置キ陸軍糧餉部陸軍經營部ヲ管理シ軍隊會計事務ヲ監督シ陸軍官衙會計事務ヲ監視シ總テ官金ノ收支官有物出納ニ關スル計算及物件銃砲彈藥工具有材料及ナ検査シ且管區内軍吏部士官下士ノ人事ヲ掌ル所トス(二十六年勅令第九十九號ヲ以テ陸軍會計部ノ下ニ陸軍糧餉部ノ五字ヲ加フ同年勅令第九十九號ヲ以テ陸軍會計部ノ五字及管理シノ下ノ割註ヲ削ル)

第二條 師團監督部ハ當該師團ノ名稱ヲ冠シ之ヲ某師團監督部ト稱ス(二十五年勅令第一號ヲ以テ改正)

第三條 監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

- 部長 一人
- 課長 二等監督若クハ監督補 三人
- 部員 一二三等軍吏 七人近衛監督部ニ在テハ十人トス

第四條 監督部ニ三課ヲ置ク第一課ハ計算事務第二課ハ糧食被服事務第三課ハ建築陣營事務ヲ分掌ス

第五條 監督部ハ當該師管ヲ以テ事務ノ管區トス但第一師管内近衛及第一師團監督部ニ於テ會計事務ヲ監視スル官衙ノ區域ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六條 監督部長ハ陸軍大臣ニ隸シ其部長タル監督ハ軍隊給養上及會計ニ關スル出師準備ノ事項ニ付テハ師團長ノ命令ヲ受クヘシ(二十五年勅令第一號ヲ以テ近衛都督師團長ヲ師團長ト改ム以下倣之)

監督部ハ出師若クハ師團及其他ノ演習ニ於テ必要アルトキハ師團長ニ隸屬ス

第七條 部長ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第八條 部長ハ管區内ノ會計上ニ就テ必要アルトキハ當該長官又ハ主任官吏ニ諮問シ其辯明ヲ求ムルコトヲ得

第九條 部長ハ管區内官衙及軍隊ニ係ル會計上ノ閱檢ヲ行ヒ委任經理金ノ收支ヲ證認シ廢品賣却ヲ許可シ又必要ニ際シ官衙軍隊ノ金櫃物件及帳簿ヲ検査ス但軍隊ニ在テハ閱檢前師團長ノ承認ヲ經ルモノトス

第十條 課長ハ課務ヲ整理シ分掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第十一條 部員ハ課長ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第十二條 第三條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士ヲ置ク(二十六年勅令第九十九號ヲ以テ軍吏部下士ノ下若干人ノ三字ヲ削ル)

○陸軍經營部條例 明治二十三年三月 勅令第五十九號

朕陸軍經營部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍經營部條例

第一條 陸軍經營部ハ師團及屯田兵監督部所在地ニ之ヲ置キ陸軍所屬ノ陣營解舍倉庫並地所ヲ管理シ建築修繕ノ事ヲ擔任シ且營繕ニ係ル總テノ經理ヲ掌ル所トス但砲兵工兵科ニ

屬スルモノハ此限外トス(二十五年勅令第二號ヲ以テ師團ノ上近衛及ノ三字ヲ削リ及ニ十六年勅令第百二號ヲ以テ師團ノ下ニ及屯田兵ノ四字ヲ加フ)

第二條 陸軍經營部ハ近衛師團監督部所在地ニ在ルモノヲ近衛師團經營部ト稱シ師團及屯

田兵監督部所在地ニ在ルモノヲ某地陸軍經營部ト稱ス(二十六年勅令第百二號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第三條 經營部ニ左ノ職員ヲ置ク

主管 一等軍吏 一人

計算官 一三等軍吏 一人

(二十六六年勅令第百二號ヲ以テ建築官ノ項ヲ削ル)

第四條 主管ハ當該監督部長ニ隸シ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第五條 計算官ハ主管ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス(二十六年勅令第百二號ヲ以テ計官ノ下建築官ノ三字ヲ削ル)

第六條 第三條ニ掲クル職員ノ外技手若クハ屬ヲ置ク(二十六年勅令第百二號ヲ以テ屬ノ下若干人ノ三字ヲ削ル)

○ 陸軍經理學校條例 明治二十三年十一月 勅令第百六十五號

朕陸軍經理學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍經理學校條例

第一條 陸軍經理學校ハ陸軍監督及陸軍軍吏ヲ養成スル所トス

第二條 本校ノ教育ヲ分テ監督教育科及軍吏教育科トス

第三條 本校ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省經理局長ノ管理ニ屬ス(二十六年勅令第百四十六號ヲ以テ會計ヲ經理ト改ム)

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(二十六年勅令第百四十六號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

校長 二等監督

副官 一二等軍吏

教官 參謀中少佐若クハ大尉

同 一三等監督、監督補

同 騎兵科大尉

同 一二等軍吏

同 陸軍教授及陸軍技師

第五條 校長ハ陸軍省經理局長ニ隸シ校務ヲ總理シ教育ノ方法ヲ規畫シ及學生教育ノ責ニ任ス(二十六年勅令第百四十六號ヲ以テ會計ヲ經理ト改ム)

第六條 副官ハ庶務ヲ擔任ス其下ニ陸軍屬ヲ置ク(二十六年勅令第百四十六號ヲ以テ幹事ヲ副官ニ改ム)

第七條 教官ノ内參謀官ハ監督教育科軍吏ハ軍吏教育科ノ教授ヲ擔任シ其他ハ總テ兩教育科ノ教授ヲ擔任ス但教官ハ翻譯ニ從事セシムルコトアルヘシ(二十六年勅令第百四十六號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

監督教育科

第八條 監督教育科ハ各兵科中尉ノ志願者ヲ募リ監督學生ト爲シ陸軍監督ニ必要ナル學術

ヲ教授ス

一二等軍吏ニシテ學術才能衆ニ超ユル者ハ撰拔シテ特ニ監督學生ト爲スコトヲ得

第九條 監督學生ノ修學期ハ二箇年トス

第十條 監督學生ノ入學時期並召集ニ係ル規則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十一條 監督學生ノ人員及入學試験格例ハ經理局長ノ申稟ニ依リ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

(二十六年勅令第二百四十六號ヲ以テ會計ヲ經理ト改ム)

第十二條 監督學生ハ校外ニ居住シ通學セシム

修學上所要ノ諸器具及書籍消耗品ハ之ヲ貸與シ又ハ支給ス

第十三條 監督學生ノ名籍ハ原所管ニ存置シ尙ホ入學中ハ本校ノ管轄ニ屬ス故ニ自己ノ願  
届等ハ總テ本校ノ官僚ニ準ス又原所管ヨリ本人ニ達ス可キ諸件ハ必ス本校長ヲ經由スル  
モノトス

第十四條 監督學生修學中卒業ノ目途ナキ者ハ詮議ノ上退學ヲ命シ原所管ニ復歸セシム

第十五條 監督學生ハ每學年ノ末ニ大試験ヲ施行シ第二學年ノ末ニ於テ及第スル者ニハ監

督適任證書ヲ附與シ原所管ニ復歸セシメ所要ニ當リ列序ニ從ヒ陸軍監督補ニ任ス

中尉ニシテ右適任證書ヲ有スル者ハ本人ノ願ニ因リ所管地ノ監督部ニ於テ實務ヲ見學ス  
ルコトヲ許ス但其旅費ハ自辨トス

第十六條 監督學生修學中痾傷疾病ノ爲メ大試験ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ詮議  
ノ上尙ホ若干月修學ヲ許シ又ハ特ニ本人ノ爲メニ大試験ヲ施行スルコトアルヘシ

軍吏教育科

第十七條 軍吏教育科ハ一等書記ノ内ヨリ撰拔シ並各兵科曹長ノ志願者ヲ募リ軍吏學生ト

爲シ陸軍軍吏ニ必要ナル學術ヲ教授ス

第十八條 營内居住ノ曹長ニ在リテハ入學中營外居住トス

第十九條 軍吏學生ノ修學期ハ十箇月トス

第二十條 第十條乃至第十四條及第十六條ハ軍吏學生ニ適用ス

第二十一條 軍吏學生ハ學期末ニ於テ大試験ヲ施行シ及第スル者ニハ軍吏適任證書ヲ附與

シ原所管ニ復歸セシメ所要ニ當リ列序ニ從ヒ本官ヲ免シ更ニ陸軍二等軍吏ニ任ス

曹長ニシテ右適任證書ヲ有スル者ハ本人ノ願ニ因リ所管地ノ監督部又ハ隊附軍吏ノ許ニ  
於テ實務ヲ見學スルコトヲ許ス但其旅費ハ自辨トス

○陸軍被服廠條例 明治二十三年三月  
勅令第五十八號

朕陸軍被服廠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍被服廠條例

第一條 陸軍被服廠ハ東京ニ之ヲ置キ軍隊及各部ニ給スル被服地質ノ調辨分配並豫備被服  
及地質ヲ貯藏スル所トス(二十六年勅令第二百四十八號ヲ以  
テ及被服標本ノ格納ノ八字ヲ削ル)

第二條 被服廠ニ左ノ職員ヲ置ク

主管 一等軍吏 一人



被服 二三等軍吏 二人

第三條 主管ハ經理局長ニ隸シ廠務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス(二十六年勅令第二百四十八號)  
號ヲ以テ會計ニ改ム

第四條 被服官ハ主管ノ命ヲ承ケ事務ニ服行ス(二十六年勅令第二百四十八號)  
ヲ以テ分掌ヲニ服行ニ改ム

第五條 第二條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士若クハ屬ヲ置ク(二十六年勅令第二百四十八號)  
ヲ以テ若干人ノ三字ヲ削ル

○陸軍被服工長學舍條例 明治二十三年三月 勅令第三十號

朕陸軍被服工長學舍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍被服工長學舍條例

第一條 陸軍被服工長學舍ハ陸軍省經理局長ノ管理ニ屬シ陸軍縫工長靴工長ト爲ルヘキ者  
ヲ養成スル所トス(二十六年勅令第二百四十七號ヲ以テ會計局ヲ經理局長ノ管理ニ改ム)

第二條 本舍ニ左ノ職員ヲ置ク(二十六年勅令第二百四十七號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

學舍長 陸軍一等軍吏

第二條 學舍長ハ陸軍省經理局長ニ隸シ舍務ヲ總理シ學生教育技術進步ノ責ニ任ス(二十六年勅令第二百四十七號ヲ以テ會計ヲ經理ニ改ム)

第四條 (二十六年勅令第二百四十七號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第五條 (二十五年勅令第四百四號ヲ以テ削除)

第六條 第二條ニ掲クル職員ノ外下士屬ヲ置ク(二十六年勅令第二百四十七號)  
ヲ以テ若干名ノ三字ヲ削ル

第七條 教員ハ傭員及ヒ傭人ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 (二十三年勅令第四百十七號ヲ以テ削除)

第九條 學生ハ現役豫備役後備役ノ籍ニ在ル兵卒中志願ノ者ニシテ検査合格ノ者ヨリ之ヲ採用ス

第十條 學生ノ修業期限ハ概テ一箇年半トス

第十一條 學生ノ人員及ヒ検査格例ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ告達ス

第十二條 學生ハ舍内ニ居住セシメ修業用品ハ之ヲ貸與或ハ支給ス(二十四年勅令第二百一號ヲ以テ改正)  
豫備役後備役ノ籍ニアル者ハ糧食被服及手當金ヲ給ス(二十四年勅令第二百一號ヲ以テ本項追加)

第十三條 學生ノ願届其他業務ニ關スル件ハ總テ學舍長ノ管理ニ屬ス

第十四條 學生修業中品行不正或ハ軍紀ヲ遵守セス又ハ屢々法則ヲ犯シ若クハ疾病其他ノ事故ヲ以テ卒業ノ目途ナキ者及ヒ將來工長ノ任ニ堪ヘ難キ者ハ之ヲ退舍シ其現役ノ者ハ原隊ニ豫備役後備役ノ者ハ原籍ニ復歸セシム

第十五條 疾病ノ故ヲ以テ缺課多キモノハ醫師ノ診斷ニ依リ學舍長ノ意見ヲ以テ學期ヲ延ルコトアルヘシ但經理局長ノ認可ヲ請フヘシ(廿五年勅令第四百四號ヲ以テ軍醫ニ醫師ニ改メニ改ム)

第十六條 學生卒業ノ上ハ該工長適任證書ヲ授與シテ歸隊或ハ歸郷セシム

第十七條 學生優等ノ者ハ學期末滿ト雖モ工長適任證書ヲ與ヘ教員ノ助手ニ充ツルコトヲ得

○陸軍衛生會議條例 明治二十一年十二月 勅令第九十五號

朕陸軍衛生會議條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍衛生會議條例

第一條 陸軍衛生會議ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省醫務局長ニ隸シ陸軍ノ衛生事項ヲ議定スル所トス

第二條 會議ニ左ノ職員ヲ置ク

- 議長 軍醫監 一人
- 事務官 一等軍醫若クハ二等軍醫 二人
- 議員 若干人

第三條 議長事務官ハ各本職アル者ヲ以テ兼補ス

第四條 議員ハ衛生部上長官ニシテ本職アル者ヲ以テ兼補ス但第五條第二項ノ事ヲ議スルニ方リ醫務局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ各兵科並ニ監督部獸醫部上長官或ハ陸軍教授陸軍技師ニ臨時議員ヲ命セラレンコトヲ陸軍大臣ニ具申シ陸軍大臣ニ於テ之ヲ命ス臨時

議員ハ其議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第五條 議事ヲ別テ二種トス

- 一 衛生部内又ハ醫學的ニ關スル事項
- 二 軍部一般ニ涉ル衛生ノ事項

第六條 議長ハ議事ヲ整理シ會議諸般ノ事務ヲ總理ス

第七條 事務官ハ會議ニ關スル庶務ヲ分擔ス

第八條 議事ニ當リ議長不在ナルトキハ議員中衛生部上長官ニシテ高級ノ者議長ノ代理ヲ爲スヘシ

第九條 議案ハ醫務局長ヨリ發スルモノ又ハ會議ノ立案ヨリ成ルモノトス但會議ノ立案ニ係ルモノハ豫メ醫務局長ノ承認ヲ受クヘシ

第十條 凡ソ議事ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十一條 議決ノ上ハ其議決書ヲ醫務局長ニ進達スルモノトス

第十二條 物件ノ試験又ハ模範等製造ノ爲メ費用ヲ要スルトキハ其理由ヲ悉シ豫算書ヲ添ヘテ醫務局長ニ具申スヘシ

第十三條 會議常用ノ諸物品ハ醫務局ヨリ之ヲ支給ス

○陸軍軍醫學校條例 明治二十六年七月 勅令第六十七號

朕陸軍軍醫學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍醫學校條例

第一條 陸軍軍醫學校ハ衛生部上長官士官ヲ召集シテ學生トシ軍陣衛生學、軍陣醫學及之ニ關係スル學術ヲ實驗講究セシメ且軍陣衛生試驗ヲ行フ所トス

第二條 本校ハ陸軍省醫務局長ノ管理ニ屬ス

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 一等軍醫正

副官 一等軍醫

教官 衛生部上長官士官

前項ノ外本職アル參謀將校若クハ他ノ將校ヲシテ教官ヲ兼職セシム

第四條 校長ハ醫務局長ニ隸シ校務ヲ總理ス

第五條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬ヲ置ク

第六條 教官ハ其専門學科ノ教授及衛生試驗ヲ掌ル

第七條 學生ノ學期ハ四箇月以内トシ毎年二回召集ス其人員及時期ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第八條 學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ル、コトナシト雖モ召集中ハ本校ノ管理ニ屬ス

第九條 學生召集中ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルコトヲ許サス疾病其他ノ事故ヲ以テ修得ノ目的ナキ者ハ原所管ニ復歸セシムルコトアルヘシ

附則

第十條 舊條例中衛生部士官候補生ニ係ル事項ハ明治二十六年七月三十一日迄舊條例ニ據ル

○陸軍獸醫學校條例 明治二十六年五月 勅令第二十六號

朕陸軍獸醫學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍獸醫學校條例

第一條 陸軍獸醫學校ハ陸軍獸醫部士官並陸軍騎砲輜重兵蹄鐵工長下長ヲ召集シテ學生トナシ其學術ヲ講究セシメ又陸軍騎砲輜重兵蹄鐵工卒ヲ召集シテ學生トナシ之ニ蹄鐵工下長タルノ伎倆ヲ養成シ並獸醫部士官候補生ヲ養成スル所トス

第二條 本校ハ陸軍省軍務局長ノ管理ニ屬ス

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 騎兵少佐

騎砲輜重兵尉官

教官

一二等獸醫

軍醫

第四條 前條ニ掲クル職員ノ外屬下士並技手ヲ置ク

第五條 校長ハ軍務局長ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第六條 士官學生ノ學期ハ概テ五箇月下士學生ノ學期ハ概テ三箇月兵卒學生ノ學期ハ概テ

九箇月トシ毎年各一回召集ス

第七條 學生ノ人員及召集時期ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第八條 前條ノ告達アルトキハ士官學生ハ所管長官下士及兵卒學生ハ當該隊長之ヲ撰定シ

入校期十日前迄ニ其兵籍ニ考科表ヲ添ヘ校長ニ送附スヘシ

但兵卒學生ハ下士志願ノ蹄鐵工卒中適當ノ者ヲ撰定スルモノトス

第九條 學生ノ願屆其他業務ニ關スル件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ニヨリ修得若クハ卒業ノ目的ナキ者ハ原所管ヘ復歸セシムルコトアルヘシ

第十一條 士官下士學生學期ノ末ニ於テ校長ハ修學中ノ成績ヲ調査シ列序ヲ定メ修得證明

書ヲ附與シ兵卒學生學期ノ末ニ於テ終末試驗ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ附與ス

第十二條 士官學生ハ校外ニ下士兵卒學生ハ校内ニ居住セシム

但下士學生中現今營外居住ノ者ニ限リ校外ニ居住セシム

第十三條 蹄鐵術所要ノ馬匹ハ陸軍乘馬學校ノ校馬治療術所要ノ馬匹ハ府下陸軍諸學校及

各隊ノ重症病馬ヲ以テ充ツルモノトス

但蹄鐵術所要ニ限リ近衛第一兩師團隊馬陸軍大學校陸軍士官學校校馬ヲ以テ之ニ充ツ

ルヲ得

第十四條 學生所要ノ書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十五條 獸醫部士官候補生ニ關スル事項ハ陸軍獸醫部現役士官補充條例ニ據ル

附則

第十六條 明治二十一年六月勅令第四十二號陸軍蹄鐵學舍條例同第五十號陸軍重症病馬治療

所官制ヲ廢止ス

○

○軍馬補充署條例 明治二十六年五月 勅令第二十七號

朕軍馬補充署條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍馬補充署條例

第一條 軍馬補充署ハ軍馬ノ供給乘馬輓馬ノ育成ヲ掌ル所トス

第二條 軍馬補充署ハ本署及四育成所ヨリ成ル其名稱位置ハ左ノ如シ

一 本署 東京

二 三本木軍馬育成所 青森縣上北郡三本木村

三 鍛冶谷澤軍馬育成所 宮城縣玉造郡温泉村

四 青野軍馬育成所 兵庫縣加東郡河合村

五 福元軍馬育成所

鹿兒島縣谿山郡谷山村

第三條 軍馬補充署ニ左ノ職員ヲ置ク

本署

署長 騎兵大中佐

署員 騎兵大尉

育成所

所長 騎兵大尉若クハ技師

所員 騎兵中少尉若クハ技師

獸醫

軍吏

第四條 第三條ニ掲クル職員ノ外下士並屬技手ヲ置ク(二十六年勅令第百五號ヲ以テ屬ノ下技手ノ二字ヲ加フ)

第五條 署長ハ他ニ本職アル者ヲシテ兼務セシム

第六條 署長ハ陸軍大臣ニ隸シ軍馬育成所ヲ統轄シ署務ヲ總理ス

第七條 署員ハ署長ノ職務ヲ補佐シ本署ノ事務ヲ整理ス

第八條 所長ハ所内ノ事務及ヒ牧場事業ヲ整理シ幼駒育成ノ責ニ任ス

第九條 所員ハ所長ノ職務ヲ補佐ス

第十條 陸軍大臣ハ所要ニ應ジ各軍馬育成所ノ支所ヲ設ケ所員ヲ以テ支所長ニ充ツルコト

ヲ得

附則

第十一條 明治二十三年三月勅令第六十一號軍馬育成所官制ヲ廢止ス

○福元軍馬育成所支所ヲ置ク陸二十三年五月十四號  
福元軍馬育成所支所ヲ鹿兒島縣薩摩國給黎郡知覽郷東別府村ニ置キ福元軍馬育成所知覽支所ト稱ス

○三本木軍馬育成所十三本木支所ヲ置ク陸二十四年五月十五號  
三本木軍馬育成所支所ヲ岩手縣下二ノ戸郡小島谷村ニ置キ三本木軍馬育成所十三本木支所ト稱ス

○青野軍馬育成所大山支所ヲ置ク陸二十四年十月十四號  
青野軍馬育成所支所ヲ鳥取縣下汗入郡大山村ニ置キ青野軍馬育成所大山支所ト稱ス

○鍛冶谷澤軍馬育成所追原支所ヲ置ク陸二十五年六月十六號  
鍛冶谷澤軍馬育成所支所ヲ福島縣下西白川郡西郷村ニ置キ鍛冶谷澤軍馬育成所追原支所ト稱ス

○三本木軍馬育成所倉内支所ヲ置ク陸二十五年十一月十二號  
三本木軍馬育成所支所ヲ青森縣下上北郡六ヶ所村ニ置キ三本木軍馬育成所倉内支所ト稱ス

○鍛冶谷澤軍馬育成所冬師山支所ヲ置ク陸二十五年十一月十三號  
三本木軍馬育成所冬師山支所ヲ鍛冶谷澤軍馬育成所ニ屬シ鍛冶谷澤軍馬育成所冬師山支所ト改稱ス

○鍛冶谷澤軍馬育成所冬師山支所ヲ置ク陸二十五年十一月十三號  
三本木軍馬育成所冬師山支所ヲ鍛冶谷澤軍馬育成所ニ屬シ鍛冶谷澤軍馬育成所冬師山支所ト改稱ス

○鍛冶谷澤軍馬育成所冬師山支所ヲ置ク陸二十五年十一月十三號  
三本木軍馬育成所冬師山支所ヲ鍛冶谷澤軍馬育成所ニ屬シ鍛冶谷澤軍馬育成所冬師山支所ト改稱ス

○鍛冶谷澤軍馬育成所冬師山支所ヲ置ク陸二十五年十一月十三號  
三本木軍馬育成所冬師山支所ヲ鍛冶谷澤軍馬育成所ニ屬シ鍛冶谷澤軍馬育成所冬師山支所ト改稱ス

○鍛冶谷澤軍馬育成所冬師山支所ヲ置ク陸二十五年十一月十三號  
三本木軍馬育成所冬師山支所ヲ鍛冶谷澤軍馬育成所ニ屬シ鍛冶谷澤軍馬育成所冬師山支所ト改稱ス

○砲兵工廠條例 明治二十六年十二月

勅令第二百四十三號

朕砲兵工廠條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砲兵工廠條例

第一條 砲兵工廠ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所要ノ兵器彈藥ヲ製造修理シ及海軍所要ノ火藥ヲ製造スル所トス

第二條 砲兵工廠ハ之ヲ東京及大阪ニ置キ其ノ製造所ヲ設クルコト左ノ如シ

東京砲兵工廠

小銃製造所

銃包製造所

砲具製造所

目黒火藥製造所

板橋火藥製造所

岩鼻火藥製造所

大阪砲兵工廠

火砲製造所

砲架製造所

彈丸製造所

火具製造所

第三條 兵器ノ修理ハ東京大阪ニ在テハ直ニ工廠ニ於テ之ヲ執行シ其ノ他ハ砲兵方面支署

所在地ニ工廠ノ派出所ヲ置キ方面支署長ヲシテ其ノ事ヲ管掌セシム但其ノ經費ハ總テ工廠ノ負擔トス

第四條 砲兵工廠ニ左ノ職員ヲ置ク

提理 砲兵大中佐

副提理 砲兵少佐

検査官 砲兵少佐大中尉

製造所長 砲兵少佐大尉若クハ技師

所員 砲兵大中尉若クハ技師

軍醫

軍吏

技師

第五條 第四條ニ掲クル職員ノ外屬技手ヲ置ク但之ニ代ユルニ砲兵上等監護及砲兵科下士ヲ用非ルコトヲ得

第六條 提理ハ陸軍大臣ニ隸シ工廠ノ事務ヲ總理シ特ニ工廠ニ屬スル建築工事ヲ掌リ管掌ノ事務ニ於テハ其ノ責ニ任ス

東京砲兵工廠提理ハ砲兵工科學舎ヲ管理ス

第七條 副提理ハ提理ヲ補佐シ特ニ經理事務ヲ擔任ス

第八條 検査官ハ製造ノ兵器彈藥及其ノ材料ノ検査ヲ掌ル

第九條 製造所長ハ製造所ノ工務ヲ擔任シ所員ハ所長ノ命ヲ受ケ所務ニ從事ス

東京砲兵工廠製造所長ハ砲兵工科學舎ノ實業教授ヲ擔任ス

第十條 砲兵方面支署所在地ノ工廠派出所ニハ屬ヲ分派シ方面支署長ノ命ヲ受ケ兵器修理

ニ關スル費用及材料ノ出納ヲ掌ラシム

第十一條 軍用制式ノ兵器彈藥ハ陸軍大臣ノ許可ヲ經ルニアラザレハ製造スルコトヲ得ス

但海軍造兵廠長ヨリ要求スル火藥並砲兵會議議長ヨリ試験用ノ爲メ要求スルモノハ此限

ニアラス

第十二條 官廳又ハ人民ヨリ物品ノ製造ヲ依頼スルトキハ軍用ノ製造事業ニ妨ケナキ限リ

ハ之ニ應スルコトヲ得

第十三條 工廠及製造所附近ノ地ニ騷擾警戒ノ事アレハ提理ヨリ衛戍司令官ニ牒告シテ衛

兵ヲ派遣ヲ請フコトヲ得

附則

第十四條 連發銃並海岸砲創製中各工廠ニ佐官一人ヲ置ク

○陸軍砲兵工科學舎條例 明治二十六年十二月  
勅令第二百四十四號

朕陸軍砲兵工科學舎條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵工科學舎條例

第一條 陸軍砲兵工科學舎ハ東京砲兵工廠ニ置キ提理ノ管理ニ屬シ砲兵諸工専門ノ工術ヲ

教授シ火工下士及鞍工銃工木工鍛工諸長ニ任用ス可キモノヲ教成スル所トス

第二條 火工ハ砲兵隊上等兵中尙ホ現役二十箇月以上アルモノヲ撰拔分遣シテ學生トナス

他ノ諸工ハ現役六箇月以上ヲ經タル各兵諸卒中志願ノ者ヲ撰拔シテ生徒トナス

但諸工生徒ニ在テハ時宜ニ因リ一般人民ヨリ採用スルコトアル可シ

第三條 學舎ニ左ノ職員ヲ置ク

舍長 砲兵大尉

教官 砲兵大中尉

第四條 前條ニ掲グル職員ノ外砲兵科衛生部軍吏部下士及陸軍助教ヲ置ク

第五條 學舎ニハ軍醫及軍吏ヲ置カス東京砲兵工廠附テ其ノ事務ヲ掌ラシム

第六條 舍長ハ東京砲兵工廠提理ニ隸シ舍務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任シ且教官ヲ兼ヌ

第七條 教官ハ訓育ニ從事シ學術ノ教授ヲ分擔シ殊ニ學生及生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末

ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルモノトス

助教教授ハ専ラ圖畫授業ノ事ヲ擔任セシム

第八條 學期ハ學生ニ在テハ概ネ一箇年トシ生徒ニ在テハ概ネ二箇年半トス但修業中疾病

又ハ止ムヲ得サル事故アリテ定期ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ延期スルコトヲ得

第九條 學生及生徒各工科専門ノ實業ハ東京砲兵工廠ニ於テ之ヲ教授ス學舎ノ内務ハ概子軍隊内務ノ規定ニ依ル

第十條 生徒召募ノ方法及學生生徒ノ人員ハ陸軍大臣之ヲ定メテ告達ス

第十一條 師團長ハ召募ノ告達ニ依リ學生ニ在テハ砲兵隊長ヲシテ身體行狀學術等ヲ調査シ火工術ニ適當者ヲ撰拔セシム入舎期十日前マテニ其ノ名簿ニ履歷書ヲ添ヘ提理東京砲兵工廠提ニ送達セシム

生徒ニ在テハ各隊長ヲシテ志願者中行狀方正ニシテ検査格ニ適スル者ヲ撰拔セシム其名簿ヲ提理ニ送達セシム

第十二條 學生所用ノ書籍器具機械雜具消耗品竝修業用ノ原料ハ貸與又ハ支給スルモノトス

第十三條 生徒修業ノ費用其ノ他被服食料旅費等ハ一切官給トシ且手當金ヲ給ス

第十四條 學生分遣入舎中願届等ニ關スル事件ハ總テ提理ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退舎スルヲ許サス然レトモ傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ卒業ノ目途無キ者ハ退舎セシム其ノ諸卒ヨリ入舎ノ生徒ニ在テハ永久服役ニ堪ヘサル者ヲ除クノ外總テ原兵科ニ復シ舊所管ニ於テ前役入舎中ノ日數ヲ包含スヲ通算シ定規ノ年限間現役又ハ豫備役又ハ後備役ニ服セシム

第十六條 學期末ニ於テ終末試験ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ附與シ學生ニ在テハ其ノ試験成績表ヲ提理ヨリ師團長ヲ經テ聯隊長ニ移ス

第十七條 學生ハ卒業後原隊ニ復歸シ再服役ヲ許サレタル者ハ該隊ニ於テ缺員アル毎ニ火工二等軍曹ニ任シ生徒ハ卒業後直ニ工下長ニ任ス

○陸軍監獄官官制 明治二十六年十月勅令第百四十二號

朕陸軍監獄官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍監獄官官制

第一條 陸軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク

陸軍監獄長

陸軍監獄書記

陸軍監獄看守長

陸軍監獄看守

第二條 監獄長ハ奏任トシ監獄書記及監獄看守長ハ判任トシ監獄看守ハ判任官待遇トス

第三條 監獄長ハ衛戍司令官若クハ屯田兵司令官ニ隸シ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第四條 監獄長ハ陸軍懲罰令ニ定ムル所ニ從ヒ監獄所屬員ヲ懲戒ス

第五條 監獄書記ハ監獄長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス



第六條 監獄長事故アルトキハ上席監獄書記其ノ事務ヲ代理ス

第七條 監獄看守長ハ監獄長ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ監獄看守ヲ指揮監督ス

第八條 監獄看守ハ監獄看守長ノ命ヲ承ケ看守、護送及門衛等ノ事ニ服ス

第九條 監獄看守長及監獄看守職務ニ服スルトキハ刀ヲ帶ヒ制服ヲ着ス

第十條 監獄内ノ衛生事務ハ其地所在ノ衛戍病院附軍醫及看護長ヲシテ之ヲ管掌セシム

但札幌ニ在テハ屯田兵軍醫部附軍醫ヲシテ之ヲ管掌セシム

附則

第十一條 本令施行前ヨリ陸軍監獄ニ職ヲ奉スル下士卒ハ本令施行ノ日ヲ以テ現役満期ト

ス

下士ニシテ服役年數七年未滿ノ者ハ豫備役ニ七年以上十二年未滿ノ者ハ後備役ニ服セシ

ム但明治二十四年勅令第百八十七號施行以前ニ任セラレタル軍吏部下士ニシテ服役九年

未滿ノ者ハ豫備役ニ九年以上十二年未滿ノ者ハ後備役ニ服セシム

第十二條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

本令中監獄看守ニ係ル規程ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

○千住製絨所官制 明治二十六年十月 勅令第百四十一號

朕千住製絨所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

千住製絨所官制

第一條 千住製絨所ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所用ノ絨布製造ノ事ヲ掌ル

官廳又ハ人民ヨリ絨布ノ製造ヲ依頼スルトキハ陸軍所用ノ絨布製造事業ニ妨ケナキ限リ

ハ之ニ應スルコトヲ得

第二條 千住製絨所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

技師 一人

屬 四人

技手 三人

第三條 所長ハ奏任トス陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ所長ノ指揮監督ヲ承ケ製絨ノ事ヲ監理ス

第五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製絨ノ事ニ従フ

附則

第七條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○千住製絨所長服務規程 二十一年七月十四號  
千住製絨所長服務規程別紙ノ通定ム

(別紙)

千住製絨所長服務規程

- 第一條 千住製絨所長ハ陸軍所用ノ絨類製造ノ事ヲ掌トリ尙ホ餘力ヲ以テ他ノ官衙或ハ人民需用ノ絨類ヲモ製造セシムルモノトス
- 第二條 製絨ノ事業ハ益精良ニ至ラシメ軍用ノ地質ハ特ニ堅固ナルヲ目的トス可シ
- 第三條 千住製絨所ノ經費ハ一切作業費出納條例ニ據リ施行ス可シ
- 第四條 家屋倉庫ノ新築増築及ヒ器械ノ新調等ハ其方案ヲ具シ陸軍大臣ノ許可ヲ得タル後事ニ從フ可シ但新築増築ニ係リ工事竣ル時ハ履歴表並ニ之ニ屬スル圖面ヲ添ヘ陸軍大臣ニ上申スヘシ
- 第五條 總テ不用ニ屬シタル家屋物品等賣却スルニ該リ一ト廉五十圓ヲ超ユルトキハ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ後行フ可シ
- 第六條 左ニ掲クル諸項ハ所長之ヲ專行スルコトヲ得
  - 一 俸給其他成規アル收支
  - 二 製絨用品及ヒ製造品ノ賣買並應中需用品ノ買辦
  - 三 豫算額内ヲ以テ家屋倉庫ノ修繕及ヒ器械ノ缺損ヲ補ヒ又ハ其修繕
  - 四 不用品ニシテ一ト廉五十圓以下ノ物品及ヒ廢品ノ賣却
  - 五 所員ニ事務ノ命課
  - 六 備員ノ罷免
  - 七 巡視小使給仕定詰夫定員内備入及ヒ解備
  - 八 巡視小使給仕定詰夫懲戒
  - 九 事業上業務ノ爲メ所員ヲ橫濱其他近傍ヘ差遣
  - 十 主管ノ事務ニ關シ他ノ官署ニ文書往復
  - 十一 備夫職工等負傷者手當金扶助料及ヒ埋葬料成規ニ據リ給與
  - 十二 所管ノ備品ヲ内國博覽會共進會等へ出品及ヒ貸與

○監軍部條例 明治二十年五月 勅令第十八號

朕監軍部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監軍部條例

- 第一條 監軍部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍軍隊練成ノ齊一ヲ規畫セシム
- 第二條 監軍部ニ監軍一人ヲ置キ大將若クハ中將ヲ以テ之ニ親補シ直ニ 天皇陛下ニ隸ス  
(二十三年勅令第二百八十號ヲ以テ改正)
- 第三條 監軍部ニ幕僚ヲ置キ幕僚ヲ參謀部及副官部ニ分ツ
- 第四條 幕僚ニ參謀長一人ヲ置キ少將若クハ大佐ヲ以テ之ニ補ス
- 第五條 參謀部ニ中(少)佐及大尉各一人副官部ニ少佐大尉各一人ヲ置キ其下ニ書記五人ヲ附ス(二十三年勅令第七十八號)
- 第六條 監軍ノ下ニ騎兵監一人ヲ置キ少將若クハ騎兵大佐ヲ以テ之ニ補シ野戰砲兵監一人ヲ置キ少將若クハ砲兵大佐ヲ以テ之ニ補シ要塞砲兵監一人ヲ置キ少將若クハ砲兵大佐ヲ以テ之ニ補シ輜重兵監一人ヲ置キ少將若クハ工兵大佐ヲ以テ之ニ補シ輜重兵監一人ヲ置キ少將若クハ工兵大佐ヲ以テ之ニ補シ之ニ補シノ下要塞砲兵監云々以下ノ二十六年勅令(二百三十一號ヲ以テ監軍ノ下將校學校監以下云々千九百字ヲ削ル)

第七條 騎兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ騎兵少佐及騎兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ各砲兵監ノ下ニ副官二人宛ヲ置キ砲兵少佐及砲兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ工兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ工兵少佐及工兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ輜重兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ輜重兵大中尉ヲ以テ之ニ補ス(二十三年勅令七十八號ヲ以テ本條中改正シ又勅令第二百十號ヲ以テ本條中ヲ改正シ及二十六年勅令第二百三十一號ヲ以テ將校學校監云々以下二十八字ヲ削ル)

第八條 士官學校戸山學校幼年學校教導團及將校生徒試験常置委員ハ直ニ監軍ニ隸ス(二十年勅令第二百三十一號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第九條 騎兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍乘馬學校ヲ管轄ス(二十一年勅令第三十六號ヲ以テ改正シ二十六年勅令第二)

第十條 野戰砲兵監ハ野戰砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ砲兵會議砲兵射的學校ヲ管轄ス(二十三年勅令第七十八號ヲ以テ本條中改正シ復タ第二百十號ノ四字砲工學校ノ下ヲ要塞砲兵幹部練習所ノ九字ヲ削ル)

第十一條 要塞砲兵監ハ要塞砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌ル砲兵會議砲工學校要塞砲兵幹部練習所ヲ管轄ス(二十三年勅令第二百十號ヲ以テ)

第十二條 工兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ工兵會議砲工學校ヲ管轄ス(二十三年勅令第七十八號ヲ以テ本條中改正)

第十三條 輜重兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌ル第十四條 監軍ハ勅ヲ奉シ檢閲使ト爲リ軍隊ノ檢閲ヲ行フ其法陸軍軍隊檢閲條例ニ詳悉ス

(二十三年勅令第七十八號ヲ以テ本條中改正)

○ 陸軍將校生徒試験委員條例 明治二十五年十一月勅令第九十九號

朕陸軍將校生徒試験委員條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍將校生徒試験委員條例

第一條 試験委員ハ陸軍將校生徒ノ學術試験ヲ施行スルモノニシテ之ヲ二種ニ分ツ

一 常置委員

第二條 常置委員ハ士官候補生、幼年學校生徒及一年志願兵志願者ノ試験問題ヲ起草シ而シテ士官候補生、幼年學校生徒志願者試験ノ成績ヲ調査スルモノニシテ監軍ニ隸ス其職

員左ノ如シ(二十六年勅令第二百三十號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

委員長 大佐  
委員 中少佐大尉

特ニ委員中ノ一人ニ命シ試験ニ關スル事務ヲ取扱ハシム

第二條 前條委員長以下他ニ本職アル者ヲ以テ之ニ兼補ス

第四條 臨時委員ハ各試験場ニ就キ士官候補生、幼年學校生徒、一年志願兵志願者ノ試験ヲ實施スル者ニシテ試験ノ都度各師團長近衛師團長ヲ除ク以下同シ其管下將校佐官或大尉中ヨリ所要ノ人員ヲ選定シテ之ヲ命ス但近衛師團下ニ於ル志願者ノ試験ハ第一師團ノ臨時委員之ヲ行フ

第五條 師團長ハ臨時委員ヲ指揮シテ試験ヲ實施セシメ監軍ニ對シテ其責ニ任ス

第六條 常置委員長ハ常置委員ニ各種ノ試験事務ヲ分任セシメ之ヲ監督整理シ監軍ニ對シテ其責ニ任ス(二十六年勅令第二百三十七號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第七條 第二條ニ掲クル各種試験ノ時期ニ際シ士官又ハ陸軍教授若クハ陸軍助教若干名ニ命シ常置委員長ノ下ニ在テ試験ノ事ニ從ハシム

第八條 各種試験ノ時期ニ際シ書記トシテ下士若クハ陸軍屬若干名ヲ試験委員ノ下ニ屬スルコトヲ得

○陸軍士官學校條例 明治二十六年十二月 勅令第二百三十三號

朕陸軍士官學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍士官學校條例

第一條 陸軍士官學校ハ陸軍各兵科ノ士官候補生ヲ召集シテ生徒トナシ初級士官タルニ必

要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 大佐

副官 大尉  
中尉

教官 中(少)佐、少佐、大尉  
軍醫、獸醫、陸軍教授

馬術教官 騎兵大尉

中隊長 大尉

中隊附士官 中尉

軍醫

獸醫

軍吏

第三條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第四條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官及下士陸軍屬ヲ置ク

第五條 武官教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔シ其中佐若クハ少佐ノ教官ヲ以テ科長トス

第六條 各科長中戰術軍制學科長ハ本科教授ノ外訓育ニ屬スル術科ノ監督ヲ兼ヌルモノトス

第七條 馬術教官ハ諸生徒ノ馬術及騎兵科生徒ノ教練ニ任シ兼テ校廡一切ノ事ヲ統ヘ馬匹

ノ課教ヲ掌理ス其下ニ騎兵科下副官同下士ヲ置ク

第八條 文官教官ハ外國語學科ノ教授ヲ分擔ス尙ホ教授ノ外助教ヲ置ク

第九條 中隊長ハ專ラ訓育ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且ツ内務及室内ノ整頓竝ニ生徒ノ行狀ヲ監視スルヲ任トス

第十條 中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ訓育ノ諸科目ヲ分擔シ殊ニ生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス但シ騎兵科士官ハ生徒ノ馬術及騎兵科生徒ノ教練上ニ就テハ馬術教官ニ隸ス

第十一條 中隊附士官ハ總テ校内ノ官舎ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム

第十二條 各中隊ニ下副官及下士ヲ置キ下副官ハ中隊ノ庶務ヲ整理シ下士ハ武器被服諸給與炊爨等ノ事ヲ掌ル但シ下士中ノ若干員ハ本文勤務ノ外劍術體操ノ助教ヲ分擔ス

第十三條 兵卒ヲ師團各隊ヨリ分遣セシメ生徒ノ使用ニ供フ

第十四條 軍醫ノ下ニ看護長獸醫ノ下ニ蹄鐵工長(下長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第十五條 生徒ノ學期ハ一年七箇月トシ毎年十二月上旬ニ始リ翌々年六月下旬ニ終ルモノトス

第十六條 生徒ハ二中隊ニ編制シ各中隊ハ同學期ノ生徒ヲ以テス

第十七條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ士官學校長案ヲ具シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ之ヲ定ム

第十八條 生徒ハ其兵籍素ヨリ本隊ヲ離ル、ユトナント雖モ入校中ハ總テ本校ノ管轄トス

第十九條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ據ル

第二十條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第二十一條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校歸隊セシム

其一 學術科ノ豫習全カラスシテ實際勤務練習ノ識力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢、法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者

其四 自己ノ不攝生ヨリ發病シ久シク休業スル者

其五 長病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

第二十二條 校長ハ學期ノ終リニ於テ生徒ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ全學期中ノ諸結果ト卒業試驗ノ成績ヲ對照シ序列ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ監軍ノ認可ヲ得テ教則ニ定ムル所ノ課程卒業ノ證書ヲ附與ス

第二十三條 學期中ノ諸結果劣等ノ爲メ卒業試驗ヲ受クルヲ得ス若クハ卒業試驗ニ落第セシ者ハ本條例第二十一條ニ據ル

第二十四條 毎年七月中旬ヨリ九月上旬マテノ間ニ於テ凡ソ六週間生徒ニ休暇ヲ與フ此間校附諸官ハ教科書編纂訂正等ノ事ニ服ス

第二十五條 毎年六月全學期ヲ終リタル生徒ノ教授及訓育ニ任セン教官及中隊長中隊附士官ハ九月上旬ヨリ十一月中旬マテノ間師團各隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

第二十六條 前條隊附勤務ヲ爲スニハ中隊長及中隊附士官ハ各本科ノ兵隊ニ限ルト雖モ教官ニ在テハ步騎砲工輜重兵隊中ニ就キ已レノ屬スヘキ兵糧ヲ希望スルコトヲ得

第二十七條 本校ニ所要ノ馬匹及其材料ヲ備フ其馬匹材料ハ他諸學校ニ兼用ス

第二十八條 生徒野營演習ノ際所要ニ依リ校園若クハ第一師團ノ諸隊ヲ使用スルコトヲ得

○

○陸軍幼年學校條例 明治二十六年十二月 勅令第二百三十四號

朕陸軍幼年學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍幼年學校條例

第一條 陸軍幼年學校ハ陸軍幼年生徒ニ概テ尋常中學ト同一ナル教授並ニ軍人ノ豫備教育ヲ與ヘ陸軍各兵科ノ士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 佐官
- 副官 大中尉
- 教官 陸軍教授
- 馬術教官 騎兵中尉
- 中隊長 大尉
- 中隊附士官 中尉
- 軍醫
- 軍吏

第三條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第四條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士及陸軍屬ヲ置ク

第五條 教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔ス尙ホ教授ノ外助教ヲ置ク

第六條 馬術教官ハ生徒馬術ノ教練ニ任ス其下ニ騎兵科下士ヲ置ク

第七條 中隊長ハ專ラ訓育ノ事ヲ掌リ中隊長附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且内務及室内ノ整頓並ニ生徒ノ行狀ヲ監視スルヲ任トス

第八條 中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ殊ニ生徒ノ身上ニ就テ

ハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス

第九條 中隊附士官ハ總テ校内ノ官舎ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム

第十條 各中隊ニ下副官及下士ヲ置キ下副官ハ中隊ノ務庶ヲ整理シ下士ハ武器、被服、諸給

與、炊爨等ノ事ヲ掌リ且ツ劍術及體操ノ助教ヲ分擔ス

第十一條 軍醫ノ下ニ看護長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第十二條 生徒ハ官費半官費、自費ノ三種ニ分ツ

官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服賄料ノ經費自費生徒

ハ被服糧食一切ノ經費ヲ納メシム其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十三條 戰死シタル平時公務ノ爲メ死亡シタル者モ亦之ニ準ス將校同相當官、高等文官ノ孤兒ハ官費生徒トス

第十四條 前條ノ外官費生徒、半官費生徒、自費生徒ト爲スヘキ者ハ監軍之ヲ裁定ス

第十五條 前條ノ區分ハ專ラ資産ノ多少ヲ察知シ之ニ應シテ取捨スヘシト雖モ仍ホ左ニ列

記スル者ハ特ニ顧慮スヘシ

其一 在職士官ノ子弟

其二 現職ニアラサル上長官ノ子弟

其三 死亡シタル將校同相當官ノ子弟

其四 前三項ニ均シキ高等文官ノ子弟

其五 在職上長官現職ニアラサル將官同相當官ノ子弟

其六 前項ニ均シキ高等文官ノ子弟

第十六條 生徒修學期限ハ三箇年トス而シテ其一年期ハ九月上旬ニ始マリ翌年七月上旬ニ終ル但最終ノ一年期ハ翌年五月中旬ニ終ル

第十七條 生徒ハ之ヲ二中隊ニ編成ス

第十八條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ幼年學校長案ヲ具シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ之ヲ定ム

第十九條 生徒ハ請願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第二十條 第三年生徒中特ニ學術ニ長シ品行方正ニシテ他ノ望標トナルモノ若干員ヲ撰拔シ舍長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシム

第二十一條 校長ハ學期末ニ於テ生徒ノ卒業試験ヲ施行シ各士官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ全學期中ノ諸結果ト卒業試験ノ成績ヲ對照シ序列ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ監軍ノ認可ヲ得テ教則ニ定ムル所ノ課程卒業ノ證書ヲ附與ス其學術品行共ニ優等ナル者ハ

同時ニ二等軍曹ノ階級ニ進ムルヲ得

第二十二條 生徒中學期內ニ卒業シ得サル者ト雖モ尚ホ望ミアル者ハ定期外一箇年延期修學セシムルコトヲ得

第二十三條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

其一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者

其四 病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

但自己ノ不攝生ヨリ生セサル長病ニシテ尚ホ卒業ノ見込アル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第二十四條 生徒中全學期ヲ終ルモ病氣其他ノ事故ニ因リ士官候補生ト爲スヲ得サル者ハ

單ニ教則卒業ノ證書ヲ附與シ退校セシム

第二十五條 前三條ニ該ル者アルトキハ幼年學校長事由ヲ悉シ監軍ニ上申シ監軍之ヲ裁定處分ス

第二十六條 毎年七月中旬ヨリ八月下旬ノ間ニ於テ凡ソ三十日間生徒ニ休暇ヲ與フ此間校附諸官ハ教科書編纂訂正等ノ事ニ服ス

第二十七條 毎年六月上旬ヨリ八月下旬マテ中隊附士官若干ヲ師團本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附務勤ヲナサシム

第二十八條 本校ニ所要ノ馬匹及其材料ハ士官學校所要ノモノヲ兼用ス

○

○陸軍戸山學校條例 明治二十年十月 勅令第五十四號

朕陸軍戸山學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍戸山學校條例

第一條 陸軍戸山學校ハ隊附將校下士ヲ分遣シ學生ト爲シ步兵戰術、射擊、體操並ニ劍術ノ原理ヲ研究セシメ且其演習ニ關スル教則ヲ一定ナラシメ常ニ内外國ニ於ケル各科進歩ノ形況ヲ知悉シ教育一般ノ改良ヲ圖ルヲ目的トスル所トス(二十四年勅令第二百二十七號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

第二條 本校ニ戰術科射擊科體操科及教導大隊ヲ置ク(二十四年勅令第二百二十七號ヲ以テ科ノ下學生ノ二字ヲ削ル)

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(二十一年勅令第五號ヲ以テ各項共改正シ二十)

校長 步兵佐官(二十六年勅令第七十八號ヲ以テ步兵)

副官 步兵大中尉(二十六年勅令第七十八號ヲ以テ步兵)

教官 步兵中少佐步兵大尉(二十四年勅令第二百二十七號)

軍吏 步兵中尉一等軍醫(ヲ以テ少佐ヲ中少佐ニ改ム)

軍醫

第四條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

(二十二年勅令第二百二十七號及二十四年勅令第二百二十七號ヲ以テ第五條ヲ削除以下各條繰上ル)

第五條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士及陸軍屬ヲ置ク

第六條 教官ハ各科ノ教授ヲ擔任シ教導大隊ノコトヲ兼攝ス(二十四年勅令第二百二十七號ヲ以テ分擔ヲ擔任ニ改ム)

第七條 各科教官中高級ノ者一名ヲ其科長ト爲ス

第八條 教導大隊ノ大隊長ハ戰術科科長副官中隊長及中隊附士官ハ教官ヲ以テ之ヲ兼ネシム

但學生ヲ以テ其幹部ノ一部ニ充ツルコトアルヘシ(二十四年勅令第二百二十七號)

第九條 教官ノ下ニ教官補曹長(准士官)及助教曹長(一等軍曹)ヲ置ク(二十四年勅令第二百二十七號ヲ以テ本條中削

除)

第十條 軍吏ノ下ニ書記軍醫ノ下ニ看護長ヲ置ク(二十四年勅令第二百二十)

第十一條 戰術科ハ步兵戰術活用上ノ教育ヲ完全ナラシムルヲ目的トシ步兵各聯隊ノ士官

ヲ以テ其學生ト爲ス但時宜ニ依リ步兵少佐若クハ工兵士官ヲ以テ其學生ト爲スコトアル

ヘシ(二十二年勅令第二百二十七號ヲ以テ本條中改正)

第十二條 射擊科ハ射擊ノ學理及銃ノ用法ヲ詳カニシ射擊ノ教育ヲ完全ナラシムルヲ目的

トシ步兵士官及步兵要塞砲兵下士ヲ以テ其學生ト爲ス但時宜ニ依リ騎兵士官ヲ以テ其學

生ト爲スコトアルヘシ(二十二年勅令第二百二十七號ヲ以テ中少尉トアル士官ト改ム)

第十三條 體操科ハ體操及劍術ノ原理ヲ詳悉シ其技術ヲ練磨セシムルヲ目的トシ步騎砲工

輜重兵科ノ下士ヲ以テ其學生ト爲ス(二十四年勅令第二百二十)

第十四條 教導大隊ハ學生訓練ノ用ニ供スルモノトス其下士兵卒ハ步兵各聯隊ヨリ之ヲ分

遣セシム

前項ノ外教導大隊ニハ步兵曹長同一二等軍曹ヲ常置シ校内ニ居住シ隊務ヲ分掌セシム(二

四年勅令第二百二十)

第十五條 戰術科學生ノ學期ハ一年一回トシ概テ十二月ニ始マリ五月若クハ六月ニ終ル



(二十二年勅令第十七號及二十四年勅令第六十七號ヲ以テ本項改正)

射擊科學生ノ學期ハ一年一回トシ概ネ一月ニ始マリ七月ニ終ル(二十二年勅令第十七號及二十四年勅令第六十七號ヲ以テ本項改正)

體操科學生ノ學期ハ一年二回トシ其第一回ハ概ネ九月ニ始マリ十二月若クハ一月ニ終リ其第二回ハ概ネ二月ニ始マリ五月若クハ六月ニ終ル(二十二年勅令第十七號ヲ以テ本項改正)

第十六條 各科學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十七條 學生分遣ノ告達アレハ近衛都督鎮臺司令官ハ部下ノ聯隊長 獨立大隊ナレハ大隊長ヲシテ士官下士中身體強壯行狀方正勤務勉勵ノ者ニシテ第十一條乃至第十三條ノ目的ニ適スヘキ者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前述ニ其兵籍ニ考科表ヲ添ヘ戸山學校長ニ送達スヘシ(二十四年勅令第二百二十) (七號ヲ以テ本條中改正)

第十八條 學生士官ハ校外ニ其下士ハ校内ニ居住セシム  
學生所要ノ兵器書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ(二十四年勅令第二百二十) (七號ヲ以テ本項中改正)

其下士ニ在テハ裝具ハ之ヲ携帶セシムヘシ(二十四年勅令第二百二十) (七號ヲ以テ本項中改正)

第十九條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第二十條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ヲ以テ修得ノ目的

ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ例外トス(二十四年勅令第二百二十七號ヲ以テ第二十一) (七號ヲ以テ第四項削除)

第二十一條 學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官ニアリテハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニアリテハ考科列序ヲ定メ都督師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交付スルモノトス(二十二年勅令第十七號ヲ以テ第二十三條ヲ以テ但書ヲ削ル) (削除以下繰上ケ本項ヲ改正ス二十四年勅令第二百二十七號)

校長ハ更ニ學生修學ノ成績ヲ監軍ニ報告シ且ツ下士ニアリテハ其學術修學ノ證ヲ附與ス(二十二年勅令第十七) (七號ヲ以テ本項追加)

第二十二條 學生下士ノ中學術優等ノ者ヲ選抜シテ員外助教ヲ命シ校内ニ居住セシム(二十四年勅令第二百二十七號) (勅令第二百二十七號) (以テ本條中改正)

第二十三條 教導大隊ヘ分遣ノ下士及兵卒ハ四月若クハ五月ニ於テ其一半ヲ歸隊セシムト一月ニ於テ之ヲ補充ス(二十四年勅令第二百二十) (七號ヲ以テ本條中改正)

第二十四條 各聯隊ヨリ分遣スル教導大隊ノ下士ハ常備現役尙ホ二箇年以上ノ期アル者若クハ二箇年以上服役セシムヘキ見込アル一二等軍曹ニシテ勤務勉勵身體強壯行狀方正學術優等ノ者ヲ選抜セシムヘシ(二十二年勅令第十七號ヲ以テ服役ヲ現役ト改メ) (二十四年勅令第二百二十七號ヲ以テ本條中改正)

第二十五條 教導大隊ノ兵卒ハ常備現役尙ホ一年七箇月ノ期アル上等兵及一二等卒ニシテ勤務勉勵行狀方正身體強壯ノ者ヲ選抜分遣セシム(二十二年勅令第十七號ヲ以テ服役ヲ現役ト改メ二十四年勅令第二百二十七) (七號ヲ以テ九) (七號ニ改ム)

第二十六條 教導大隊分遣ノ下士兵卒ハ學生分遣中ニ於テハ歸省休暇等一切之ヲ許サス  
(二十四年勅令第二百二十七號ヲ以テ大隊ノ下ニ分遣ノ二字ヲ加フ)

第二十七條 教導大隊分遣ノ下士兵卒ハ教導大隊ニ編入スト雖モ名籍ハ原隊ニ之ヲ存シ武器裝具ハ之ヲ携帶セシムヘシ(二十四年勅令第二百二十七號ヲ以テ本條中加除修正)

第二十八條 教導大隊ノ下士兵卒ノ被服ニハ特別ノ徽章ヲ附著ス(二十四年勅令第二百二十)

第二十九條 教導大隊ノ内務ハ概テ步兵内務書ニ據リ施行スヘシ

第三十條 毎年各科學生退校ノ後次學期マテノ間ニ於テ當該科教官將校中若干員ヲ步兵聯隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム(二十六年勅令第七十八號ヲ以テ本條ヲ追加ス)

○陸軍軍樂學舍條例 明治二十三年七月 勅令第三百三十七號

朕陸軍軍樂學舍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍樂學舍條例

第一條 陸軍軍樂學舍ハ陸軍戸山學校ニ置キ各軍樂隊ノ樂生ヲ補充スル爲メ生徒ヲ養成シ且軍樂學術ノ進歩ヲ計ル所トス

第二條 陸軍軍樂學舍ノ定員ハ左ノ如シ

學舍長	一等軍樂長	一名
生徒隊長	二等軍樂長	一名
生徒隊次長	軍樂次長	一名

一等軍樂手	三名
二等軍樂手	六名
樂手補	二十七名
樂生	十二名
一二三等書記	一名
軍醫	一名
一二三等看護長	一名

第三條 學舍長ハ戸山學校長ニ隸シ舍務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第四條 生徒隊長ハ學舍長ヨリ之ヲ兼テ生徒ノ教育ヲ掌リ次長以下ヲシテ諸科目ヲ分擔セシム但時宜ニ依リ專任者ヲ置クコトアルヘシ

第五條 一二等軍樂手ノ定員ハ第二條ニ掲クル者ノ外軍樂生徒ノ人員ニ應シ一二等軍樂手ヲ通シ二十名ニ至ル迄ハ増員スルコトヲ得

第六條 軍醫ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス

第七條 樂調ヲ一定スル爲メ軍樂學舍軍樂手ノ内優等ナル者ヲ選ミ近衛並各師團軍樂手ト交換セシム

第八條 毎年採用スヘキ軍樂生徒ノ人員及軍樂手ノ交換ハ陸軍大臣之ヲ定ム

生徒ノ召募及軍樂手交換ノコトハ其時々戸山學校長ヨリ監軍ニ上申シ監軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス

第九條 軍樂生徒ハ軍樂部ニ出身志願ノ者ヨリ採用ス

第十條 軍樂生徒ノ入學檢査格例ハ戶山學校長之ヲ定メ道廳府縣ニ通牒シ召募スルヲ例トス

第十一條 檢査合格ノ上ハ凡ソ一箇月間通學セシメ實試ノ上之ヲ採用ス此場合ニ於テハ本

人所轄ノ道廳府縣ニ通牒スルモノトス

第十二條 軍樂生徒入學ノ上ハ必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲ爲サシム

第十三條 軍樂生徒ノ修業期限ハ概ネ十五箇月トシ修學上ノ費用其他被服食料等總テ官費

トシ且手當金若干ヲ給ス

第十四條 軍樂生徒修業中ハ歸省休暇ヲ許サス

第十五條 軍樂生徒修業中行狀不正或ハ軍紀ヲ遵守セズ或ハ屢法則ヲ犯シ又ハ傷疾疾病

ニテ生徒タルニ堪ヘ難キ者又ハ卒業ノ目途ナキ者ハ軍樂生徒ヲ免ス

第十六條 軍樂學舎ノ内務ハ概ネ軍隊内務ノ規定ニ依ル

第十七條 學期末ニ於テ生徒ノ終末試驗ヲ施行ス事故アル者ハ試験ヲ延期スルコトアリ此ノ試験ニ及第シタ

ル者ニハ卒業證書ヲ付與シ樂生ヲ命ス

○陸軍教導團條例 明治二十三年三月 勅令第四十七號

朕陸軍教導團條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍教導團條例

第一條 陸軍教導團ハ華士族平民中歩兵騎兵野戰砲兵工兵輜重兵科下士ニ出身志願ノ者

ヲ選拔シテ生徒ト爲シ下士タルニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 毎年採用ス可キ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第三條 本團ニ本部歩兵騎兵野戰砲兵工兵輜重兵科ノ生徒隊並病院ヲ置ク

第四條 本團ニ職員ヲ置ク左ノ如シ(二十六年勅令第二百三十號ヲ以テ職員ヲ改正ス)

團長 歩兵佐官

副官 大(中)尉

病院長 二等軍醫生

生徒隊長 大尉

生徒隊附 中尉

歩兵生徒隊副官 中尉

軍醫

藥劑官

獸醫

軍吏

第五條 團長ハ監軍ニ隸シ本團ノ軍紀風紀ヲ維持シ教育一般ノ事ヲ總括シ且經理事務ヲ召募事務及人事ヲ統轄シ歩兵生徒隊長ヲ兼ヌ(二十六年勅令第二百三十六號ヲ以テ維持シ且ノ十一字ヲ

加

第六條 副官ハ團中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官下士及陸軍屬若干員ヲ置ク

第七條 病院長ノ職務ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第八條 軍醫ノ下ニ看護長藥劑官ノ下ニ調藥手獸醫ノ下蹄鐵工(下)長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク(二十六年勅令第二百三十)

ク(六號ヲ以テ本條ヲ正ス)

第九條 騎兵野戰砲兵工兵輜重兵科ノ生徒隊長ハ團長ニ隸スト雖モ各科專門ノ教育ニ就テハ尙ホ當該兵監ニ屬ス(二十六年勅令第二百三十六號ヲ以テ經理以下三十六字ヲ削)

ハ尙ホ當該兵監ニ屬ス(團長ニ隸スト雖モ各科專門ノ教育ニ就テハ云々)ト改ム

第十條 各生徒隊長ハ教育ノ事ヲ掌リ士官及下士ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシム

第十一條 生徒修業中ハ被服食料ハ官費トシ學科用書籍材料ハ官給若クハ貸與シ且手當金若干ヲ給ス

第十二條 本團生徒ノ學期ハ概テ每年十二月ニ始リ各兵科ニ就キ其修業期限約ネ左ノ如シ

歩兵科 十六箇月

騎兵科 十八箇月

砲兵科 二十箇月

工兵科 二十箇月

輜重兵科 十八箇月

第十三條 本團生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其科目ハ歩兵科ニ在テハ團長騎兵野戰砲兵工兵輜重兵科ニ在テハ各當該兵監ノ定ムル所ニ據ル

第十四條 生徒隊ノ内務ハ概テ軍隊内務ノ規定ニ據ル

第十五條 生徒入團ノ上ハ自己ノ情願ヲ以テ退團スルヲ許サス而シテ必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲナサシム

第十六條 生徒修業中ハ一切歸省休暇ヲ許サス而シテ行狀不正或ハ軍紀ヲ遵守セス或ハ屢々法則ヲ犯シ又ハ傷痍疾病ニテ生徒タルニ堪ヘ難ク若クハ卒業ノ目的ナキ者ハ退團セシム

但傷痍疾病ニ係ル者ハ醫官ノ診斷ニ依テ處分ス

第十七條 學期末ニ於テ生徒ノ終末試驗ヲ施行ス(事故アル者ハ試験ヲ延期スルコトアリ) 此試験ニ及第セシ者

ニハ本團教則卒業證書ヲ附與シ二等軍曹ニ任ス

第十八條 各學期末ヨリ次學期迄ノ間ニ於テ各生徒隊附ノ士官ヲ各本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

(二十六年勅令第二百三十六號ヲ以テ附則ノ二字及第十九條ヲ削除ス)

○陸軍乘馬學校條例 明治二十一年三月 勅令第十三號

朕陸軍乘馬學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍乘馬學校條例

第一條 陸軍乘馬學校ハ騎兵隊ノ士官下士ヲ分遣シテ學生トナシ本科專門ノ馬術ヲ訓練シ

馬學ヲ習修セシムル所トス

第二條 本校ニ厩ヲ置キ所要ノ馬匹ヲ備フ

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(二十四年勅令第二百二十)  
八號ヲ以テ職員ヲ改ム

校長 騎兵佐官

副官 騎兵大中尉

教官 騎兵大中尉一二等獸醫

調馬手長 騎兵中少尉

軍吏

軍醫

獸醫

第四條 校長ハ騎兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第五條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬ヲ置ク(第五條削除以下繰上ケ下士若干員ヲ

陸軍屬  
ト改ム

第六條 教官ハ學術ノ教授ヲ擔任ス(二十四年勅令第二百二十八)  
號ヲ以テ分擔ヲ擔任ト改ム

第七條 教官ノ下ニ助教ヲ置キ騎兵曹長ヲ以テ之ニ充ツ(二十四年勅令第二百二十)  
八號ヲ以テ本條中削除

第八條 調馬手長ハ校長ニ隸シ馬匹ノ調教其他校厩一切ノ事ヲ統轄ス(二十四年勅令第二百)  
八號ヲ以テ改正

第九條 調馬手長ノ下ニ調馬手ヲ置キ陸軍技手ヲ以テ之ニ充ツ(二十四年勅令第二百)  
八號ヲ以テ改正

第十條 軍吏ノ下ニ書記軍醫ノ下ニ看護長ヲ置ク(二十四年勅令第二百二十)  
八號ヲ以テ本條中削除

第十一條 學期ハ毎年概ネ九月ニ始マリ翌年六月ニ終ルモノトス(二十四年勅令第十號)  
ヲ以テ學期ヲ改正ス

第十二條 學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十三條 學期分遣ノ告達アレハ近衛都督師團長ハ部下ノ騎兵大隊長ヲシテ士官下士中  
身體強壯行狀方正勤務勉勵ノ者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前ニ其兵籍ニ考科表ヲ添

ヘ乘馬學校長ニ送達スヘシ(二十四年勅令第二百二十)  
八號ヲ以テ本條中改正

第十四條 第一條ニ掲クル學生ノ外時宜ニ依リ教導團騎兵步兵輜重兵生徒隊附士官下士及

野戰砲兵隊輜重兵隊ノ士官下士ヲ分遣シテ學生トナスコトアルヘシ(二十四年勅令第十號)  
及同年勅令第二百二  
十八號ヲ以テ  
本條中改正

第十五條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ニ依リ修得ノ目的  
ヲキ者ヲ退校歸隊セシムルハ此限ニアラス(二十四年勅令第二百二十八)  
號ヲ以テ卒業ヲ修得ト改ム

第十七條 校長ハ學期ノ終リニ於テ教官ヲ集メ學生修學ノ成績ヲ調査シ學術成績表ヲ製シ  
騎兵監ニ呈シ士官ニアリテハ學術修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニアリテハ考科列序  
ヲ定メ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附ス尙ホ下士ニハ學術修得ノ證ヲ附與ス(二十四年

勅令第二十  
號ヲ以テ改正シ同年勅令第二百二十八號ヲ以テ但書ヲ削  
ル又々二十六勅令第二百三十五號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第十八條 學生士官ハ校外ニ其下士ハ校内ニ居住セシム(二十四年勅令第二百二十八號ヲ以

テ第十九條ヲ削除以下逐次繰上

第十九條 學生所要ノ兵器馬匹馬具書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第二十條 學生下士ニ在テハ雜具ヲ貸與シ被服食料ハ原所管ヨリ之ヲ支給ス(二十四年勅令第

以テ第二十二條三條ヲ削除シ  
第二十四條ヲ第二十條トス

第二十一條 毎年學期ノ終ヨリ次學期ノ始マテノ間ニ於テ教官將校ノ若干員ヲ本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム(二十六年勅令第三十一號)ヲ以テ本條ヲ追加ス

○陸軍砲兵會議條例 明治二十六年十二月  
勅令第二百四十一號  
朕陸軍砲兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵會議條例

第一條 陸軍砲兵會議ハ砲兵技術ニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應スル所トス

第二條 陸軍砲兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長 砲兵大佐

議員 砲兵上長官

臨時議員 各兵科各部長官或ハ陸軍技師

審査官 砲兵中少佐大尉

第三條 前條ニ掲クル職員ノ外審査官ノ下ニ砲兵上等監護砲兵下士並屬技手ヲ置ク

第四條 議長ハ陸軍大臣ニ隸シ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス

第五條 審査官ハ審査試験ノ事ヲ分擔シ其分擔事項ニ關シテハ議事ニ列シ答辯説明ノ任ニ

當リ且會議ノ事務ヲ處理ス

第六條 議員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス

臨時議員ハ議事ノ必要ニ方リ陸軍大臣他ニ本職アル者ヲ以テ之ヲ命シ議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第七條 議長不在ノトキハ議事ニ關シテハ議員中事務ニ關シテハ審査官中高級故參ノ者其ノ代理ヲナスヘシ

第八條 陸軍砲兵會議ハ砲兵技術ニ關シ必要ト認ムル事件ハ陸軍大臣ニ建議スルコトヲ得

第九條 陸軍砲兵會議ハ議事規則ヲ議定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 總議員二分一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス但緊急ノ場合ニ在テハ總議員三分一以上出席スルトキハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得

第十一條 議長ハ議事表決ノ數ニ預ルコトヲ得ス

第十二條 議事ハ出席議員ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十三條 試験等ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長及當該兵監ニ稟議シ之ヲ使用スルコトヲ得

第十四條 砲工兵兩科ノ技術ニ跨ル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ在テハ陸軍大臣之ヲ特達ス

第十五條 合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ

ハ議員ニ列シ表決ニ預ルモノトス第二項ノ場合ニ於テハ高級故參ノ者モ亦同シ  
議事ノ必要ニ依リ陸軍大臣ハ特ニ將官ヲ以テ議長ニ命スルコトヲ得但其ノ議事了レハ直  
ニ解任スルモノトス

第十六條 合同會議ハ總テ本會議ノ規定ニ據ル

○陸軍工兵會議條例 明治二十六年十二月  
勅令第二百四十二號

朕陸軍工兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍工兵會議條例

第一條 陸軍工兵會議ハ工兵技術ニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應スル所トス

第二條 陸軍工兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長 工兵大佐

議員 工兵上長官

臨時議員 各兵科各部長官或ハ陸軍技師

審査官 工兵中少佐大尉

第三條 前條ニ掲クル職員ノ外審査官ノ下ニ工兵上等監護、工兵下士並屬技手ヲ置ク

第四條 議長ハ陸軍大臣ニ隸シ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス

第五條 審査官ハ審査試験ノ事ヲ分擔シ其分擔事項ニ關シテハ議事ニ列シ答辯説明ノ任ニ  
當リ且會議ノ事務ヲ處理ス

第六條 議員ハ他ニ本職アルモノヲ以テ兼補ス  
臨時議員ハ議事ノ必要ニ方リ陸軍大臣他ニ本職アルモノヲ以テ之ヲ命シ議事ヲ了レハ直  
ニ解任スルモノトス

第七條 議長不在ノトキハ議事ニ關シテハ議員中事務ニ關シテハ審査官中高級故參ノ者其  
ノ代理ヲナスヘシ

第八條 陸軍工兵會議ハ工兵技術ニ關シ必要ト認ムル事件ハ陸軍大臣ニ建議スルコトヲ得

第九條 陸軍工兵會議ハ議事規則ヲ議定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 總議員二分一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス但緊急  
ノ場合ニ在テハ總議員三分一以上出席スルトキハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得

第十一條 議長ハ議事表決ノ數ニ預ルコトヲ得ス

第十二條 議事ハ出席議員ノ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ  
依ル

第十三條 試験等ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長及當該兵監ニ稟議シ之ヲ使用ス  
ルコトヲ得

第十四條 砲工兵兩科ノ技術ニ跨ル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ  
必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ在テハ陸軍大臣之ヲ特達ス

第十五條 合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ議員ニ列シ表決ニ預ルモノトス第二項ノ場合ニ於テハ高級故參ノ者モ亦同シ  
議事ノ必要ニ依リ陸軍大臣ハ特ニ將官ヲ以テ議長ニ命スルコトヲ得但其ノ議事了レハ直ニ解任スルモノトス

第十六條 合同會議ハ總テ本會議ノ規定ニ據ル

○陸軍砲工學校條例 明治二十二年五月 勅令第七十六號

朕陸軍砲工學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲工學校條例

第一條 陸軍砲工學校ハ砲工兵少尉ニシテ二箇年以上隊務ニ服シ其勤務ニ慣熟シタル者ヲ分遣シテ學生トナシ以テ各本科専門ノ勤務ニ必要ナル學術ノ教育ヲ完全ナラシムルヲ以テ目的トス(二十四年勅令第二百二十四號ヲ以テ)  
第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(第二條削除以下條上ケ職員ヲ改ム)  
校長 砲兵若クハ工兵大佐  
副官 砲兵若クハ工兵大(中)尉(二十六年勅令第二百三十號ヲ以テ本項ヲ改正ス)  
教官 參謀佐官若クハ大尉砲兵科佐官若クハ大尉 工兵科佐官若クハ大尉騎兵大尉陸軍教授

軍吏

第三條 校長ハ野戰砲兵監及要塞砲兵監及工兵監ニ隸シテ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス(二十三年勅令第二百十二號ヲ以テ校長ハノ下砲兵)

第四條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ砲工兵科下士若クハ陸軍屬ヲ置ク(二十四年勅令第二百二十四號ヲ以テ第五條削除以下條上ケ本條中改正)

第五條 教官ハ學術ノ教授ヲ擔任シ又時トシテ翻譯ノ事ニ從ハシム

第六條 軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク(二十四年勅令第二百二十四號ヲ以テ第八條削除)

第七條 學期ハ概シテ十二月ニ始リ修學期ヲ二箇年トス但疾病ノ故ヲ以テ缺課多キ者ハ尙ホ滯學ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第九條 學生分遣ノ告達アレハ近衛都督師團長ハ入校期十日目前ニ其兵籍ニ考科表ヲ添ヘテ砲工學校長ニ送達スヘシ(二十四年勅令第二百二十四號ヲ以テ名簿ヲ兵籍ニ改ム)

第十條 學生ノ願届其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス(二十四年勅令第二百二十四號ヲ以テ末文三十五字ヲ削ル)

第十一條 學生ハ校外ニ居住セシム而シテ所要ノ書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ(二十四年勅令第二百二十四號ヲ以テ本條中改正)

第十二條 校長ハ每學年ノ終リニ於テ教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ以テ修得證明書ヲ作り之ニ署名捺印シ野戰砲兵ノ學生ハ野戰砲兵監ニ要塞砲兵ノ學生ハ要塞



砲兵監ニ工兵ノ學生ハ工兵監ニ進達シ各監ハ之ヲ監軍ニ呈ス又別ニ一本ヲ製シ師團長ヲ經テ之ヲ本人所屬ノ隊長ニ交附スヘシ(二十三年勅令第二百二十四號ヲ以テ第二項中ヲ改正シ總之修得下改メ及二十六年勅令第二百三十二號ヲ以テ本條全條ヲ改正ス)

第十三條 本校ニ所要ノ馬匹及其材料ハ士官學校所要ノモノヲ兼用ス(二十四年勅令第二百二十六號及二十六年勅令第二百三十二號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

○陸軍砲兵射的學校條例 明治二十年十二月  
 朕陸軍砲兵射的學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵射的學校條例

第一條 陸軍砲兵射的學校ハ野戰砲兵隊ノ大中尉ヲ分遣シテ學生トナシ野戰砲兵ノ射擊術及用法ヲ訓練シ且其演習ニ關スル教則ヲ一定ナラシメ常ニ野戰砲兵ノ射擊術及戰術ヲ研究シ教育一般ノ改良進步ヲ圖ルヲ目的トスル所トズ(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ本條中加除修正)

第二條 學生ノ訓練ニ供スル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置ク

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ職員ノ人員ヲ削リ)

校長

副官

教官

軍吏

砲兵佐官(砲兵大佐ヲ以テ)  
 砲兵大尉(砲兵大尉ヲ以テ)  
 砲兵少佐砲兵中尉  
 大尉砲兵中尉

軍醫

獸醫

第四條 校長ハ野戰砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ校長ハノ下野戰ノ字ヲ加フ)

第五條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ砲兵上等監護及下士ヲ置ク(二十二年勅令第六十六號及ノ七字ヲ加フ二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ第五條ヲ削リ逐次繰上ケ下士ノ下若干員ノ三字ヲ削ル)

第六條 教官ハ學術ノ教授ヲ擔任シ野戰砲兵ノ射擊術及用法ヲ調査研究シ且副官若クハ教導中隊長教導中隊附ヲ兼子シム(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ本條中改正)

第七條 軍吏ノ下ニ書記軍醫ノ下ニ看護長ヲ置ク(二十二年勅令第六十六號ヲ以テ本條中改正)

第八條 學期ハ毎年二回トシ第一學期ハ概子十一月下旬ニ始マリ翌年二月ニ終リ第二學期ハ三月ニ始リ五月ニ終ルモノトス(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ本條中改正)

第九條 學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス但時トシテ少佐ヲ以テ學生ニ換ヘ研究セシムルコトヲ得(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ本條中改正)

第十條 學生分遣ノ告達アレハ近衛都督「鎮臺司令官」ハ部下ノ野戰砲兵聯隊長ヲシテ大中尉中身體強壯勤務勉勵ニシテ其學術ニ適當ト認ムル者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前ニ其兵籍ニ考科表ヲ添ヘ砲兵射的學校長ニ送達スヘシ(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ本條中加除修正)

第十一條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十二條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ニ依リ修得ノ目的

ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ此限ニ在ラス(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ卒業ヲ修得ト改ム)

第十三條 學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成跡ヲ調査シ以テ

修得證明書ヲ作り校長之ニ署名捺印シ野戰砲兵監ニ呈シ又別ニ一本ヲ製シ近衛都督師

團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附スルモノトス(二十二年勅令第六十六號及二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ改正)

第十四條 學生士官ハ校外ニ居住セシム(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ本條中七字ヲ削ル)

第十五條 學生所要ノ兵器彈藥書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十六條 教導中隊ノ下士兵卒ハ野戰砲兵各聯隊ヨリ分遣セシム(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ本項

正改)

前項ノ外教導中隊ニハ砲兵曹長同一二等軍曹ヲ常置シ校內ニ居住シ隊務ヲ分掌セシム

(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ本項改正)

第十七條 各聯隊ヨリ分遣スル教導中隊ノ下士ハ現役尙ホ一箇年以上ノ期アル一二等軍曹

ニシテ勤務勉勵行狀方正學術優等ノ者ヲ選抜セシム其在校期ハ十一月下旬ヨリ五月マテ

トス(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ第十條九條ヲ削除シ本條改正ス以下逐條繰上ク)

第十八條 教導中隊ノ兵卒ハ現役尙ホ一箇年以上ノ期アル上等兵及一二等卒ニシテ身體強

壯行狀方正勤務勉勵ノ者ヲ選抜分遣セシム(二十二年勅令第六十六號ヲ以テ第二十一條ヲ削

十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ再ヒ條中ヲ改正ス)

第十九條 教導中隊兵卒ノ交換ハ毎年六月ニ於テ其全員凡三分二ヲ各聯隊ヨリ分遣シ在校

兵卒ハ悉皆歸隊セシメ十一月ニ至テ殘餘三分一ヲ補充セシム(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ本條ヲ追加シ以下逐次繰下ク)

第二十條 教導中隊分遣ノ下士兵卒ハ學生分遣中ニ在テハ歸省休暇等一切之ヲ許サス

(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ本條中追加)

第二十一條 教導中隊分遣ノ下士兵卒ハ教導中隊ニ編入スト雖モ名籍ヲ原隊ニ存シ裝具及

刀ハ之ヲ携帯セシムヘシ(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ本條中改正)

第二十二條 教導中隊ノ下士兵卒ノ被服ニハ特別ノ徽章ヲ附著ス(二十四年勅令第二百二十九號ヲ以テ本條中除

削)

第二十三條 教導中隊ノ内務ハ概テ軍隊内務書ニ據リ施行スヘシ(二十四年勅令第六十六號ヲ以テ砲兵ヲ軍隊

改)

第二十四條 毎年第二學期ノ終ヨリ第一學期ノ始マテノ間ニ於テ教官將校ノ若干員ヲ本科

ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム(二十六年勅令第三十二號ヲ以テ本條ヲ追加ス)

○

○陸軍及海軍教官 明治十九年十月 勅令第六十八號

朕茲ニ陸軍及海軍諸學校ニ教官ヲ置クコトヲ裁可ス

陸軍及海軍教官

第一條 陸軍及海軍諸學校ニ武官教官ノ外文官教官ヲ置ク左ノ如シ

教授 奏任

助教 判任

第二條 教授ノ官等俸給ハ勅令「第六號高等官官等俸給令」ニ依リ助教ノ官等俸給ハ「勅令第三十六號判任官官等俸給令」ニ依ル

武官ヲ以テ教官ニ充ツルトキハ本條ノ限ニアラス

第三條 教授助教ノ人員ハ其需用ニ從ヒ陸軍大臣若クハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

勅令第六號  
明治二十五年  
陸軍省官制  
勅令第九號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第十號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第十一號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第十二號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第十三號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第十四號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第十五號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第十六號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第十七號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第十八號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第十九號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第二十號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第二十一號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第二十二號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第二十三號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第二十四號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第二十五號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第二十六號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第二十七號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第二十八號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第二十九號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第三十號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第三十一號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第三十二號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第三十三號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第三十四號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第三十五號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第三十六號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第三十七號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第三十八號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第三十九號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第四十號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第四十一號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第四十二號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第四十三號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第四十四號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第四十五號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第四十六號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第四十七號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第四十八號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第四十九號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第五十號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第五十一號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第五十二號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第五十三號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第五十四號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第五十五號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第五十六號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第五十七號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第五十八號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第五十九號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第六十號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第六十一號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第六十二號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第六十三號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第六十四號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第六十五號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第六十六號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第六十七號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第六十八號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第六十九號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第七十號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第七十一號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第七十二號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第七十三號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第七十四號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第七十五號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第七十六號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第七十七號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第七十八號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第七十九號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第八十號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第八十一號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第八十二號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第八十三號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第八十四號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第八十五號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第八十六號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第八十七號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第八十八號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第八十九號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第九十號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第九十一號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第九十二號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第九十三號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第九十四號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第九十五號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第九十六號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第九十七號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第九十八號  
明治二十六年  
陸軍省官制  
勅令第九十九號  
明治二十六年  
海軍省官制  
勅令第一百號  
明治二十六年  
陸軍省官制

○海軍省

沿革略記 明治五年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ海軍省ヲ置ク○同年同月晦日  
元兵部省中海軍武官並兵學寮ヲ管ス○同年三月七日海軍省無號達ヲ以テ翻譯局ヲ設テ譯官ヲ置キ等級ヲ定ム○同年同月二十三日海軍省無號達ヲ以テ水路局ノ外附屬  
測量生ヲ置キ俸給ヲ定ム○同年同月二十五日海軍省無號達ヲ以テ水路局ニ附屬  
ノ名目ヲ廢シ等外吏ヲ置ク○同年同月二十五日海軍省無號達ヲ以テ翻譯局ヲ廢シ其事務ヲ秘書局ニ合ス  
○同年五月海軍省乙第七十號達ヲ以テ水兵本部所轄ノ水夫ヲ造船局ニ屬ス○同年  
六月海軍省乙第八十號達ヲ以テ會計局ニ附屬ヲ置ク○同年八月海軍省乙第百號ヲ

以テ軍艦乘組員ノ官等ヲ改正ス○同年十月海軍省乙第二百五十五號ヲ以テ橫須賀  
造船所橫濱製作所ヲ屬セラレシ旨ヲ達シ主船寮ノ管轄ト爲ス○同年同月第三百五  
號ヲ以テ海軍省職制官等ヲ改正シ本省ニ秘史軍務會計ノ三局ヲ置キ及主船水路兵  
學軍醫ノ四寮機關造兵武庫ノ三司水兵本部裁判所提督府ト爲ス○同年同月海軍省  
乙第二百五十六號達ヲ以テ水路局ヲ廢シ水路寮ヲ置キ乙第二百五十七號達ヲ以テ  
海軍病院ヲ廢シ海軍軍醫寮ヲ置キ乙第二百五十八號達ヲ以テ造船局中武庫掛ヲ廢シ  
テ武庫司ヲ置キ乙第二百五十九號達ヲ以テ糾問掛ヲ廢シ海軍裁判所ヲ置ク○同年同  
月海軍省乙第二百六十號達ヲ以テ主船寮ニ附屬ヲ置ク○同年同月海軍省乙第二百  
七十號達ヲ以テ造船局ヲ廢シ主船寮ヲ本省中ニ置キ乙第二百七十一號達ヲ以テ橫  
須賀造船所橫濱製作造船所元造船局所轄ノ艦船ヲ管セシム○同年十一月海軍省乙第  
二百七十六號達ヲ以テ海軍軍醫寮中ニ病院ヲ置ク○同年同月海軍省乙第二百八十  
號達ヲ以テ橫濱製作所ヲ橫濱製作所ト改稱ス○同年同月海軍省乙第二百八十八號  
達ヲ以テ浦賀造船局出張所ヲ主船寮出張所ト改ム○同年同月海軍省乙第三百五號  
達ヲ以テ橫須賀提督府ヲ置ク○六年一月海軍省甲第十四號達ヲ以テ十二等以下  
ノ譯官ヲ置ク○同年同月海軍省乙第二十四號達ヲ以テ主船寮所轄ノ諸工水火夫掛  
ヲ提督府ニ屬ス○同年五月海軍省乙第五十四號達ヲ以テ海軍武官官等ヲ改正ス○同年同月  
第五百五十七號ヲ以テ海軍少尉ヲ奏任ト爲ス等級ハ舊ニヨル○同年同月海軍省甲第  
百六號達ヲ以テ海軍機曹長ヲ廢シ曹長以下ノ等級ヲ定ム○同年同月海軍省甲第百  
九號達ヲ以テ譯官ヲ廢ス○同年六月第二十三號達ヲ以テ海軍省官等ヲ改正シ  
秘史軍務會計ノ三局主船水路兵學軍醫ノ四寮造兵武庫ノ二司水兵本部裁判所提督  
府ト爲ス○同年八月第二十八號達ヲ以テ海軍少尉試補ヲ少尉補ト改稱ス○同年九月海軍省甲  
軍省甲第六十七號達ヲ以テ機關大少監大少尉關士ヲ主船寮ニ屬ス○同年十一月第三  
百九十四號ヲ以テ軍醫秘書司計機關科中少尉相當ノ官ヲ以テ奏任トス○同年十  
二月五日橫濱製鐵所ヲ大藏省ニ屬セシム○七年一月十二日海軍省號外達ヲ以テ造  
船所ヲ廢シ其事務ヲ武庫司ニ屬ス○同年同月二十八日陸軍省號外達ヲ以テ造  
管セシム○同年二月四日海軍省無號達ヲ以テ鹿兒島器械所ヲ改メテ造船所ト稱シ

武庫司ノ管轄ト爲ス○同年四月二十七日海軍機關科中機關士補ヲ置ク○同年五月第四十九號布告ヲ以テ海兵部中軍樂隊次長ヲ廢シ樂隊等級ヲ改正ス○同年同月海軍省甲第五十三號達ヲ以テ秘書軍務ノ二局ヲ廢シ六課ヲ置ク○同年八月十四日假リニ提督府ヲ鹿兒島ニ設ク○同年九月二十日海軍省號外達ヲ以テ水雷製造局ヲ兵學寮中ニ置ク○同年五月第七十五號布告ヲ以テ造兵武庫ノ二司ヲ廢シ尋テ海軍省第三第六十五號達ヲ以テ兵器局ヲ置キ其事務ヲ管セシム○同年十月七日海防局ヲ置キ海陸軍兩省ニ隸屬ス○九年七月第六十九號達ヲ以テ海軍樂隊官等ヲ改正ス○同年同月海軍省第三第六十七號達ヲ以テ鹿兒島製造所ヲ改メテ鹿兒島造船所ト稱シ主船寮ニ屬ス○同年同月海軍省第三第七十號達ヲ以テ水夫ヲ改メテ水兵ト稱ス○同年同月第八十三號達ヲ以テ東海西海鎮守府ヲ置ク○同年同月第一百三十三號布告ヲ以テ海軍文武官官等ヲ改正ス○同年九月海軍省丙第十一號達ヲ以テ橫須賀造船所中ニ業生工手巡吏鹿兒島造船所ニ工手ヲ置キ等級月俸ヲ定ム○同年同月第九十五號達ヲ以テ海軍省職制章程ヲ更定シ省務ヲ支分シ軍務會計主船水路醫務兵器ノ六局ト爲ス○同年同月海軍省丙第四十七號達ヲ以テ芝新錢座海兵隊屯營ヲ東海鎮守府所轄トシ水兵屯所ト改稱ス○同年十一月海軍省丙第四十九號達ヲ以テ會計局其他諸課廢置分合及所轄ヲ更定ス○同年十二月海軍省丙第七十四號達ヲ以テ長崎海軍出張所ヲ本省直管トシ兵庫海軍用所ヲ主船局所轄トス○同年同月海軍省丙第七十七號達ヲ以テ橫須賀水兵屯集所ヲ東海鎮守府ノ所轄トス○十年一月第三號達ヲ以テ諸寮並大少丞以下ヲ廢シ更ニ書記官屬官ヲ置ク○同年同月第四號達ヲ以テ文官四等以下ノ官等月給ヲ改ム○同年同月第十五號達ヲ以テ海軍技術官并裁判所官等ヲ更定シ技術官ヲ技監大中少匠司師五等工長五等ニ分テ裁判官主理書記ト爲シ各五等ニ分テ權判事以上ハ舊ニ依ル○同年同月海軍省丙第十七號達ヲ以テ海軍本病院ヲ醫務局所轄トス○同年九月海軍省丙第九十二號達ヲ以テ橫須賀水兵屯集所ヲ東海水兵本營ト改稱シ浦賀水兵屯集所ヲ東海水兵分營ト改稱ス○同年十月海軍省丙第八十八號達ヲ以テ新錢座水兵假屯集所ヲ廢シ東海水兵假分營ヲ置ク○同年十一月海軍省丙第二百二十二號達ヲ以テ兵學校ニ次長ヲ置ク○十一年二月海軍省丙第二十四號達ヲ以テ鹿兒島造船所ヲ長崎出張所所轄トス○同年同月第五號達ヲ

以テ海軍文武官官等表中海兵部ヲ廢ス○同年同月海軍省甲第一號布達ヲ以テ舊主船寮ノ事務ハ造船所及主船局ニ舊水路寮ノ事務ハ水路局ニ舊兵學寮ノ事務ハ兵學校ニ舊軍醫寮ノ事務ハ醫務局ニ舊武庫司ノ事務ハ兵器局ニ舊水兵本部舊提督府ノ事務ハ鎮守府ノ管掌トス○同年六月海軍省丙第七十八號達ヲ以テ兵學校橫須賀分校ヲ兵學校附屬機關學校ト改稱ス○同年十月十九日內務省所轄橫濱製鐵所ヲ海軍省ノ管轄ニ附ス○十二年六月海軍省丙第四十八號達ヲ以テ東海鎮守府所轄東海水兵假分營ヲ廢ス○同年十月海軍省丙第九十二號達ヲ以テ兵學校教員等級ヲ定ム○同年同月海軍省丙第九十八號達ヲ以テ目黒火藥庫ヲ廢シ火藥製造所ヲ設ケ兵器局ノ所轄トス○同年同月海軍省丙第九十九號達ヲ以テ兵器局ニ業生ヲ置ク○十三年五月海軍省丙第五十號達ヲ以テ橫須賀ニ海軍用所ヲ置キ章程ヲ定ム○同年六月海軍省丙第五十七號達ヲ以テ海軍本病院ヲ東京海軍病院ト改稱ス○同年十二月第六十號達ヲ以テ海軍省職制及事務章程ヲ追加改正ス○十四年四月第三十一號達ヲ以テ海軍省職制及事務章程第二章第七條第十一條ヲ改正ス○同年五月第四十八號達ヲ以テ規程局ヲ置ク○同年七月第六十六號達ヲ以テ海軍機關學校ヲ置ク○同年十月海軍省丙第五十三號達ヲ以テ長崎海軍出張所所轄唐津海軍石炭用所ヲ主船局ノ所轄トス○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム○十五年三月海軍省丙第二十一號達ヲ以テ東海鎮守府所轄東海水兵本營ヲ水兵屯營ト改稱シ東海水兵分營ヲ水兵練習所ト改稱ス○同年六月第三十三號達ヲ以テ海軍武官官等表ヲ改正ス○同年八月海軍省丙第五十五號達ヲ以テ海軍卒准卒職名ヲ改正ス○同年十月海軍省乙第六號達ヲ以テ鎮守府司令ヲ鎮守府長官ト改稱ス○同年十二月海軍省丙第十號達ヲ以テ水雷局ヲ置ク○同年八月廿四日無號達ヲ以テ教官ヲ置キ名稱等級ヲ定ム○同年十二月第五十八號達ヲ以テ技術官名稱等級ヲ定ム○十七年一月海軍省丙第三號達ヲ以テ調度局ヲ置キ統計課ヲ內局ニ屬ス○同年同月海軍省丙第十二號達ヲ以テ神戸ニ小野濱海軍造船所ヲ設置シ主船局所管ニ附ス○同年同月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十號ヲ改正ス○同年二月海軍省丙第十八號達ヲ以テ主船局所轄橫須賀兵庫唐津ノ三海軍用所ヲ調度局所轄

ニ附ス○同年同月海軍省丙第二十一號達ヲ以テ軍務局ヲ廢シ更ニ軍事部ヲ置ク○  
 同年同月第二十一號達ヲ以テ工手監護ヲ置キ等級ヲ定ム○同年三月海軍省丙第五  
 十一號達ヲ以テ兵器局并造船所業生工手及造船所巡吏ヲ廢シ丙第五十二號達ヲ以  
 テ水路局附屬ヲ廢ス○同年四月第廿九號達ヲ以テ海軍裁判所ヲ廢シ同月海軍省丙  
 第六十三號達ヲ以テ東京軍法會議并東京監獄署ヲ設置ス又丙第六十四號達ヲ以テ  
 東海鎮守府刑事課監囚課ヲ廢シ同府ニ鎮守府軍法會議并鎮守府監獄署ヲ設置ス○  
 同年五月海軍省丙第八十六號達ヲ以テ規程局ヲ廢ス○同年七月第六十四號達ヲ以  
 テ武官官等表中へ追加ス○同年十二月海軍省丙第六十號達ヲ以テ醫務局ヲ廢  
 ス○同年同月海軍省丙第六十九號達ヲ以テ橫須賀海軍用所ヲ廢ス○同年同月海  
 軍省丙第七十三號達ヲ以テ水兵屯營ヲ橫須賀屯營ト改稱ス○同年同月海軍省丙  
 第七十七號達ヲ以テ內局ヲ廢ス○十八年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿ノ職  
 制ヲ廢シ更ニ海軍大臣ヲ置ク○十九年二月海軍省丙第十六號達ヲ以テ長崎海軍出  
 張所ヲ廢シ同所ニ橫須賀鎮守府武庫及倉庫ノ分局ヲ置キ丙第十七號達ヲ以テ兵  
 庫海軍用所ヲ橫須賀鎮守府倉庫兵庫分局ト改稱ス○同年同月勅令第二號ヲ以テ海  
 軍省官制ヲ定ム○同年四月勅令第二十四號ヲ以テ海軍條例ヲ定ム○同年同月勅令  
 第二十五號ヲ以テ鎮守府官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十六號ヲ以テ海軍水路部  
 官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十七號ヲ以テ督買部官制ヲ定ム○同年同月勅令第  
 二十八號ヲ以テ衛生部官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十二號ヲ以テ醫學校官制ヲ  
 定ム○同年同月勅令第三十號ヲ以テ會計檢査部官制ヲ定ム○同年同月勅令第三十  
 一號ヲ以テ兵器製造所官制ヲ定ム○同年同月勅令第三十二號ヲ以テ火藥製造所官  
 制ヲ定ム○同年同月勅令第三十七號ヲ以テ海軍武官官等ヲ定ム○同年七月勅令第  
 五十二號ヲ以テ武官官等表ヲ改正ス○同年十月勅令第六十八號ヲ以テ海軍諸學校  
 ニ文官教官ヲ置ク○二十年七月勅令第三十五號ヲ以テ機關學校官制ヲ定ム○同年  
 十月勅令第五十五號ヲ以テ主理錄事ノ官等俸給ヲ定ム○二十一年二月勅令第七十二  
 號ヲ以テ海軍兵器製造所官制第三條ヲ改正ス○二十一年二月勅令第七十二  
 號ヲ以テ海軍會計檢査部ヲ廢シ海軍省會計局ニ檢査課ヲ置キ又同局中經費課ヲ廢  
 シ其事務ヲ整理課ニ屬セシム○同年五月勅令第六十六號ヲ以テ海軍參謀本部條例ヲ

定ム○同年六月勅令第四十四號ヲ以テ海軍兵學校官制ヲ定ム○同年同月勅令第四  
 十九號ヲ以テ水路部官制ヲ廢シ水路部條例ヲ定ム○同年七月勅令第五十五號ヲ以  
 テ海軍大學校官制ヲ定ム○二十二年二月勅令第十五號ヲ以テ海軍大學校官制第二  
 條ヲ改正ス○同年同月勅令第十六號ヲ以テ主計學校官制ヲ改正ス○同年同月勅令  
 第十七號ヲ以テ海軍軍樂練習所官制ヲ定ム○同年三月勅令第二十五號ヲ以テ參謀  
 官制及海軍參謀本部條例ヲ廢シ參謀本部條例ヲ定ム○同年同月勅令第二十九號ヲ  
 以テ海軍省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第三十號ヲ以テ海軍參謀部條例ヲ定ム○  
 同年同月勅令第四十號ヲ以テ水路部條例中ヲ改正ス○同年四月勅令第四十六號ヲ  
 以テ海兵團條例ヲ定ム○同年同月勅令第四十八號ヲ以テ海軍衛生部官制ヲ廢シ海  
 軍衛生會議條例ヲ定ム○同年同月勅令第四十九號ヲ以テ海軍醫學校官制ヲ廢止シ  
 海軍軍醫學校官制ヲ定ム○同年同月勅令第五十號ヲ以テ鎮守府官制中ヲ改正ス○  
 同年同月勅令第五十一號ヲ以テ海軍兵器製造所官制ヲ廢止シ海軍造兵廠官制ヲ定  
 ム○同年同月勅令第五十二號ヲ以テ海軍火藥製造所官制ヲ廢止シ海軍火藥工廠官  
 制ヲ定ム○同年同月勅令第五十三號ヲ以テ海軍兵器會議條例及海軍造船會議條例  
 ヲ廢止シ海軍技術會議條例ヲ定ム○同年同月勅令第五十四號ヲ以テ海軍會計監督  
 部條例ヲ定ム○同年同月勅令第五十五號ヲ以テ海軍中央文庫官制ヲ定ム○同年五  
 月勅令第七十二號ヲ以テ鎮守府官制ヲ廢止シ鎮守府條例ヲ制定ス○同年同月勅令  
 第七十三號ヲ以テ海軍機關學校官制ヲ改正ス○同年同月勅令第七十四號ヲ以テ海  
 軍造船工學校官制ヲ定ム○同年七月勅令第九十八號ヲ以テ海軍武官官等表中判任ノ部ヲ改正ス○  
 二十三年一月海軍省達第二十九號ヲ以テ唐津石炭用所ヲ廢ス○同年三月閣令第一  
 號ヲ以テ小野濱造船所官制ヲ廢ス○同年同月勅令第二十六號ヲ以テ海軍造船工學  
 校官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第四十號ヲ以テ新原採炭所官制ヲ定ム○同年同  
 月勅令第四十一號ヲ以テ海軍軍樂練習所官制ヲ廢止ス○同年同月勅令第五十二號  
 ヲ以テ海軍省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第六十三號ヲ以テ鎮守府條例中ヲ改正  
 ス○同年同月閣令第一號ヲ以テ小野濱造船所官制ヲ廢ス○同年六月勅令第九十號  
 ヲ以テ海軍編修官官制ヲ定ム○同年八月勅令第六十七號ヲ以テ海軍火藥工廠官

制ヲ廢ス○同年同月勅令第六十八號ヲ以テ海軍造兵廠官制ヲ改正ス○同年十月勅令第二百三十六號ヲ以テ鎮守府條例第十四條第四十六條ヲ改正ス○同年同月勅令第二百四十號ヲ以テ海軍參謀部條例中ヲ改正追加ス○同年同月勅令第二百四十一號ヲ以テ水路部條例中ヲ改正追加ス○同年同月勅令第二百四十二號ヲ以テ海軍技術會議條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百四十五號ヲ以テ海軍會計監督部條例中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百四十六號ヲ以テ主理錄事服務定員ヲ定ム○同年同月勅令第二百四十八號ヲ以テ造船兵監督官條例ヲ定ム○同年同月勅令第二百四十九號ヲ以テ海軍大學校官制ヲ廢シ海軍兵學校條例ヲ制定ス○同年同月勅令第二百五十號ヲ以テ海軍兵學校官制ヲ廢シ海軍醫學校條例ヲ制定ス○同年同月勅令第二百五十一號ヲ以テ海軍醫學校官制ヲ廢シ海軍醫學校條例ヲ制定ス○同年同月勅令第二百五十二號ヲ以テ海軍主計學校官制ヲ廢シ海軍主計學校條例ヲ制定ス○同年同月勅令第二百五十三號ヲ以テ海軍機關學校官制ヲ廢シ海軍機關學校條例ヲ制定ス○同年同月勅令第二百五十四號ヲ以テ海軍造兵廠官制ヲ廢シ海軍造兵廠官制條例ヲ制定ス○同年同月勅令第二百五十五號ヲ以テ海軍造兵廠官制條例中ヲ改正ス○同年七月勅令第七十八號ヲ以テ海軍會計監督部條例ヲ改正ス○同年同月勅令第八十號ヲ以テ造船造兵監督官條例ヲ改正ス○同年同月勅令第九十一號ヲ以テ海軍省官制ヲ改正ス○二十五年五月勅令第四十四號ヲ以テ海軍省官制中ヲ改正ス○同年十月勅令第八十二號ヲ以テ海軍會計監督部條例ヲ改正ス○二十六年五月勅令第三十六號ヲ以テ海軍省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第三十七號ヲ以テ海軍省官制條例ヲ定ム○同年同月勅令第三十八號ヲ以テ海軍區區畫及軍港ヲ定ム○同年同月勅令第三十九號ヲ以テ鎮守府條例ヲ改正ス○同年同月勅令第四十一號ヲ以テ鎮守府監督部條例ヲ定ム○同年同月勅令第四十二號ヲ以テ海軍司計部條例ヲ定ム○同年同月勅令第四十三號ヲ以テ海軍監獄官官制ヲ定ム○同年同月勅令第四十四號ヲ以テ海軍造兵廠條例ヲ改正ス○同年同月勅令第四十五號ヲ以テ海軍衛生會議條例ヲ定ム○同年同月勅令第四十六號ヲ以テ水路部條例中ヲ改正ス○同年同月勅

令第四十九號ヲ以テ海軍條例海軍參謀部條例海軍會計監督部條例海軍編修官官制海軍中央文庫官制等ヲ廢止ス○同年同月勅令第五十三號ヲ以テ海軍技術會議條例ヲ改正ス○同年同月勅令第五十四號ヲ以テ造船造兵監督官條例ヲ改正ス○同年同月勅令第五十五號ヲ以テ新原探炭所官制ヲ改正ス○同年十月勅令第九號ヲ以テ海軍省官制條例中ニ追加ス○同年十一月勅令第二十六號ヲ以テ海軍大學校條例ヲ改正ス○同年同月勅令第二十七號ヲ以テ海軍兵學校條例ヲ改正ス○同年同月勅令第二十八號ヲ以テ海軍機關學校條例ヲ定ム海軍造船工學校官制ヲ廢止ス○同年同月勅令第二十九號ヲ以テ海軍醫學學校條例及海軍主計學校條例ヲ廢止ス

○海軍軍令部條例 明治二十六年五月 勅令第三十七號

朕海軍軍令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍軍令部條例

- 第一條 海軍軍令部ヲ東京ニ置ク出師作戰沿岸防禦ノ計畫ヲ掌リ鎮守府及艦隊ノ參謀將校ヲ監督シ又教育訓練ヲ監視ス
- 第二條 海軍大將若クハ海軍中將ヲ以テ海軍軍令部長ニ親補シ
- 第三條 天皇ニ直隸シ帷幄ノ機務ニ參シ部務ヲ管理セシム
- 第四條 戰略上事ノ海軍軍令ニ關スルモノハ海軍軍令部長ノ管知スル所ニシテ之カ參畫ヲ爲 親裁ノ後平時ニ在テハ之ヲ海軍大臣ニ移シ戰時ニ在テハ直ニ之ヲ鎮守府司令長官艦隊司令長官ニ傳令ス

第四條 海軍軍令部長ハ 勅ヲ奉シ檢閱使ト爲リ鎮守府及艦隊ノ檢閱ヲ行フ

第五條 海軍軍令部ニ副官二人ヲ置キ一人ハ海軍大尉ヲ以テ之ニ補シ一人ハ本職アル海軍大尉ヲ以テ之ヲ兼テシメ命令ノ傳達及庶務ヲ掌理セシム

第六條 海軍軍令部ニ左ノ二局ヲ置キ部事ヲ分擔セシム

第一局

一出師作戰沿岸防禦ノ計畫艦隊軍隊ノ編制及軍港要港ニ關スル事項

第二局

一教育訓練ノ監視諜報及編纂ニ關スル事項

第七條 各局ニ局長各一人ヲ置キ海軍大佐ヲ以テ之ニ補シ各局ニ局員ヲ置キ第一局ハ海軍少佐二人海軍大尉四人ヲ以テ之ニ補シ第二局ハ海軍少佐一人海軍大尉三人ヲ以テ之ニ補

ス又第二局ニハ局員ノ外海軍機關少監若クハ海軍大機關士一人ヲ置キ局務ニ服セシム

前項ニ掲クル職員ノ外第一局局員ニ陸軍佐尉官二人ヲ置キ參謀本部ノ參謀將校ヲ以テ之ニ兼補ス(二十六年勅令第百九號)

第八條 海軍軍令部出仕將校トシテ臨時海軍佐官或ハ海軍大尉四人ヲ置キ部務ニ服セシム

ルコトヲ得

第九條 公使館附將校トシテ海軍佐官或ハ海軍大尉八人ヲ置キ海軍軍令部長之ヲ管ス

第十條 海軍軍令部ニ海軍文庫主管一人ヲ置キ海軍大尉ヲ以テ之ニ補シ海軍ニ必要ナル圖書ノ蒐集保存ヲ掌ラシム

第十一條 前諸條ニ掲クルノ外海軍編修一人海軍編修書記五人ヲ置キ第二局ニ屬シ書記二人技手一人ヲ置キ部務ニ服セシム

○海軍區區畫及軍港 明治二十六年五月勅令第三十八號  
朕海軍區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 帝國ノ海岸及海面ヲ分テテ五海軍區トス其區畫ハ左ノ如シ

第一海軍區

陸中國南九戸北閉伊郡界ヨリ紀伊國南牟呂東牟呂郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島ノ海岸海面

第二海軍區

紀伊國南牟呂東牟呂郡界ヨリ石見長門國界ニ至リ又筑前豐前國界ヨリ九州東海岸ニ沿ヒ日向國南那珂南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面並内海

第三海軍區

筑前豐前國界ヨリ九州西海岸ニ沿ヒ日向國南那珂南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及壹岐對馬沖繩諸島ノ海岸海面

第四海軍區

石見長門國界ヨリ羽後陸奥國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐佐渡ノ海岸海面

第五海軍區

北海道陸奥及陸中國北九戸南九戸兩郡ノ海岸海面

第二條 各海軍區ニ軍港ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一海軍區軍港

相模國三浦郡横須賀

第二海軍區軍港

安藝國安藝郡吳

第三海軍區軍港

肥前國東彼杵郡佐世保

第四海軍區軍港

丹後國加佐郡舞鶴

第五海軍區軍港

膽振國室蘭郡室蘭

第三條 各海軍區ノ要港ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 各海軍區ハ其軍港ニ置ク所ノ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

舞鶴及室蘭鎮守府ヲ設置スルマテノ間第四海軍區中越後以東及第五海軍區ヲ横須賀鎮守

府ニ管セシメ第四海軍區中越中以西ヲ吳鎮守府ニ管セシム

○鎮守府條例 明治二十六年五月 勅令第三十九號

朕鎮守府條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府條例

第一條 各軍港ニ鎮守府ヲ置ク

鎮守府ハ其所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 鎮守府ハ出師ノ準備兵備品ノ供給軍港要港ノ防禦海軍區ノ警備軍艦ノ製造修理兵

員ノ徵募訓練ヲ掌ル所トス

第三條 鎮守府ニ司令長官一人ヲ置キ海軍將官ヲ以テ之ニ補シ

天皇ニ直隸シ所屬ノ軍艦團隊ヲ統率シ軍事ヲ統理シ又海軍大臣ノ命ヲ受ケ所管ノ軍政ヲ

總理ス

第四條 司令長官ハ麾下ノ軍紀風紀ヲ統監ス

第五條 司令長官ハ軍港内ニ在ル麾下ノ一艦ニ其旗章ヲ掲揚ス

第六條 司令長官ハ麾下ノ艦船ヲ所管海軍區及隣區内ニ派遣スルコトヲ得又練習ノ爲メ五

日以内ノ日數ヲ以テ軍隊ヲ陸路二十里以内ニ派遣スルコトヲ得

第七條 司令長官ハ軍港内一般ニ關スルコトニ於テハ其軍港内ニアル他管ノ軍艦ヲ指揮ス

ヘシ又戰時事變ニ際シテハ軍港内ニアル他管ノ軍艦兵員ヲ以テ軍港ノ守備ニ供スルコト

ヲ得



第八條 司令長官ハ疾疫及其他緊急ノ場合ニ方リ一時麾下ノ兵員ヲ移轉セシムルヲ必要トスルトキ之ヲ處分シテ後海軍大臣及軍令部長ニ報告スヘシ

第九條 司令長官ハ麾下ノ職員事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得但艦船隊ノ職員ハ此限ニアラス

第十條 司令長官ハ麾下ノ准士官以下ヲ麾下艦團隊其他各部ニ轉乘若クハ轉勤セシムルコトヲ得

第十一條 司令長官ハ部下ノ運送船曳船小蒸氣船等ニ乗員ヲ要スルトキハ麾下人員ニ臨時乗組ヲ命スルコトヲ得

第十二條 司令長官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀長

參謀

祕書

機關長

軍醫長

主理

第十三條 參謀長ハ司令長官ノ命ヲ受ケ鎮守府一般ノ事ニ參シ特ニ出師ノ準備軍港要港ノ防禦海軍區ノ警備望樓檢閱演習ニ關スル事ヲ掌ル

第十四條 參謀ハ參謀長ノ命ヲ受ケ服務ス

第十五條 祕書ハ司令長官ノ命ヲ受ケ機密事務ヲ掌リ又參謀長所管ノ事務ヲ助ク

第十六條 機關長ハ司令長官ノ命ヲ受ケ鎮守府所管艦團隊ノ機關ニ關スル事ヲ掌ル

第十七條 軍醫長ハ司令長官ノ命ヲ受ケ鎮守府及所管艦團隊ノ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第十八條 主理ハ司令長官ノ命ヲ受ケ法律ニ關スル事ヲ掌ル

第十九條 鎮守府ニ豫備艦部造船部測器庫武庫水雷庫兵器工場病院及監獄ヲ置ク

第二十條 豫備艦部ハ鎮守府豫備艦ヲ統轄シ其保安及就役ノ準備ヲ掌ル

第二十一條 造船部ハ艦船及其屬具ノ製造修理及艤裝ヲ掌ル造船科造機科ヲ置キ其事務ヲ分擔セシム

分擔セシム

第二十二條 測器庫ハ測器及航海ニ關スル圖書ノ準備供給ヲ掌リ及氣象ノ觀測ヲ爲ス

第二十三條 武庫ハ砲銃彈藥及火具ノ準備供給ヲ掌ル

第二十四條 水雷庫ハ水雷ノ準備供給ヲ掌ル

第二十五條 兵器工場ハ兵器火具ノ修理ヲ掌ル

第二十六條 病院ハ治療及治療品ノ調辨貯藏供給看護手看護夫ノ教育ヲ掌ル

第二十七條 第十九條ニ掲クル部庫工場及病院ニ左ノ職員ヲ置ク

豫備艦部

部長

副官 但吳及佐世保鎮守府ニハ之ヲ置カス

機關長





府	兵器工場主管	海軍大技士	一	海軍二等卒	九
病	病院長	幕僚軍醫長ヲシテ兼ネシム			
軍醫	軍醫	海軍軍醫	四	海軍三等卒	十二
院	藥劑官	海軍藥劑官			

一 上級者ニ關員アルトキ其次級以下ノ人員ハ其關員ヲ超過セサル限、定數ヲ超ユルモ妨ナシ

○鎮守府監督部條例 明治二十六年五月 勅令第四十一號

朕鎮守府監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府監督部條例

- 第一條 鎮守府監督部ハ鎮守府所在ノ地ニ置キ當該鎮守府ノ會計ヲ掌理シ鎮守府管區内ニ在ル艦團隊及諸官廨ノ會計事務ヲ監督シ金錢物品ノ出納ヲ検査スル所トス
- 第二條 鎮守府監督部ハ所在軍港地名ヲ冠稱ス
- 第三條 各鎮守府所在地ニ建築科衣糧庫艦營需品庫ヲ置キ之ヲ鎮守府監督部ニ屬セシム
- 建築科衣糧庫艦營需品庫ハ所在軍港地名ヲ冠稱ス
- 第四條 各地監督部ニ部長一人ヲ置キ海軍主計大監ヲ以テ之ニ補ス
- 第五條 各地監督部ニ部員二人ヲ置ク横須賀鎮守府監督部ハ海軍主計少監若クハ海軍大主計一人及海軍大少主計ノ内二人ヲ以テ之ニ補シ其他ノ監督部ハ海軍大主計一人及海軍大少主計ノ内二人ヲ以テ之ニ補ス

第六條 部長ハ海軍大臣ニ隸シ艦團隊ノ給養及會計ニ關スル出師準備ノ事項ニ付テハ當該

鎮守府司令長官ノ命ヲ受クヘシ

部長ハ出師、演習若クハ檢閲ニ於テ必要アルトキハ當該鎮守府司令長官ニ隸ス

部長ハ軍事上必要ナル建築ニ就テハ當該鎮守府司令長官ノ監視ヲ受クヘシ

第七條 部長ハ部務ヲ總理ス

第八條 部長ハ會計上ニ付必要アルトキハ所轄長又ハ主任官吏ノ辯明ヲ求ムルコトヲ得

第九條 部長ハ検査ノ事實ニ依リ正當ナラスト認メタル事項ニ付テハ主任官吏ニ推問シ辯

明又ハ更訂セシムルコトヲ得

第十條 部長ハ出納官吏ニ於テ計算書及證據書類ノ提出ヲ怠リタルモノアルトキハ所轄長

若クハ主任官吏ニ通告シ期限ヲ定メ提出セシムルコトヲ得

第十一條 部長ハ管區内諸官廨及艦團隊ニ係ル會計上ノ閱檢ヲ行ヒ必要アルトキハ其金櫃

物件及帳簿ヲ検査ス但艦團隊ニ在テハ先ツ鎮守府司令長官ノ承認ヲ經ルモノトス

第十二條 部長ハ當該鎮守府ニ於テ事業ノ興廢ヲ計畫シ廢品ヲ賣却シ若クハ物品工事及運

搬ノ競争又ハ隨意契約ヲ施行セントスルトキハ其議ニ參與ス

第十三條 部員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

第十四條 各地監督部ヲ通シテ書記二十五人技手三人ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服セシ

ム

第十五條 建築科ハ鎮守府所屬ノ土地家屋、電線ヲ管理シ建築修繕、港内浚渫ノ事ヲ掌ル所

トス

- 第十六條 衣糧庫ハ被服糧餉ヲ準備供給スル所トス
- 第十七條 横須賀衣糧庫ハ前條ニ掲クル外被服糧餉ノ調辨貯藏ヲ掌リ及各地衣糧庫ニ其供給ヲ爲ス但各地衣糧庫ニ於テ調辨スルコトヲ便宜トスル場合ニ於テ海軍大臣ハ特ニ品種ヲ定メ其衣糧庫ヲシテ之ヲ調辨セシムルコトヲ得
- 第十八條 艦營需品庫ハ艦營需品ヲ準備供給シ當該鎮守府所屬ノ各地炭庫ヲ管理ス
- 第十九條 横須賀艦營需品庫ハ前條ニ掲クル外艦營需品ノ調辨貯藏ヲ掌リ及各地艦營需品庫ニ其供給ヲ爲ス但各地艦營需品庫ニ於テ調辨スルコトヲ便宜トスル場合ニ於テ海軍大臣ハ特ニ品種ヲ定メ其艦營需品庫ヲシテ之ヲ調辨セシムルコトヲ得
- 第二十條 建築科ニ主管一人ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二十一條 衣糧庫艦營需品庫ニ主管各一人ヲ置ク横須賀衣糧庫主管横須賀艦營需品庫主管ハ海軍主計少監若クハ海軍大主計ヲ以テ之ニ補シ其他ノ衣糧庫主管艦營需品庫主管ハ海軍大主計ヲ以テ之ニ補ス
- 第二十二條 建築科及各庫主管ハ當該鎮守府監督部長ニ隸シ建築科若クハ各庫ノ事務ヲ整理ス
- 第二十三條 建築科ニ技師ヲ置ク其人員ハ各地建築科ヲ通シテ五人トス
- 第二十四條 技師ハ各其主管ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス
- 第二十五條 各地建築科ヲ通シテ書記七人技手十八人ヲ置キ各地衣糧庫ヲ通シテ海軍上等

主帳一人海軍主帳六人書記十人ヲ置キ各地艦營需品庫ヲ通シテ海軍上等兵曹四人海軍機關師三人海軍船匠師三人海軍機關手一人海軍船匠手一人書記七人ヲ置キ各其上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服セシム

第二十六條 各地炭庫ニ書記一人ヲ置キ艦營需品庫主管ノ命ヲ受ケ石炭出納ノ事ニ服セシム

○海軍機關學校條例 明治二十六年十一月 勅令第二百十八號

朕海軍機關學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍機關學校條例

- 第一條 海軍機關學校ハ之ヲ横須賀ニ置キ海軍機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ教育シ並ニ海軍少機關士候補生ニ技術ヲ專修セシムル所トス
- 第二條 海軍機關學校ノ學科ヲ本科及專科ノ二種トス  
本科ハ生徒ノ修ムルモノトシ專科ハ造船、造機及造兵ノ三科ニ別テ本科卒業後其ノ科ニ特選セラレタル海軍少機關士候補生ノ修ムルモノトス
- 第三條 專科ヲ修ムル海軍少機關士候補生ヲ專科生ト稱ス
- 第四條 生徒ノ學年ハ四箇年トシ專科生ノ學年ハ二箇年トス
- 第五條 海軍機關學校ニ工場ヲ置キ實習ノ用ニ供ス

第六條 海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 海軍機關大監 一人

副官 海軍大機關士 一人

教頭 海軍機關少監 一人

教官 海軍機關少監 一人 教頭ヲ以テ兼補ス 海軍大機關士 四人 海軍教授 四人

監事長 海軍機關少監 一人 教頭ヲ以テ兼補ス

監事 海軍大機關士 四人 教官ヲ以テ兼補ス

軍醫長 海軍大軍醫 一人

主計長 海軍主大計 一人

主計 海軍少主計 一人

前項定員ノ外本職アル者ヲシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得

第七條 校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス

第八條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第九條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第十條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第十一條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十二條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ専科生及生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ其ノ體育ノ事

ヲ掌ル

第十三條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十五條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十六條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條 第六條ニ掲クル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍機關師 教員 二人

海軍下士 教員 四人

海軍書記 教員 三人

海軍技手 教員 十一人 内七人ハ兼務

第十八條 生徒ハ年齢滿十六年以上十九年未滿ニシテ海軍機關官タラシト志願スル者

ニ就キ身體検査及學術試験ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採

用ス

第十九條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復權ヲ得サル家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若

クハ其ノ相續人

第二十條 生徒ノ召募及查格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十一條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第二十二條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ズ

第二十三條 生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム

一 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者

二 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者

三 傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第二十四條 専科生ハ須要ニ應シ海軍少機關士候補生ヨリ海軍大臣之ヲ特選ス

第二十五條 専科生ノ學用品ハ自辨トス但授業ニ要スル書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸

與スルコトアルヘシ

第二十六條 海軍機關學校ニ機關工練習所ヲ附属セシム

第二十七條 機關工練習所ハ掌機工及掌罐工ト爲ルヘキ機關手及火夫ヲ教育スル所トス

第二十八條 機關工練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

長 海軍機關少監 一人

教官 海軍大機關士 三人

部長 海軍大機關士 三人 教官ヲ以テ兼補ス

第二十九條 機關工練習所長ハ校長ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教

育ノ責ニ任ス

第三十條 機關工練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第三十一條 部長ハ所長ノ命ヲ承ケ部員ノ紀律ヲ維持シ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且部員ニ係ル事務ヲ掌理ス

第三十二條 第二十八條ニ掲クル職員ノ外機關工練習所ニ左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ

服務セシム

海軍機關師 教員 二人

海軍下士 六人 内三人教員

海軍卒 九人

第三十三條 機關工練習所ニ於テ教育スル海軍機關手及火夫ハ機關工練習生ト稱ス

第三十四條 機關工練習生ト爲ルヘキ者ハ海軍機關手及三等火夫以上ニシテ左ノ諸項ニ適

合スル者タルヘシ

一 年齢三十五年未満ニシテ身體強健ナル者

二 一箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等火夫ヨリ起算ス

三 品行方正ニシテ技能アリ掌機工若クハ掌罐工タルニ堪フヘキ者

四 卒業後七箇年間現役ニ服スヘキ者

五 試験ニ合格シタル者

第三十五條 機關工練習生卒業シタルトキハ掌機工證狀若クハ掌罐工證狀ヲ授與ス其ノ證

狀ハ試験ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ

前項ノ證狀ヲ得タル者ハ掌機工又ハ掌罐工ト稱ス

第三十六條 掌機工及掌罐工ニハ臂章ヲ附與シ且加俸ヲ給ス

第三十七條 海軍機關學校ニ技手練習所ヲ附屬セシム

第三十八條 技手練習所ハ鎮守府造船部及海軍造兵廠ノ職工ニシテ造船造機及造兵ノ技手

出身志願者ヲ生徒ト爲シ之ヲ教育スル所トス

第三十九條 技手練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

長 海軍少技監若クハ海軍大技士 一人

教官 海軍少技監若クハ海軍大技士 一人 所長ヨリ兼務ス  
海軍大技士若クハ海軍少技士 二人

前項定員ノ外本職アル者ヲ以テ教官ニ兼補スルコトヲ得

第四十條 技手練習所長ハ校長ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス

第四十二條 技手練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第四十二條 第三十九條ニ掲クル職員ノ外技手練習所ニ教員トシテ技手二人ヲ置ク

第四十三條 技手生徒ト爲ルヘキ者ハ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ

一 年齡滿二十一年以上三十年未滿ノ者

二 品行方正ニシテ將來技手タルニ堪フヘキ見込アル者

三 鎮守府造船部及海軍造兵廠ニ於テ三百日以上現業ニ服シタル者

四 身體檢査及學術試驗ニ合格シタル者

五 卒業後滿十箇年間海軍ニ從事スヘキ者

第四十四條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ技手生徒ニ採用セス

一 徵兵令第二十八條ニ該ル者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復權ヲ得サル家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

第四十五條 技手生徒ニシテ卒業證書ヲ有スル者ハ海軍技手トナルヘキ資格アルモノトス

第四十六條 技手生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第四十七條 第十七條第三十二條及第四十二條ニ掲クル職員ハ海軍機關學校及兩練習所ニ

通シテ勤務セシムルコトヲ得

附 則

第四十八條 本令ハ明治二十六年十二月二十日ヨリ施行ス

第四十九條 明治二十三年勅令第二百五十三號海軍機關學校條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止

シ該校練習生ハ此ノ際志願ニ依リ直ニ機關工練習生ニ採用ス

第五十條 海軍造船工學校官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止シ該校生徒ハ技手生徒トス

○新原採炭所官制 明治二十六年五月 勅令第五十五號

朕新原採炭所官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



新原採炭所官制

- 第一條 新原採炭所ハ海軍豫備炭山ヲ管轄シ海軍需要ノ石炭ヲ採掘スル所トス
- 第二條 新原採炭所ニ所長一人ヲ置キ海軍大機關士ヲ以テ之ニ補シ若クハ技師ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 所長ハ佐世保鎮守府司令長官ノ命ヲ受ケ所務ヲ整理ス
- 第四條 新原採炭所ニ書記三人技手一人ヲ置ク所長ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

○海軍監獄官官制 明治二十六年五月 勅令第四十三號

朕海軍監獄官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍監獄官官制

- 第一條 海軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 海軍監獄長
  - 海軍監獄書記
  - 海軍監獄看守長
  - 海軍監獄看守

第二條 監獄長ハ奏任トシ書記看守長ハ判任トシ看守ハ判任待遇トス其官等俸給ハ別表ニ依ル

監獄長ハ三人書記ハ六人看守長ハ十人ヲ以テ定員トス

第三條 監獄長ハ海軍士官及主理ヨリ之ヲ選任ス

第四條 書記看守長ハ海軍准士官並服役滿期下士及錄事ヨリ之ヲ選任ス

看守ニシテ職務ニ勉勵シ相當ノ學識アリ五年以上其職ヲ奉シタル者ハ書記若クハ看守長ニ任スルコトヲ得但普通試験ヲ經ルニ非レハ他ノ判任官ニ任スルコトヲ得ス

第五條 看守採用ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第六條 監獄長ハ鎮守府司令長官ノ命ヲ受ケ所屬員ヲ指揮監督シ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第七條 監獄長ハ必要ノ場合ニ於テ看守長若クハ看守ヲシテ書記ノ事務ヲ取扱ハシメ又書記ヲシテ看守長ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第八條 書記ハ庶務會計及給與ノ事務ニ服ス

第九條 看守長ハ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮ス

第十條 看守ハ在監人ノ看守護送門衛ニ任シ其他監獄ノ事務ニ服ス

第十一條 看守長看守職務ニ服スルトキハ刀ヲ帶ヒ制服ヲ着スヘシ

補則

第十二條 書記看守長ハ本令施行ノ際ニ限り第四條ノ規定ニ拘ラス海軍監獄ニ在テ書記ヲ勤メ獄務ニ經驗アル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

(別表)

海軍監獄官官等俸給表

官名	官等俸給					判官	任官	判任官待遇
	高等	七等	八等	九等	十等			
海軍監獄長	一級俸 年俸七百圓	二級俸 年俸六百圓	三級俸 年俸五百圓	一級俸 月俸卅五圓	二級俸 月俸卅圓	三級俸 月俸廿五圓	四級俸 月俸廿圓	一級俸 月俸十圓
海軍監獄書記				二級俸 月俸卅圓	三級俸 月俸廿五圓	四級俸 月俸廿圓	五級俸 月俸十五圓	二級俸 月俸九圓
海軍監獄看守長				三級俸 月俸廿五圓	四級俸 月俸廿圓	五級俸 月俸十五圓	六級俸 月俸十二圓	三級俸 月俸七圓
海軍監獄看守								四級俸 月俸七圓

監獄長一級俸ヲ受ケ七年以上職務ニ勉勵シ功勞アル者ハ年俸八百圓ニ至ルマテ増俸ヲ爲スコトヲ得  
看守十年以上勤績スル者ハ月俸十二圓ヲ給スルコトヲ得

○海軍省官制 明治二十六年五月 勅令第三十六號

朕海軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省官制

- 第一條 海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス
- 第二條 海軍大臣官房ニ主事二人ヲ置キ海軍上長官ヲ以テ之ニ補ス海軍大臣ノ命ヲ受ケ海軍大臣官房ノ事務ヲ掌リ又臨時命ヲ受ケ各局ノ事務ヲ助ク

第二十六年勅令  
第三百二十二號  
海軍省官制  
第三條參照

- 第三條 海軍大臣秘書官ハ二人トシ一人ハ主事ヲ以テ之ヲ兼子シメ一人ハ海軍士官ヲ以テ之ニ補ス海軍大臣ニ專屬シテ機密事務ヲ掌リ又命ヲ受ケ海軍大臣官房ノ事務ヲ助ク
- 第四條 海軍大臣官房ニ人事課ヲ置ク
- 人事課ニ於テハ武官文官ノ進退任免級位敘勳及其他ノ人事並恩給ニ關スル事項ヲ管掌ス
- 第五條 海軍省ニ參事官書記官ヲ置カス
- 第六條 海軍省ニ左ノ二局ヲ置ク
  - 軍務局
  - 經理局
- 第七條 軍務局ニ於テハ鎮守府艦團隊ノ建制、艦隊軍隊ノ編制、役務並一般ノ職務、教育、訓練、演習、檢閱、准士官下士卒ノ進退及其他ノ人事、兵員ノ徵募、軍紀風紀、懲罰、裁判、監獄、戒嚴、徵發、禮式、服制、海上保安、水路、望樓、艦船兵器彈藥ノ製造修理、兵器彈藥ノ經理、船體機關機裝兵裝、艦船ノ保安、工場及武庫ニ關スル事項ヲ管掌シ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第八條 經理局ニ於テハ豫算決算、會計給與、艦營需品、被服糧食治療品通常物品ノ經理、官有財産ノ管理、家屋其他諸營造物ノ營繕、採炭及用度ニ關スル事項ヲ管掌シ金錢及物品ノ收支ヲ監督シ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第九條 軍務局長ハ海軍將官ヲ以テ之ニ補シ經理局長ハ海軍主計總監ヲ以テ之ニ補ス但局長ハ便宜海軍大佐若クハ相當官ヲ以テ之ニ補スルコトヲ得

第十條 人事課長及各局中各課長ハ海軍上長官ヲ以テ之ニ補ス

第十一條 人事課及各局中各課ニ課僚ヲ置キ課長ノ命ヲ受ケ課務ニ從事セシム人事課ノ課僚ハ一人ヲ定員トシ海軍少佐若クハ海軍士官ヲ以テ之ニ補ス各局ノ課僚ハ海軍少佐若クハ相當官海軍士官又ハ主理ヲ以テ之ニ補ス但專務課僚ハ各局四人ヲ以テ定員トス

第十二條 本官制ニ依リ海軍高等武官ヲ以テ補スヘキ職ハ必要ノ場合ニ於テ文官又ハ文官ノ資格アル者ヲ以テ之ニ任スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其官等及俸給額ハ武官ニ準ス

第十三條 海軍省ニ海軍上等兵曹三人海軍機關師一人海軍船匠師一人屬五十四人技手十人録事一人ヲ置キ海軍大臣官房各局課ニ分屬シテ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服セシム録事ハ東京軍法會議勤務ノ者ヲ以テ兼務セシム

○海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ書記ヲ置ク 明治二十四年四月 勅令第四十二號

朕海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ書記ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 海軍省所轄各廳ノ屬ヲ廢シ更ニ書記ヲ置ク

第二條 書記ノ官等俸給ハ明治十九年勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

第三條 書記ノ定員ハ從來定ムル屬ノ定員ニ同シ

第二十四年勅令  
第八十三號  
以テ十九年勅令  
第三十九號  
ヲ廢ス  
第三十類ニ改メ

○水路部條例 明治二十一年六月 勅令第四十九號

朕海軍水路部官制ヲ廢シ水路部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水路部條例

第一條 水路部ハ水路ヲ測量シ兵要及一般ノ海圖ヲ調製シ水路誌ヲ編纂シ圖誌ノ配備其他

航海ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ル所トス (十二年勅令第四十號ヲ以テ) 圖誌ノ下測器ノ二字ヲ削ル

第二條 水路部ニ測量科圖誌科會計課ヲ置ク (十二年勅令第四十號ヲ以テ) 圖誌科ノ下測器ヲ以テ計算課ト改ム

第三條 水路部ニ左ノ職員ヲ置ク (二十六年勅令第四十六號ヲ以テ) 本條ヲ改正ス

部長 海軍佐官 一人

測量科長 海軍少佐 一人

圖誌科長 海軍少佐或ハ大尉 一人

測量班長 海軍少佐或ハ大尉 三人

測量士 海軍尉官或ハ技士 九人

圖誌科僚 海軍尉官 一人

會計課長 書記 一人

第四條 部長ハ海軍軍令部長ニ隸シ部事ヲ整理シ其責ニ任ス (二十二年勅令第四十號ヲ以テ) 參謀本部長トアルヲ參謀部長

ト改メ更ニ二十六年勅令第四十六號ヲ以テ軍令部長ト改ム

第五條 部長ハ其名ヲ以テ水路告示ヲ發シ及外國海軍水路部ト直接通信スルコトヲ得

第六條 測量科長ハ左ノ事項ヲ掌ル

一 各班ヲ部署シ測量教令ヲ下ス事

二 各班測量原圖ノ精査及保管ニ關スル事項

三 各班水路記事ノ調査ニ關スル事項

四 測量經費豫算ニ關スル事項

五 測量ニ係ル報告統計整理ニ關スル事項

第七條 測量科長ハ須要ナル方面ノ測量ニハ班長以下ヲ指揮シテ之ニ從事ス

第八條 測量班長ハ各班ニ長トシテ一方面ノ測量事業ヲ主幹シ測量原圖ヲ調製シ其水路記事及報告書ノ記述ニ從事ス

第九條 測量士ハ各班ニ分屬シテ其業ニ服ス

第十條 測量士ハ時宜ニ依リ一方面ノ測量ニ主幹タラシムルコトアル可シ

第十一條 (二十六年勅令第四十六號ヲ以テ本條削除)

第十二條 圖誌科長ハ左ノ事項ヲ掌ル

一 測量原圖又ハ外國ノ海圖ニ依リ海圖及航海ニ必要ナル圖類ヲ調整刊行スル事

二 水路誌燈臺表其他水路ニ緊要ノ書類ヲ編述又ハ翻譯シテ刊行スル事

三 水路告示ヲ起案スル事

四 内外諸圖書ヲ調査シ及圖誌ヲ増補又ハ改正スル事

五 圖誌ノ購買準備及拂下ニ關スル事項

六 圖誌ヲ各鎮守府ニ配賦シ及新舊圖誌ヲ交換スル事

七 外國ト圖誌ヲ交換スル事

八 圖誌ヲ保管スル事

九 圖誌ノ經費豫算ニ關スル事項

十 圖誌ニ係ル報告統計整理ニ關スル事項

第十三條 圖誌科僚ハ科長ノ命ヲ承ケ圖誌ニ關スル事業ヲ分掌ス

第十四條 (二十六年勅令第四十六號ヲ以テ本條削除)

第十五條 (二十二年勅令第四十號ヲ以テ本條削除)

第十六條 會計課長ハ會計ノ事務及物品ノ保管出納ヲ掌ル (二十六年勅令第四十六號ヲ以テ本條ノ通改ム)

第十七條 第二條ニ掲クル職員ノ外海軍編修一人海軍編修書記一人書記六人技手二十人ヲ

置キ上官ノ命ヲ受ケ部務ニ服セシム (二十三年勅令第二百四十一號ヲ以テ追加)

第十八條 (二十三年勅令第二百四十一號ヲ以テ追加)

第十九條 (二十三年勅令第二百四十一號ヲ以テ追加)

○海軍技術會議條例 明治二十六年五月 勅令第五十三號

朕海軍技術會議條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍技術會議條例

第一條 海軍技術會議ハ東京ニ置キ海軍大臣ノ諮問ニ對シ軍艦ノ構造兵裝及其諸機關竝ニ砲銃水雷彈藥劇發藥ノ設計考案其他技術ニ關スル事項ヲ審議スル所トス

第二條 海軍技術會議議長ハ本職アル海軍將官ヲ以テ之ニ兼補ス但時宜ニ依リ本職アル海軍大佐ヲ以テ兼補スルコトヲ得

議長ハ海軍大臣ニ隸シ會議ノ事務ヲ總理ス

第三條 議長ハ議事ノ性質ニ依リ議員ノ一部ヲ以テ議事ヲ開クコトヲ得

第四條 海軍技術會議ニ幹事一人ヲ置キ海軍上長官若クハ士官ヲ以テ之ニ補ス

幹事ハ議案ノ調査及會議ノ事務ヲ管掌ス

第五條 議員ハ定數ナシ本職アル海軍上長官若クハ士官ヲ以テ之ニ兼補ス

第六條 海軍技術會議ニ書記二人ヲ置キ事務ニ服セシム

○海軍造兵廠條例 明治二十六年五月 勅令第四十四號

朕海軍造兵廠條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造兵廠條例

第一條 海軍造兵廠ハ兵器爆裂物ヲ製造修理購買シ各鎮守府ニ供給スル所トス

第二條 海軍造兵廠ニ製造科検査科會計課及倉庫ヲ置ク

第三條 製造科ハ兵器ノ計畫製造修理竝爆裂物ノ製造ヲ掌ル

第四條 検査科ハ兵器竝爆裂物ノ検査試験保管出納輸送ヲ掌ル

第五條 會計課ハ金錢ノ收支物件ノ購買賣却ヲ掌ル

第六條 倉庫ハ製造材料ノ準備保管出納ヲ掌ル

第七條 海軍造兵廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長 海軍上長官 一人

製造科長 海軍技監 一人

製造科主任幹 海軍機關士、海軍技士、技師 五人

検査科長 海軍少佐或ハ少技監 一人

検査科主任幹 海軍尉官、海軍機關士、海軍技士、技師 四人

會計課長 海軍主計少監或ハ大主計 一人

倉庫主管 海軍大主計 一人

軍醫 海軍軍醫官 二人 但一人ハ海軍衛生會議議員ヨリ一人ハ海軍大學校醫官ヨリ之ヲ兼ス

第八條 廠長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ廠務ヲ總理ス

第九條 科課長及主管ハ廠長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ整理ス

第十條 主幹ハ科長ノ命ヲ受ケ科務ヲ分掌ス

第十一條 第七條ニ掲クル職員ノ外海軍上等兵曹五人技手二十二人書記十八人ヲ置キ各上官ノ命ヲ受ケ服務ス

○造船造兵監督官條例 明治二十六年五月 勅令第五十四號

朕造船造兵監督官條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造船造兵監督官條例

第一條 海軍造船造兵ノ工場ヲ造船部造兵廠外ノ工場ニ委託スルトキハ造船監督官造兵監督官ヲ置キ其事業ヲ監督セシメ會計官ヲ置キ其會計事務ヲ整理セシメ監督助手ヲ置キ監督事務ヲ補助セシム

第二條 造船造兵監督官ハ海軍上長官若クハ士官ヲ以テ之ニ補シ會計官ハ海軍大主計若クハ少主計ヲ以テ之ニ補シ監督助手ハ准士官下士若クハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 造船造兵監督官會計官監督助手ハ定員ヲ定メス豫算定額内ニ於テ造船造兵事業ノ程度ニ應シ須要ノ人員ヲ置ク

第四條 造船造兵監督官會計官ハ海軍省軍務局長ノ指揮監督ヲ受ケ監督助手ハ監督官ノ命ヲ受ケ各其事務ニ服ス

○海軍司計部條例 明治二十六年五月 勅令第四十二號

朕海軍司計部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍司計部條例

第一條 海軍司計部ハ東京及鎮守府所在ノ地ニ之ヲ置キ金錢出納及報告ノ事ヲ掌ル所トス

第二條 海軍司計部ハ東京ニ在ルモノヲ海軍中央司計部ト稱シ鎮守府所在ノ地ニ在ルモノヲ某地海軍司計部ト稱ス

第三條 海軍中央司計部ニ主管一人ヲ置キ海軍主計少監ヲ以テ之ニ補シ計算官一人ヲ置キ海軍大主計ヲ以テ之ニ補ス

第四條 各地海軍司計部ニ主管一人計算官一人ヲ置ク横須賀海軍司計部主管ハ海軍主計少監若クハ海軍大主計ヲ以テ之ニ補シ其他ノ司計部主管ハ海軍大主計ヲ以テ之ニ補シ計算官ハ海軍大主計若クハ海軍少主計ヲ以テ之ニ補ス

第五條 海軍中央司計部主管ハ海軍省經理局長ニ隸シ其部務ヲ整理ス

第六條 各地海軍司計部主管ハ當該鎮守府監督部長ニ隸シ其部務ヲ整理ス

第七條 各海軍司計部計算官ハ主管ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

第八條 海軍司計部ニ書記ヲ置キ各海軍司計部ヲ通シテ二十人トシ須要ニ應シ海軍大臣之ヲ配置ス

第九條 各海軍司計部書記ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

○海軍衛生會議條例 明治二十六年五月 勅令第四十五號  
朕海軍衛生會議條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍衛生會議條例

- 第一條 海軍衛生會議ハ東京ニ置ク
- 第二條 海軍衛生會議ハ海軍大臣ニ隸ス
- 第三條 海軍衛生會議ニ於テ議定スヘキ事項ノ概目ハ左ノ如シ
  - 一 海軍一般ニ施行スヘキ衛生ニ關スル事項
  - 二 流行病傳染病豫防法ノ海軍一般ニ關スル事項
  - 三 治療法ニ關スル事項
  - 四 藥品療用品ノ品種數額ニ關スル事項
  - 五 軍人身體ノ査定法ニ關スル事項
  - 六 軍人糧食ノ品種分量ニ關スル事項
  - 七 軍醫官及軍醫候補生ノ採用教育法
  - 八 軍醫官以下軍醫部人員服務ノ定則
- 第四條 海軍衛生會議ニ於テハ恩給賑恤金ニ關スル診斷書ヲ調査ス

第五條 海軍衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク

- 議長 一人 軍醫總監
- 議員 五人 軍醫監三人 內二人ハ本職アル者ヲ以テ兼補ス  
大軍醫二人

第六條 海軍衛生會議議長ハ議事ヲ整理シ會議ノ事務ヲ總理ス

第七條 海軍衛生會議議長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケテ議案ヲ作り及必要ト認ムルトキハ自ら

議案ヲ發シ議定ノ後其意見ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ

第八條 海軍衛生會議議長ハ常ニ海軍衛生及醫學ニ關スル事項ヲ注視シ並軍醫官ヨリ出ス

所ノ醫務衛生ニ關スル統計報告ヲ審查シ毎年報告ヲ作り海軍大臣ニ呈スヘシ

第九條 海軍衛生會議議長ハ毎年翌年度ニ於テ準備供給スヘキ藥品療養品ノ品種定額及其

豫算金額ヲ定メ海軍大臣ニ具申スヘシ

第十條 海軍衛生會議議長ハ外國ニ航スル艦船ノ軍醫官ニ訓令ヲ下スヲ必要ト認ムルトキ

ハ之ヲ海軍大臣ニ具申スルトヲ得

第十一條 海軍衛生會議議員ハ議事ニ參與シ並議長ノ命ヲ受ケ議定スヘキ事項及諸報告統

計ノ調査ヲ分擔ス

第十二條 本條例第五條ニ掲クル職員ノ外海軍衛生會議ニ藥劑監又ハ藥劑官一人ヲ置キ議  
長ノ命ヲ受ケ藥品療用品ノ調査ニ從事セシム及看護手一人海軍書記六人ヲ置キ庶務ニ從  
事セシム

附則

第十三條 明治二十二年<sup>四</sup>勅令第四十八號並明治二十三年<sup>十</sup>勅令第二百四十三號ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

○海軍大學校條例 明治二十六年十一月 勅令第二百十六號  
朕海軍大學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍大學校條例

第一條 海軍大學校ハ海軍將校ニ高等ノ學術ヲ教授シ樞要ノ職ニ充ツヘキ者ヲ養成シ並ニ海軍機關官及軍醫官ニ高等ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條 海軍大學校ノ學科ハ將校科、機關科及軍醫科ノ三トス

將校科ニ於ケル砲術、水雷術及航海術ハ其ノ一科ヲ專修セシム

第三條 學生ノ學年ハ將校及機關官ハ一箇年半トシ軍醫官ハ一箇年トス

第四條 海軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 海軍少將 一人
- 副官 海軍少佐若クハ大尉 一人
- 教頭 海軍佐官 一人
- 教官 海軍佐官二人 内一人ハ教頭ヲ以テ兼補ス 海軍大尉 二人 海軍機關監 一人 海軍大機關士 一人  
海軍少技監若クハ大技士一人 海軍軍醫監 二人 海軍大軍醫 二人 海軍教授 四人

陸軍參謀若クハ陸軍各兵科ノ佐尉官二人 本職アル者ヲ以テ兼備ス

主計長 海軍大主計 一人

前項定員ノ外本職アル者ヲシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得

第五條 校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ及學術進步ノ責ニ任ス

第六條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第七條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第九條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十一條 海軍大學校ニ於テ教授スル海軍將校、機關官及軍醫官ヲ海軍大學校學生ト稱ス

前項學生ノ外選科生ヲ置キ任意ノ課目ヲ選修セシムルコトヲ得

第十二條 學生ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ選拔ス

將校科學生 海軍大尉ニシテ一箇年以上海上勤務ニ服シ身體強健且勤務勵精ニシテ才學發達ノ見込アル者

機關科學生 海軍大機關士ニシテ一箇年以上海上勤務ニ服シ身體強健且勤務勵精ニシテ才學發達ノ見込アル者

軍醫科學生 海軍大軍醫及海軍少軍醫ニシテ身體強健且勤務勵精ナル者

第十三條 學生選拔ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム



第十四條 學生ハ海軍大臣之ヲ命ス

第十五條 卒業試験ニ及第シタル學生ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十六條 學生ノ學用品ハ自辨トス但授業ニ要スル書籍及器械等ハ其種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

第十七條 海軍大學校ニ書記四人ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

第十八條 本令ハ明治二十六年十二月二十日ヨリ施行ス但軍醫科學生ハ明治二十七年三月三十一日マテ之ヲ置カス

○海軍兵學校條例 明治二十六年十一月 勅令第二百十七號  
朕海軍兵學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍兵學校條例

第一條 海軍兵學校ハ海軍將校ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍兵學校ノ學科ハ砲術、水雷術、運用術、航海術、機關術及普通學トス

第三條 生徒ノ學年ハ四箇年トス

第四條 海軍兵學校ニ練習船ヲ附屬セシムルコトヲ得

第五條 海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長	海軍大佐	一人
副官	海軍大尉	二人 内一人ハ教官ヲ以テ兼補ス
教頭	海軍少佐	一人
砲術教官	海軍少佐	一人
水雷術教官	海軍少佐	三人
運用術教官	海軍少佐	一人
航海術教官	海軍少佐	一人
機關術教官	海軍少佐	一人
普通學教官	海軍教授	七人
監事長	海軍少佐	一人 教官ヲ以テ兼補ス
監事	海軍大尉	九人 内八人ハ教官ヲ以テ兼補ス
軍醫長	海軍軍醫少監	一人
軍醫	海軍大軍醫 海軍少軍醫	一人 一人
主計長	海軍大主計	一人
主計	海軍少主計	一人

本條砲術、水雷術、運用術、航海術、教官ノ内一人ハ教頭ヲ以テ之ニ兼補ス  
本條定員ノ外本職アル者ヲシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得

第六條 校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及生徒教育ノ責ニ任ス

第七條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第八條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第九條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第十條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十一條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ及其ノ體育ノ事ヲ掌  
ル

第十二條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十四條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十六條 主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條 第五條ニ掲クル職員ノ外左ノ職員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等兵曹 教員 三人

海軍機關師 教員 一人

海軍下士 二十八人 内十八人ハ教員

海軍書記 五人

海軍卒 六十人

第十八條 生徒ハ年齢十六年以上十九年未滿ニシテ海軍將校タランコトヲ志願スル者ニ就  
キ身體検査及學術試驗ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採用  
ス

第十九條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復權ヲ得サル家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ク

ハ其ノ相續人

第二十條 生徒ノ召募及検査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十一條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第二十二條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十三條 生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ退學セシム

一 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者

二 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者

三 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

附 則

第二十四條 本令ハ明治二十六年十二月二十日ヨリ施行ス但明治二十六年十二月三十一日  
マテハ機關生徒ヲ置クコトヲ得

○司法省附刑法事務局 刑法官 刑部省 彈正台

沿革略記

明治元年二月五日刑法事務局ヲ置キ職制ヲ定メ督正權輔正權判事等ヲ置ク  
 ○同年閏四月廿一日刑法事務局ヲ廢シ更ニ刑法官ヲ建テ監察鞠捕亡ノ三  
 司ヲ管ス本官ニ正副知官事正權判官事等ヲ置キ三司ニ知司事正權判司事等ヲ置キ其  
 職制ヲ定ム○同年十月十八日刑法官支衛ヲ東京ニ置ク○二年五月二十二日監察司ヲ  
 本官ニ屬ス○同年同月某日小監察ヲ監察司ニ置ク○二年五月二十二日監察司ヲ  
 廢ス京都監察司舊ノ如シ是日彈正台ヲ置キ尹弼大少忠大少疏史生巡察彈正ノ職員  
 ヲ設ケ等級ヲ定ム○同年七月八日刑法官ヲ廢シ更ニ刑部省ヲ置キ卿大少輔正權大  
 少丞正權大少錄大中少判事大中少解部選部長同助長選部等ノ職員ヲ設ケ職制ヲ定  
 ム是日彈正台職制ヲ定メ尹弼正權大少忠大少疏大少巡察巡察局等ヲ置キ京都ニ出  
 張所ヲ設ケ尋テ八月二十日官位相當ヲ更定シ彈正台ニ大少弼ヲ置ク○同年同月二  
 十七日京都留守刑部省ヲ廢ス○同年同月某日彈正台職務條則ヲ定ム○同年八月十  
 七日刑部省所管ノ京都監察司ヲ廢ス○同年九月八日彈正台職務條則ヲ定ム○同年十一  
 月五日刑部省中ニ選部司ヲ置キ省員ヲ正大少佐伍長選部トス○同年十二月二日刑  
 部省中ニ囚獄司ヲ置ク○同年同月八日東京府所屬ノ囚獄ヲ刑部省ニ屬ス○三年二  
 月二十八日彈正台職制ヲ停止ス○同年四月二十九日彈正台大少巡察ニ權官ヲ設ケ  
 定員ヲ定ム○同年五月十日彈正台職制ヲ改正ス○同年七月十三日神主等ノ訴訟事  
 務ヲ刑部省ノ管理トス○同年同月二十五日京都出張彈正台ヲ廢ス○四年正月二十  
 三日彈正台中權大疏權少疏ヲ置ク○同年二月九日彈正台京攝巡察出張所ヲ大阪ニ移  
 シ彈正台出張所ト改稱ス○同年七月九日刑部省並彈正台ヲ廢シ更ニ司法省ヲ置キ  
 舊刑部省ノ囚獄司ヲ假ニ本省ニ屬ス尋テ七月十日職制ヲ定ム○同年八月十日官制  
 ヲ改定シ本省ニ囚獄司ヲ置キ卿大少輔大中少判事正權管事大中少解部正權大中少

錄ヲ本省ニ正權正正權大中少令史ヲ司ニ置ク○同年同月十八日囚獄司ヲ廢シ東京  
 府所屬ノ聽斷斷獄事務ヲ本省ノ管理トス是日捕亡囚獄ノ事務ヲ地方官ニ屬ス○同年  
 九月十四日大藏省ノ聽訟事務ヲ本省ノ管理トス○同年同月二十七日明法案ヲ置ク  
 ○同年十月廿四日判事解部ノ等級ヲ改メ管事ヲ廢ス○五年五月第六十五號ヲ以  
 テ大少丞ヲ置キ等級ヲ定ム○同年八月三日假ニ職制并事務章程ヲ定ム是日第二百  
 十八號ヲ以テ官等ヲ改メ正權大中少檢事檢部ヲ置キ明法案ニ正權頭正權助正權大  
 中少法官正權大中少屬ヲ置ク○同年同月二十日東京府所屬ノ選卒ヲ本省ノ管理ト  
 ス○同年同月第二十四號ヲ以テ警保察ヲ置キ職員ヲ正權頭正權助正權大中  
 少屬正權大少警視警部ト爲ス○同年十月第三十四號ヲ以テ警保察中ニ巡查ヲ置  
 キ等級ヲ定ム○同年十一月二十四日職務定制第六十七條中ヲ改正ス○同年十二月  
 十日職制第四十六條ヲ取消ス○六年一月三十一日事務章程中ニ司法官吏犯罪處分  
 ノ條ヲ追加ス○同年十二月十四日職務定制第四十四條ヲ改正ス○七年一月九日警  
 保察ヲ內務省ニ屬ス○同年同月十日職制中新設內務省職制章程ニ抵觸スル條件ヲ  
 取消ス○同年同月第十四號達ヲ以テ檢事職制章程ヲ定メ正權大中少檢事ノ職員ト  
 爲ス○八年五月第七十一號布告ヲ以テ明法案ヲ廢ス○同年同月四日司法省并檢事  
 職制章程ヲ更定ス○同年同月第七十二號布告ヲ以テ司法省檢事官等ヲ改ム○同年  
 同月第七十三號布告ヲ以テ正權大中少判事及解部ヲ廢シ更ニ判事七等判事補四級  
 ヲ置キ官等ヲ定ム○十年一月第四號達ヲ以テ正權大少丞以下ヲ廢シ更ニ書記官屬  
 官ヲ置ク○同年同月第四號達ヲ以テ四等官以下等級ヲ改メ官等ヲ十七等ニ分ツ○  
 同年三月第三十二號達ヲ以テ本省職制章程ヲ改定シ卿輔書記官屬ト爲シ又檢事職  
 制章程ヲ定メ檢事長檢事檢事補ノ職員ト爲ス○同年六月第四十六號達ヲ以テ一等  
 判事以下四級判事補迄並大檢事以下四級檢事補迄ヲ廢シ更ニ判事判事補檢事長檢  
 事檢事補ヲ置ク○十二年十二月第五十六號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ改定ス○十四年十一月第  
 九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム○十六年十二月第  
 第六十五號達ヲ以テ判事檢事判事補檢事補相當官ヲ定ム○十七年一月第十四號達  
 ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス○十八年十二月第六十九號達ヲ以テ各省

○司法省官制 明治二十六年十月  
 朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○司法省官制 明治二十六年十月  
 勅令第四百三十三號

○司法省官制 明治二十六年十月  
 勅令第四百三十三號ヲ以テ司法省官制ヲ改正ス

○二十五年十一月勅令第九十五號ヲ以テ司法省官制中ヲ改正ス  
 ○二十六年十月勅令第四百三十三號ヲ以テ司法省官制中ヲ改正ス

○二十五年十一月勅令第九十五號ヲ以テ司法省官制中ヲ改正ス  
 ○二十六年十月勅令第四百三十三號ヲ以テ司法省官制中ヲ改正ス

○司法省官制 明治二十六年十月  
 朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

司法省官制

- 第一條 司法大臣ハ各裁判所及檢事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ恩赦及復權ニ關スル事項 其ノ他諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス
- 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 裁判所ノ設立廢止及管轄區域並其ノ變更ニ關スル事項
  - 二 裁判所附屬吏員及辯護士ノ身分ニ關スル事項
- 第三條 司法省專任參事官ハ四人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス
- 第四條 司法省ニ民刑局ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム
  - 一 民事、刑事及其ノ他ノ法律命令ニ關スル事項

- 二 裁判及檢察ノ事務ニ關スル事項
  - 三 恩赦及復權ニ關スル事項
  - 第五條 民刑局長ハ勅任トス
  - 第六條 司法省屬ハ八十人ヲ以テ定員トス
  - 第七條 司法省ニ技手二人ヲ置ク
- 附則
- 第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○文部省 附大學校 大學

沿革畧記 明治元年三月十九日學習院ヲ開ク○同年六月二十六日醫學所ヲ江戸ニ置ク  
 ○同年同月廿九日昌平校ヲ復興ス○同年八月二日昌平校並醫學所ヲ東京府  
 ニ屬ス○同年同月十七日大學寮代ヲ開設ス○同年九月十二日開成所ヲ復興ス○同  
 年同月十六日皇學所漢學所ヲ京都ニ置ク○同年十月十九日昌平校ヲ行政官ニ屬  
 ス○同年十二月十日昌平校開成二校並醫學校ニ教授ヲ置キ又皇學所ノ規則ヲ定  
 ム○同年同月二十五日醫學所ヲ昌平校ノ所轄トス○二年二月某日醫學所ヲ改メテ  
 醫學校兼病院ト稱ス○同年三月二十日府縣學校取調局ヲ昌平校ニ設ケ史料編輯  
 國史校正局ヲ和學所ニ置ク○同年五月十日東京府所屬ノ病院ヲ昌平校ニ屬ス○  
 同年六月十四日府縣學校取調局ヲ罷ム○同年同月十五日昌平校ヲ改メテ大學校ト  
 稱シ開成醫學ノ二校ヲ屬ス○同年七月八日大學校官職ヲ大少監大中少博士大中少

助教等ト定ム○同年八月二十日官位相當ヲ更定シ大學校ニ別當及正權大少丞ヲ置ク○同年九月二日京都皇學所漢學所ヲ廢ス○同年十月二十九日國史編輯局ヲ大學校ニ置ク○同年十一月五日大學校中大少主簿官位相當ヲ改メ權大少主簿ヲ置ク○同年同月十二日大學校ノ職員ヲ別當大少監正權大少丞正權大少主簿ト定ム○同年十二月十七日大學校ヲ大學ト改メ開成所ヲ大學南校醫學校ヲ大學東校ト稱ス○同年同月二十二日國史編輯局ヲ廢ス○三年二月十日天文曆道ヲ大學ニ管セシム○同年同月二十八日大阪醫學南校病院並長崎病院ヲ大學東校ニ管セシム○同年三月十日大學寮長ヲ改メテ舍長ト稱ス○同年四月三日大坂洋學所並化學所ヲ大學南校ニ屬ス○同年七月十二日學制ヲ改正シ假リニ大學本校ヲ閉ツ○同年八月十四日天文曆道局ヲ星學局ト改稱ス○同年十月十八日造幣局所轄ノ大阪醫學所ヲ管ス○同年同月二十五日大阪洋學所ヲ改メテ開成所ト稱シ理學所ヲ開成所ノ分局ト爲ス○同年同月九日箱根病院ヲ大學東校ニ屬ス○同年七月十八日大學ヲ廢シテ文部省ヲ置キ東南二校ヲ管ス○同年同月廿一日東南兩校ノ大學ノ二字ヲ省キ單ニ東校南校ト稱セシム○同年同月廿四日大中小少博士大中小少教授正權大中小少助教ノ教員ヲ置キ官位相當ヲ定ム○同年八月四日大史局所管書籍新刻事務ヲ管ス○同年同月七日文部卿職制ヲ定ム○同年同月十日文部省官制ヲ定メ卿大少輔大少丞正權大中小少錄及大中小少博士大中小少教授大中小少助教ノ職員ト爲ス○同年同月十九日東京府中小學並洋學所ヲ管ス○同年九月十八日大少監ヲ置キ官等ヲ定メ又編輯寮ヲ置キ二等寮ト爲ス○同年十一月十四日長崎縣所屬ノ病院ヲ管ス○同年同月二十三日長崎廣運館ヲ管ス○同年同月二十五日各府縣ノ學校ヲ直轄ス○五年正月第十六號ヲ以テ文部省官等ヲ改正シ編輯寮ニ正權頭正權助正權大中小少屬ト爲ス○同年同月二十八日博物館ヲ設ク○同年六月文部省號外達ヲ以テ博物館中書籍館ヲ設ク○同年八月文部省第十六號ヲ以テ東校ヲ改メ醫學校ト稱シ南校第一及大阪開成所<sup>第四</sup>大長崎廣運館<sup>第六</sup>大ヲ以テ並ニ第一中學ト爲ス○同年九月第二十四號ヲ以テ文部省中大中小少博士以下ノ教官ヲ廢シ更ニ大中小學ニ大中小少教授大中小助教ノ教官ヲ置キ一等ヨリ五等ニ至ル學士ノ稱號ヲ定ム○同年九月第二百六十

二號ヲ以テ編輯寮ヲ廢シ大中小少督學ヲ置ク○同年十月文部省第三十三號ヲ以テ第一大學區督學局本部ヲ置ク○同年同月第三百二十二號ヲ以テ文部省兩省ヲ合併ス○六年三月十九日博物書籍ノ二館并博物館小石川藥園ヲ博覽會事務局ニ合ス○同年五月五日外務省附屬ノ外國語學所ヲ管セシム○同年七月文部省第九十五號ヲ以テ督學局ヲ本省ニ置ク○同年八月第二十九十六號ヲ以テ大少監ヲ廢シ更ニ大中小少視學書記ヲ置キ又教員ノ等次學位ノ稱號ヲ改メ博士學士得業生ノ三級ト爲ス○七年六月十三日海外留學生監督吏員ヲ置ク○八年二月九日復々博物書籍二館博物館及小石川藥園ヲ管セシム○同年五月第八十四號布告ヲ以テ六年八月所定教員ノ等級ヲ廢シ更ニ本省直轄官立學校教員ノ等次ヲ定ム○同年六月第一號布告ヲ以テ省學局官等ヲ改メ大中小少督學大中小少視學大中小少書記ト爲ス○同年二月二十八日衛生准刻ノ事務ヲ內務省ニ屬ス○同年十二月第二百號布告ヲ以テ督學局ノ官等ヲ改定シ更ニ權大中小少書記ヲ置ク○同年同月第二百十七號達ヲ以テ職制章程ヲ定メ職員ヲ卿大少輔正權大少丞正權大中小少錄等及大中小少督學視學書記ト爲ス○十年一月第三號達ヲ以テ各省中諸寮並大少丞以下ヲ廢シ更ニ書記官屬官ヲ置キ等級ヲ定ム○同年同月第四號達ヲ以テ四等官以下ノ等級ヲ改メ官等十七等ニ分ツ○同年同月第十五號達ヲ以テ督學局ヲ廢ス○同年二月二日文部省ヨリ東京博物館ヲ教育博物館ト改稱セシ旨ヲ報告ス○同年四月文部省第二號布達ヲ以テ東京開成學校東京醫學校ヲ合併シテ東京大學ト改稱シ同省第三號達ヲ以テ東京英語學校ヲ東京大學豫備門ト改稱シテ大學ニ附屬ス○同年四月十八日小石川植物園ヲ東京大學ニ屬ス○同年八月第五十八號達ヲ以テ官立學校教員等次ヲ廢シ更ニ東京大學ニ教授助教並員外教授ヲ置キ東京豫備門其他各學校ニ訓導助訓ヲ置ク○十三年一月第七號達ヲ以テ職制章程ヲ改正シ職員ヲ卿大少輔正權大少書記官屬十等ト爲ス○十三年七月文部省第一號布達ヲ以テ東京府書籍館ヲ管シ東京圖書館ト改稱ス○同年十二月第六十號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ改正シ官立學務地方學務編輯報告會計ノ五局ヲ管ス○十四年六月廿四號達ヲ以テ內記局ヲ置ク○同年六月第五十一號達ヲ以テ十年第五十一號達ヲ廢シ更ニ官立學校圖書館教育博物館職制及職員名稱等級ヲ定メ職員ヲ總理長教授助教諭助教諭訓導書記ト爲ス又第五十二號達ヲ以テ府縣

立町村立學校職員名稱并准官等ヲ定ム○同年八月六日教育博物館ヲ東京教育博物館ト改稱ス○同年十一月五日文部省ニ於テ官立學務地方學務內記ノ三局ヲ廢シ更ニ專門學務普通學務庶務ノ三局及內記課ヲ置キ事務掌理ヲ定ム○同年同月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ更ニ諸省事務章程通則ヲ定ム○十五年一月第八號達ヲ以テ府縣立學校書記ノ准官等ヲ定ム○同年同月第九號達ヲ以テ東京大學ニ幹事ヲ置キ職制俸給ヲ定ム○十七年一月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス○同年十月第九十二號達ヲ以テ東京大學ニ副總理ヲ置キ職制俸給ヲ定ム○十八年五月文部省第一號告示ヲ以テ農商務省所轄東京商業學校ヲ管ス○同年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ文部大臣ヲ置ク○同年同月第七十號達ヲ以テ工部大學校ヲ管セシム○十九年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム○同年三月勅令第九號ヲ以テ帝國大學ノ職員官等ヲ定ム○同年四月勅令第三十五號ヲ以テ高等師範學校高等中學校東京商業學校ノ官制ヲ定ム○同年十月勅令第六十五號ヲ以テ尋常師範學校官制ヲ定ム○二十年十月勅令第五十號ヲ以テ文部省官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第五十一號ヲ以テ高等師範學校高等中學校東京商業學校官制中東京商業學校トアルヲ高等商業學校ニ改メ其下ニ東京職工學校東京高等女學校東京美術學校東京音樂學校東京盲啞學校ノ三十一字ヲ加フ○二十一年十二月勅令第八十一號ヲ以テ天象觀測及歷書調製ノ事業ヲ文部省ノ管理トス○二十二年三月勅令第二十一號ヲ以テ東京圖書館官制ヲ定ム○二十三年三月勅令第四十二號ヲ以テ女子高等師範學校ヲ置ク○同年同月勅令第四十三號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制中ヲ改正ス○同年六月勅令第九十二號ヲ以テ東京農林學校ヲ帝國大學ノ分科大學トス○同年同月勅令第一百號ヲ以テ文部省官制ヲ改正ス○同年十月勅令第二百二十三號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ヲ改正ス○同年同月勅令第二百三十四號ヲ以テ東京圖書館官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第二百六十四號ヲ以テ東京學士會員規定ヲ定ム○二十四年七月勅令第九十三號ヲ以テ文部省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第二百三十六號ヲ以テ客年勅令第二百七十號ヲ廢シ更ニ帝國大學職員ヲ定ム○同年同月勅令第二百三十七號ヲ以テ文部省直轄學校官制ヲ改正ス○同年

同月勅令第三百三十八號ヲ以テ東京圖書館官制ヲ改正ス○同年同月勅令第四百一十一號ヲ以テ文部省直轄諸學校教官人員ヲ定ム○同年十一月勅令第二百十七號ヲ以テ尋常師範學校官制ヲ改正ス○二十五年六月勅令第五十五號ヲ以テ震災豫防調査會官制ヲ定ム○同年同月勅令第五十六號ヲ以テ文部省官制第十二條ヲ改正ス○二十六年六月勅令第六十二號ヲ以テ東京音樂學校高等師範學校附屬トシ高等商業學校附屬主計學校ヲ廢止ス○同年八月勅令第八十三號ヲ以テ帝國大學官制ヲ定ム○同年同月勅令第八十五號ヲ以テ尋常師範學校官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第八十六號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ヲ改正ス○同年同月勅令第八十七號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員ヲ定メ二十四年勅令第四百一十一號ヲ廢止ス○同年同月勅令第八十九號ヲ以テ東京圖書館官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第九十號ヲ以テ震災豫防調査會官制中ヲ改正ス○同年七月勅令第三百三十二號ヲ以テ中央氣象臺官制中ヲ改正シ內務省ヨリ文部省ノ管轄ニ移ス○同年同月勅令第三百三十四號ヲ以テ氣象臺測候所條例中ヲ改正シ內務省ヨリ文部省ノ管理ニ移ス○同年同月勅令第四百四十四號ヲ以テ文部省官制ヲ改正ス○同年十一月勅令第二百八號ヲ以テ札幌農學校ニ關スル件ヲ定ム尋テ二十四年勅令第四百四十二號同年勅令第四百四十三號及二十六年勅令第九十五號ヲ廢止ス

○文部省官制 明治二十六年十月 勅令第四百四十四號

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省官制

第一條 文部大臣ハ教育學問ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル

一 公立學校職員ノ進退身分ニ關スル事項

二 教員檢定ニ關スル事項

三 教科用圖書ニ關スル事項

四 教員退隱料及遺族扶助料ニ關スル事項

第三條 文部省專任參事官ハ五人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス

文部省參事官ハ通則ニ掲クル職務ノ外學事ノ視察及學校檢閱ノ事ヲ掌ル

第四條 文部省ニ左ノ二局ヲ置ク

專門學務局

普通學務局

第五條 專門學務局長及普通學務局長ハ勅任トス

第六條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 大學校及高等專門學校ニ關スル事項

二 中學校ニ關スル事項

三 專門學校及技藝學校ニ關スル事項

四 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

五 東京圖書館、天文臺等ニ關スル事項

六 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項

七 學術技藝ノ保護獎勵ニ關スル事項

八 學士會院ニ關スル事項

第七條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 師範學校ニ關スル事項

二 小學校ニ關スル事項

三 高等女學校ニ關スル事項

四 幼稚園及盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ニ關スル事項

五 圖書館、教育博物館及教育會ニ關スル事項

六 通俗教育ニ關スル事項

七 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項

八 郡視學及市町村學務委員ニ關スル事項

第八條 文部省ニ技師二人ヲ置ク學校建築ニ關スル事ヲ掌ル

第九條 文部省屬ハ八十人ヲ以テ定員トス

附 則

第十條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○帝國大學官制 明治二十六年八月 勅令第八十三號

朕帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國大學官制

第一條 帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長

書記官

書記

第二條 總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ帝國大學一般

ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條 書記官ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條 書記ハ判任トス庶務會計ニ從事ス

帝國大學及分科大學書記ハ通計五十二人ヲ以テ定員トス

第五條 第一條職員ノ外帝國大學ニ舍監四人ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

舍監ハ總長ノ命ヲ承ケ寄宿生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第六條 各分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

教授

助教授

助手

書記

第七條 教授ハ奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研

究ヲ指導ス

教授ニシテ分科大學長及醫科大學醫院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアル

ヘシ

專任教授ハ七十五人ヲ以テ定員トシ其ノ勅任トナス者ハ十二人以内トス

第八條 助教授ハ奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

專任助教授ハ三十五人ヲ以テ定員トス

第九條 助手ハ判任トス教官ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス

助手ハ八十人ヲ以テ定員トス

第十條 第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ

補ス

分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ帝國大學總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事

ヲ掌ル

第十一條 醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ帝國大學總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第十二條 理科大學附屬東京天文臺ニ天文臺長ヲ置キ理科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス



天文臺長ハ帝國大學總長監督ノ下ニ於テ東京天文臺ノ事ヲ掌理ス

第十三條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

○

○文部省直轄諸學校官制 明治二十六年八月 勅令第八十六號

朕文部省直轄諸學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校官制

第一條 文部省直轄諸學校ハ高等師範學校女子高等師範學校高等商業學校第一高等中學校

第二高等中學校第三高等中學校第四高等中學校第五高等中學校東京工業學校東京美術學

校及東京盲啞學校トス

諸學校通則第一條ニ依リ文部大臣ノ管理ニ屬スル高等中學校ハ山口高等中學校及鹿兒島

高等中學校造士館トシ總テ此ノ官制ノ規定ニ依ラシム

第二條 高等師範學校ニ附屬尋常中學校及附屬小學校ヲ置キ附屬音樂學校及東京教育博物

館ヲ附設ス

第三條 女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校及附屬幼稚園ヲ置ク

第四條 東京工業學校ニ附屬職工徒弟學校ヲ置ク

第五條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

助教授

書記

第六條 校長ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第七條 教授ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ判任トス教授ノ職務ヲ助ク

第八條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條 高等師範學校及女子高等師範學校ニ舍監ヲ置ク他ノ學校ニ於テ舍監ヲ置クノ必要

アルトキハ教官ヨリ兼任セシム

舍監ハ奏任トス校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第十條 高等師範學校及女子高等師範師範校ニ第五條及第九條職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

教諭

助教諭

訓導

第十一條 教諭ハ奏任トス附屬尋常中學校及附屬高等女學校ノ生徒ヲ教授シ兼テ師範生徒

ノ實地授業ヲ監督ス

助教諭ハ判任トス教諭ノ職務ヲ助ク

第十二條 訓導ハ判任トス附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

第十三條 女子高等師範學校ニ保母ヲ置ク判任トス附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十四條 東京盲啞學校ニ教授助教ヲ置カス訓導ヲ置ク判任トス生徒ノ授業ヲ掌ル

第十五條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教

官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ

授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十六條 文部大臣ハ高等師範學校女子高等師範學校高等中學校及東京工業學校教官ノ中

ヨリ各其ノ附屬學校主事東京教育博物館主事附屬幼稚園主事專門學部主事ヲ命シ其ノ事

務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十七條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委

員ハ文部大臣之ヲ命ス

附則

第十八條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

○

○文部省直轄諸學校職員定員 明治二十六年八月 勅令第八十七號

朕文部省直轄諸學校職員定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校職員定員

第一條 文部省直轄諸學校職員ノ定員ハ左ノ如シ但兼任ハ此ノ限ニアラス

高等師範學校

校長 一人

教授 本 十五人  
附屬音樂學校 五人

助教授 本 三人  
附屬音樂學校 四人

教諭 三人

助教諭 八人

訓導 十二人

舍監 一人

書記 本 八人  
附屬音樂學校 二人

女子高等師範學校

校長 一人

教授 十人

助教授 三人

教諭 四人

助教諭 八人

訓導 九人

舍監	一人
保姆	七人
書記	五人
高等商業學校	
校長	一人
教授	十二人
助教授	十二人
書記	七人
第一高等中學校	
校長	一人
教授	四十五人
助教授	十五人
書記	十二人
第二高等中學校	
校長	一人
教授	二十三人
助教授	十三人
書記	六人

第三高等中學校	
校長	一人
教授	三十五人
助教授	二十人
書記	十一人
第四高等中學校	
校長	一人
教授	三十人
助教授	十五人
書記	六人
第五高等中學校	
校長	一人
教授	三十五人
助教授	十五人
書記	十人
山口高等中學校	
校長	一人
教授	十人

助教授	六人
書記	五人
鹿兒島高等中學造士館	
校長	一人
教授	十人
助教授	六人
書記	五人
東京工業學校	
校長	一人
教授	十人
助教授	二十三人
書記	五人
東京美術學校	
校長	一人
教授	十一人
助教授	十人
書記	四人
東京盲啞學校	

校長	一人
訓導	六人
書記	二人

附則

第二條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス  
 第三條 明治二十四年勅令第四百一十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○ 札幌農學校職員定員 明治二十六年十一月  
 勅令第二百八號

札幌農學校ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 第一條 札幌農學校ハ文部省直轄學校トス  
 第二條 文部大臣ハ便宜北海道廳長官ニ委任シテ札幌農學校ヲ監督セシムルコトヲ得  
 第三條 札幌農學校職員ノ定員ハ左ノ如シ但兼任ハ此ノ限ニアラス

校長	一人
教授	六人
助教授	十人
書記	六人

附則

- 第四條 本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス
- 第五條 明治二十四年勅令第四百十二號同年勅令第四百十三號及明治二十六年勅令第九十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○尋常師範學校官制 明治廿四年十一月  
勅令第二百十七號

朕尋常師範學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

尋常師範學校官制

- 第一條 尋常師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 學校長
  - 教諭
  - 助教諭
  - 舍監
  - 訓導
  - 書記

第二條 教諭助教諭舍監訓導及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但教諭ノ中一人ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三條 學校長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督シ兼テ其府縣内ニ於ケ

ル小學教育ニ屬スル學事ヲ視察ス(二十六年勅令第八十五號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第四條 教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第五條 助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條 舍監ハ教諭助教諭ノ中ヨリ之ニ兼任ス

舍監ハ學校長ノ命ヲ承ケ寄宿舍ニ關スル事ヲ掌ル

第七條 訓導ハ附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌ル

第八條 書記ハ學校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條 教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員及俸額ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 府縣知事ハ教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

附則

第十一條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

○東京圖書館官制 明治二十四年七月  
勅令第三百三十八號

朕東京圖書館官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京圖書館官制

第一條 東京圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ内外古今ノ圖書記録ヲ蒐集保存シ及衆庶ノ閱

覽參考ノ用ニ供スル所トス

第二條 東京圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長 一人 奏任

司書 七人 判任(以テ二十六年勅令第八十九號ヲ)

書記 二人 判任(以テ二十六年勅令第八十九號ヲ)

第三條 館長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 司書ハ館長ノ命ヲ承ケ圖書ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 書記ハ館長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第六條 (二十六年勅令第八十九號ヲ以テ本條ヲ削除)

第七條 文部大臣ハ館務上ノ須要ニ依リ東京圖書館ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其

委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○

○中央氣象臺官制明治二十三年八月勅令第五百十六號

朕中央氣象臺官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中央氣象臺官制

第一條 中央氣象臺ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル(二十六年勅令第三百三十二號ヲ以テ內務大臣ヲ文部大臣ニ改ム)

一 氣象觀測

二 氣象報告

三 氣象調査

四 氣象觀測器械検査

五 天氣豫報

六 暴風警報

七 地震驗測

八 地磁氣驗測

九 空中電氣驗測

十 空氣驗測

第二條 中央氣象臺ニ左ノ職員ヲ置ク

臺長

技師

(二十六年勅令第三百三十二號ヲ以テ本項ヲ削除ス)

技手

書記

第三條 臺長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ文部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ內務ヲ管理シ所屬職員ヲ統

督ス(二十六年勅令第三百三十二號ヲ以テ內務大臣ヲ文部大臣ニ改ム)

第四條 技師ハ奏任トシ三人ヲ以テ定員トス臺長ノ指揮ヲ承ケ内務ヲ分掌ス(二十四年勅令百六號ヲ以テ四人ヲ三)ハニ改ム

(二十六年勅令第三百三十二號ヲ以テ本項ヲ削除ス)

第五條 技手ハ判任トシ九人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ内務ニ從事ス(二十四年勅令百三十二號ヲ以テ十人ヲ九人ニ改ム)

第六條 書記ハ判任トシ二人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス(二十四年勅令百三十二號ヲ以テ三人ヲ二人ニ改ム)

第七條 事務ノ分課ハ文部大臣之ヲ定ム(二十六年勅令第三百三十二號ヲ以テ內務大臣ヲ文部大臣ニ改ム)

○氣象臺測候所條例 明治二十年八月 勅令第四十一號

朕氣象臺測候所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

氣象臺測候所條例

第一條 東京ニ中央氣象臺ヲ置キ地方便宜ノ場所ニ地方測候所ヲ置ク其位置ハ文部大臣之ヲ指定ス(二十六年勅令第三百三十四號ヲ以テ內務大臣ヲ文部大臣ニ改ム)

第二條 前條ノ外測候所ヲ設置セントスル者アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ(二十六年勅令第三百三十四號ヲ以テ內務大臣ニ改ム)

第三條 中央氣象臺ハ文部大臣之ヲ直轄シ地方測候所ハ地方長官之ヲ管理シ文部大臣之ヲ

監督ス其他ノ測候所ハ地方長官之ヲ監督ス(二十六年勅令第三百三十四號ヲ以テ內務大臣ヲ文部大臣ニ改ム)

第四條 地方測候所ノ費用ハ該測候所所在地ノ地方稅ヲ以テ支辨ス可シ

第五條 中央氣象臺及各測候所ハ事業上互ニ氣脈ヲ通シ通信ヲ爲ス可シ

第六條 本條例施行ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム(二十六年勅令第三百三十四號ヲ以テ內務大臣ヲ文部大臣ニ改ム)

○氣象臺測候所條例施行細則 二十五年五月 內務省令第五號

氣象臺測候所條例施行細則左ノ通改定ス

第一條 中央氣象臺ハ全國ノ氣象事業ヲ統轄シ全國ノ氣象ヲ調査シ全國ニ天氣豫報暴風

警報ヲ發スル所トス

第二條 地方測候所ハ所在地ノ氣象ヲ觀測シ所屬應管内ノ氣候ヲ調査シ並ニ中央氣象臺

ノ天氣豫報ニ基キ地方天氣豫報ヲ發スル所トス

第三條 地方測候所ヲ分テ一等二等トス

一等測候所ハ晴雨計寒暖計乾濕計最高最低寒暖計日溫計地溫計地中寒暖計風力計風信

器雨量計蒸發計日照計地震計等ヲ備ヘ毎時觀測シテスモノトス

但自記器械ヲ備フルモノハ其觀測ヲ一日六回トナスコトヲ得

二等測候所ハ晴雨計寒暖計乾濕計最高最低寒暖計風力計風信器雨量計地震計等ヲ備ヘ

一日六回ノ觀測ヲ爲スモノトス

第四條 地方測候所ハ中央氣象臺ヨリ暴風警報ヲ受マルトキ及天候不穩ト認メタルトキ

ハ前條觀測ノ外ニ臨時數回ノ觀測ヲ爲ス可シ

第五條 地方測候所ハ中央氣象臺ニ向ヒ左ノ報告ヲ爲ス可シ

氣象電報

一周年事業報告

雷雨報告

動物報告

植物報告

便宜交換ス可シ

第六條 條例第五條ノ主旨ニ基キ地方測候所ハ氣象月報氣象年報及氣象五年報ヲ印刷シ

第七條 觀測ノ時刻方法器械ノ品位報告ノ書式及期限等ハ中央氣象臺ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定ム可シ

第八條 内務大臣ハ隨時中央氣象臺技師ヲシテ地方測候所ヲ巡閱セシム

第九條 條例第二條ニ依リ測候所ヲ設置セントスル時ハ左ノ諸件ヲ詳記シ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ノ許可ヲ請フ可シ

一 設立ノ位置及地勢測候所ノ位置ヲ示シタル略圖ヲ添フルヲ要ス

二 使用スヘキ器械ノ明細書

三 維持ノ方法

第十條 條例第四條ノ地方測候所ハ北海道廳ニ於テハ本廳費沖繩縣ニ於テハ地方費ヲ以テ支辨ス可シ

附則

第十一條 本則第二條ノ地方天氣豫報ヲ發スルニハ當分ノ内務大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第十二條 市町村又ハ人民ニ於テ新ニ警報信號表ヲ設立セント欲スル時ハ地方長官ノ許可ヲ請フ可シ

第十三條 地方長官新ニ警報信號表ヲ設立シ或ハ其設立ヲ許可セハ實施ヨリ少クモ三十日前其明細書及ヒ位置ヲ示シタル略圖ヲ添ヘ中央氣象臺ニ通知ス可シ

第十四條 既設ノ警報信號標ニ異動ヲ生シタル時ハ地方長官ハ之ヲ中央氣象臺ニ通知ス可シ

第十五條 前二個條ノ場合ニ於テハ中央氣象臺ヨリ之ヲ全國ニ告示ス可シ



○震災豫防調査會官制 明治二十五年六月 勅令第五十五號

朕震災豫防調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

震災豫防調査會官制

第一條 震災豫防調査會ハ會文部大臣ノ監督ニ屬シ震災豫防ニ關スル事項ヲ攻究シ其施行方

法ヲ審議ス

第二條 震災豫防調査會ハ事務ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第三條 震災豫防調査會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 會長 一人

二 幹事 一人

三 委員 二十五人

第四條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ヲ充ツ委員ハ理學及工學専門ノ者ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依

リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ委員ノ内ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 調査上必要アルトキハ震災豫防調査會ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得

臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條 會長ハ震災豫防調査ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第七條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條 震災豫防調査會ノ職員ニハ一箇年三百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

但特別ノ調査ヲ擔任シ勤勞著シキ者アルトキハ本條制限以外ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第九條 震災豫防調査會ニ書記ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

書記ハ定員二人トシ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ(二十六年勅令第九十號ヲ以テ定員三人トシ之ニ改ム)

第十條 調査上必要アルトキハ會長ハ臨時雇員ヲ使用スルコトヲ得



○農商務省

沿革略記 明治十四年四月第二十五號達ヲ以テ農商務省ヲ置キ職制並事務章程ヲ定メ  
 書記農務商務工務山林驛遞博物會計ノ諸局及農商工上等會議ノ九ニ分ツ  
 同年同月第二十六號達ヲ以テ內務省所屬ノ驛遞山林博物勸農ノ四局並大藏省ノ商務  
 局ヲ管ス○同年八月第七十八號達ヲ以テ職制第一項ヲ増補ス○同年十一月第九十  
 四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム○十五年四月第二十  
 號達ヲ以テ職制第二項ヲ改正ス○同年五月第二十六號達ヲ以テ駒場農學校職制ヲ  
 定メ職員ヲ校長教授助教ト爲ス○同年八月第四十七號達ヲ以テ五等六等ノ驛遞官  
 ヲ置キ奏任トス一等屬ノ上等給ヲ廢ス○同年九月第五十六號達ヲ以テ駒場農學校  
 職制ヲ廢シ更ニ本省所轄學校職制ヲ定メ職員ヲ校長幹事教授助教ト爲ス○十六年  
 三月第十三號達ヲ以テ技術等級ヲ定メ職員ヲ正權大少技長技手一等ヨリ十等ニ至  
 ルヲ置ク○十七年一月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス○十八  
 年一月第三號達ヲ以テ農商務省職制及驛遞官職制中ヲ改正ス○同年六月廿六號達  
 ヲ以テ技術等級表中ヲ改正ス○同年五月文部省告示第一號ヲ以テ東京商業學校ヲ  
 文部省ノ管轄トス○同年十二月第六十九號達ヲ以テ各省州ノ職制ヲ廢シ更ニ農商  
 務大臣ヲ置ク○同年同月第七十號達ヲ以テ逓信省ヲ置キ驛遞管船ノ事務ヲ管理セ  
 シメ鑛山工作ノ事務ヲ本省ニ屬ス○十九年一月第一號達ヲ以テ三池佐渡生野鑛山  
 ノ事務ヲ大藏省ノ管理ニ屬ス○同年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム○同年四月  
 勅令第十八號ヲ以テ駒場農學校東京山林學校大小林區署官制ヲ定ム○同年同月閣令  
 第七號ヲ以テ三田農具製作所貯木所錦織綱場富岡製絲所千住製絨所新町紡績所官  
 制ヲ定ム○同年同月閣令第九號ヲ以テ下總牧場ノ官制ヲ定ム○同年七月勅令第五  
 十六號ヲ以テ駒場農學校及東京山林學校ヲ廢シ更ニ東京農林學校ヲ置キ官制ヲ定

ム○二十年十二月勅令第七十三號ヲ以テ專賣特許局ヲ廢シ更ニ特許局ヲ置キ官制  
 ヲ定ム○二十一年七月第五十二號ヲ以テ千住製絨所ヲ陸軍省ニ屬ス○同年十二月  
 勅令第八十七號ヲ以テ特許局官制中ヲ改正ス○二十二年三月閣令第七號ヲ以テ錦  
 織綱場官制ヲ廢ス○二十三年六月勅令第九十二號ヲ以テ東京農林學校ヲ帝國大學  
 ノ分科大學トナシ十九年勅令第五十六號東京農林學校官制ヲ廢ス○同年同月勅令  
 第百二號ヲ以テ農商務省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第百三號ヲ以テ地質調査所  
 官制ヲ定ム○同年七月勅令第百十六號ヲ以テ富岡製絲所官制ヲ改正ス○同年同月  
 勅令第百二十七號ヲ以テ大小林區署官制ヲ改正ス○二十四年七月勅令第九十四號  
 ヲ以テ農商務省官制ヲ改正シ地質調査所官制ヲ廢ス○同年同月勅令第百四十四號  
 ヲ以テ大小林區署官制ヲ改正シ○同年同月勅令第百四十五號ヲ以テ鑛山監督署官  
 制ヲ定ム○二十六年四月勅令第十八號ヲ以テ農事試驗場官制ヲ定ム○同年同月勅  
 令第二十一號ヲ以テ水産調査所官制ヲ定ム○同年十月勅令第百六號ヲ以テ富岡製  
 絲所官制ヲ廢止ス○同年同月勅令第百四十六號ヲ以テ農商務省官制ヲ改正ス○同  
 年同月勅令第百四十七號ヲ以テ大小林區署官制ヲ改正ス○同年同月勅令第百四十  
 八號ヲ以テ鑛山監督署官制ヲ改正ス

○農商務省官制 二十六年十月 勅令第百四十六號

朕農商務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農商務省官制

第一條 農商務大臣ハ農商工水産林野鑛山發明意匠商標及地質ニ關スル事務ヲ管理ス  
 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外内外博覽會及褒賞ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 農商務省專任參事官、專任書記官ハ各一人ヲ以テ定員トス

第四條 農商務省ニ左ノ局所ヲ置ク

農務局

商工局

山林局

鑛山局

特許局

地質調査所

第五條 農務局長、商工局長及山林局長ハ勅任トシ鑛山局長、特許局長及地質調査所長ハ奏任トス

地質調査所長ハ局長又ハ技師ヲシテ之ヲ兼テシム

第六條 農務局ニ於テハ農事蠶絲製茶、畜産、家畜衛生、狩獵及水産ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 商工局ニ於テハ商、工、度量衡及商事會社ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 山林局ニ於テハ官有森林原野及民有森林ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 鑛山局ニ於テハ鑛業ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 特許局ニ於テハ發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル

特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル圖書、見本及雛形ヲ保管セシム

第十一條 地質調査所ニ於テハ地質、土性、地形及分析ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條 特許局ニ專任審判官一人專任審査官五人審査官補十人ヲ置ク

審判官ハ奏任トス審判ノ事ヲ掌ル

審査官ハ奏任トス審査ノ事ヲ掌ル

審査官補ハ判任トス審査ノ事務ヲ助ク

第十三條 農商務省ニ專任技師三十人專任技手五十五人ヲ置ク

第十四條 農商務省屬ハ百六十五人ヲ以テ定員トス

附則

第十五條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○大小林區署官制 明治二十六年十月 勅令第四百四十七號

朕大小林區署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大小林區署官制

第一條 大林區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 官林ノ施業ニ關スル事項

二 官林ノ產物賣拂ニ關スル事項

三 官林ノ境界調査及分合ニ關スル事項

四 官林ノ賣拂及貸渡ニ關スル事項  
五 小林區署業務監督ニ關スル事項

第二條 大林區署ニ左ノ職員ヲ置ク

林務官

林務官補

書記

第三條 各大林區署長ハ一人林務官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 林務官ハ奏任トシ各大林區署ヲ通シテ二十人ヲ以テ定員トス大林區署ニ分屬シ署務ニ從事ス

第五條 林務官補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ七十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第六條 書記ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ九十六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條 小林區署ハ大林區署ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 官林ノ保護ニ關スル事項

二 官林ノ栽培及土功ニ關スル事項

三 官林ノ產物採取及賣拂ニ關スル事項

四 官林ノ測量及製圖ニ關スル事項

第八條 小林區署ニ左ノ職員ヲ置ク

營林主事

營林主事補

森林監守

第九條 營林主事ハ判任トシ各小林區署ヲ通シテ三百八十七人ヲ以テ定員トス小林區署長トナリ上官ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

第十條 營林主事補ハ判任トシ各小林區署ヲ通シテ六百八十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第十一條 森林監守ハ判任トシ各小林區署ヲ通シテ七百二十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ官林ノ保護ニ從事ス

第十二條 農商務大臣ハ事務ノ必要ニ依リ小林區署職員ヲ大林區署ニ臨時勤務セシムルコトヲ得

第十三條 大林區署ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第十四條 小林區署ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

附則

第十五條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

(別表)

大林區署名稱位置管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
青森大林區署	陸奥國 青森	青森縣
秋田大林區署	羽後國 秋田	秋田縣
宮城大林區署	陸前國 仙臺	宮城縣
東京大林區署	武藏國 東京	東京府 埼玉縣 千葉縣 茨城縣 群馬縣
長野大林區署	信濃國 長野	長野縣 富山縣 石川縣 新潟縣 岐阜縣
大阪大林區署	攝津國 大阪	大阪府 京都府 滋賀縣 三重縣 和歌山縣
廣島大林區署	安藝國 廣島	廣島縣 山口縣 島根縣 鳥取縣 岡山縣
高知大林區署	土佐國 高知	高知縣 愛媛縣 香川縣 德島縣
福岡大林區署	筑前國 福岡	福岡縣 佐賀縣 長崎縣 大分縣
熊本大林區署	肥後國 熊本	熊本縣 鹿兒島縣 宮崎縣

○鑛山監督官制 明治二十六年十月 勅令第四百四十八號

朕鑛山監督官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鑛山監督官制

第一條 鑛山監督署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鑛山監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 鑛山監督署ニ左ノ職員ヲ置ク

鑛山監督官

技師

書記

技手

第三條 鑛山監督官ハ奏任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ四人ヲ以テ定員トス鑛山監督署長トナリ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ各鑛山監督署ヲ通シテ六人ヲ以テ定員トス各監督署ニ分屬シ署長ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第五條 書記ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ二十四人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 技手ハ各鑛山監督署ヲ通シテ三十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第七條 鑛山監督署ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

附 則

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

(別表) (二十七年勅令第二十一號ヲ以テ秋田鑛山監督署ノ管轄ノ北海道ヲ東京鑛山監督署ノ管轄ニ移ス)